

竈 北壁の中央部に付設され、袖部の一部が残存している。焚口から煙道部まで120cm、袖部最大幅120cmで、煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。第8・9層は袖部と基部で、ロームで台形状に基部を作り出し、その上に粘土・砂を積み上げて袖部を構築している。火床部はあまり火熱を受けていない。

甕土層解説

- |       |                            |       |                            |
|-------|----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量           | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量           |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量           |
| 3 暗灰色 | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗灰色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土ブロック微量   | 9 褐色  | ロームブロック中量                  |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量           |       |                            |

ピット 1か所。深さは15cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入口施設に伴うピットである。

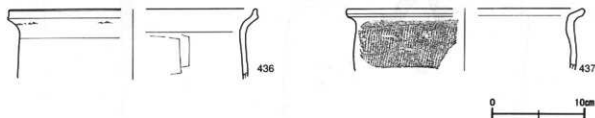
覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |                          |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | 砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量        | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量         |

遺物出土状況 土師器片172点（坏類15、甕類157）、須恵器片34点（坏類27、瓶類7）が出土しており、土器片の中で底部片などから推定される個体数は、土師器甕2点、須恵器坏2点、須恵器瓶1点である。これらの遺物は、全体的に覆土上層から下層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、覆土中の土器から8世紀中葉と推定される。



第119図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
436	土師器	甕	[26.4]	(7.4)	—	石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	東部下層	5%
437	須恵器	甕	[25.4]	(6.5)	—	長石・スコリア	暗灰黄	普通	口縁部内・外面横ナデ	東部下層	5%

第49号住居跡（第120図）

位置 調査I区北部のI4g0区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第512号土坑を掘り込み、第8号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出され、西壁だけが確認されたが、主柱穴の配置や床面の状況などから、長軸5.50m、短軸4.75mほどの長方形と推定され、主軸方向はN-82°-Wである。

床 ほぼ平坦で、中央部の南寄りと北西部が踏み固められている。

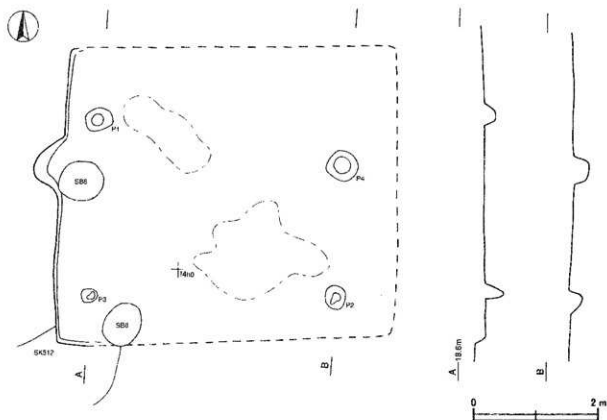
竈 西壁の中央部に付設され、天井部や袖部は残存していない。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は第8号掘立柱建物跡に掘り込まれて残存していない。

ピット 4か所。主柱穴はP1～P3で、深さは20cmほどである。P1と対応する主柱穴を北東コーナー部で

精査したが、確認されなかった。P4は深さ30cmほどで、東南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

遺物出土状況 須恵器片1点(坏類)が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 本跡は出土土器が細片であるため、時期判断が困難である。須恵器片が出土しているため、8世紀から9世紀代の可能性も考えられる。



第120図 第49号住居跡実測図

### 第50号住居跡 (第12114)

位置 調査1区中央部のJ4a9区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸2.80m、短軸2.75mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は15cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の左袖部の周辺が踏み固められている。

竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設され、左袖部の一部が残存している。規模は焚口から煙道部まで80cmで、袖部最大幅は85cm前後と推定される。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖部はローム・粘土・砂で構築され、火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

#### 竈土層解説

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量       | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量         |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |       |                        |

ピット 1か所。深さは15cmほどで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

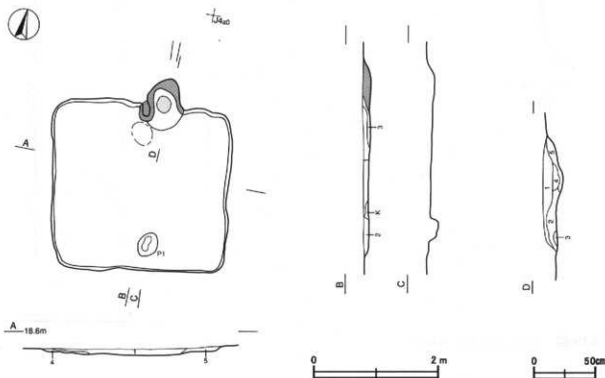
覆土 5層からなるが、覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子中量、炭化物微量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量   |       |                       |

遺物出土状況 土師器片74点(坏類3, 変類71), 須恵器片30点(坏類3, 変類27)が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 本跡は、出土土器が細片のため、明確な時期判断が困難である。出土土器がいずれも8世紀から9世紀代と考えられるため、その時期と推定されるが、支柱穴が伴わない小形の住居跡であることから、新しい時期が想定される。



第121図 第50号住居跡実測図

第51号住居跡 (第122図)

位置 調査1区中央部のJ4 b5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたが、床面の状況などから長軸3.25m, 短軸3.10mの方形と推定され、主軸方向は $N-22^{\circ}-W$ である。

床 ほぼ平坦で、中央部から竈前にかけて踏み固められている。

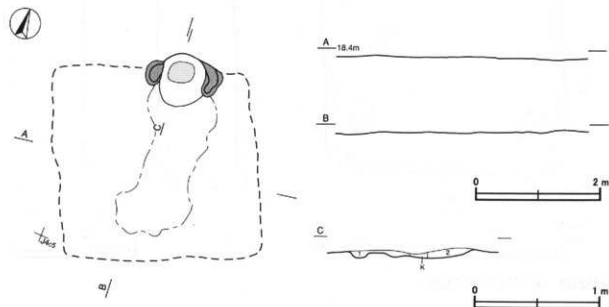
竈 北辺の中央部から東寄りに付設され、袖部の下部がわずかに残存している。規模は焚口から煙道部まで85cmほどと推定され、袖部最大幅は125cmである。煙道部は壁外へ20cmほど掘り込まれていたと推定されるが、立ち上りの形状は不明である。袖部はローム・粘土・砂で構築され、火床部はほぼ平坦に作られ、赤変硬化している。

竈土層解説

- |       |                  |        |                             |
|-------|------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・砂粒微量 |
|-------|------------------|--------|-----------------------------|

**遺物出土状況** 土師器片6点(甕類), 須恵器片1点(坏類)が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 本跡は, 出土土器が細片のため, 明確な時期判断が困難である。出土土器がいずれも8世紀から9世紀代と考えられるため, その時期と推定されるが, 主柱穴が伴わない小型の住居跡であることから, 新しい時期が想定される。



第122図 第51号住居跡実測図

### 第52号住居跡 (第123図)

**位置** 調査I区中央部のJ4e9区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

**重複関係** 第279~281号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.80m, 短軸3.60mの方形で, 主軸方向はN-32°-Wである。壁高は18~24cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** 軟質で平坦である。

**ピット** 3か所。主柱穴はP1~P3で, 深さはP1・P2が20cmほど, P3が50cmである。P3と対応する主柱穴を北西コーナー部で精査したが, 確認されなかった。

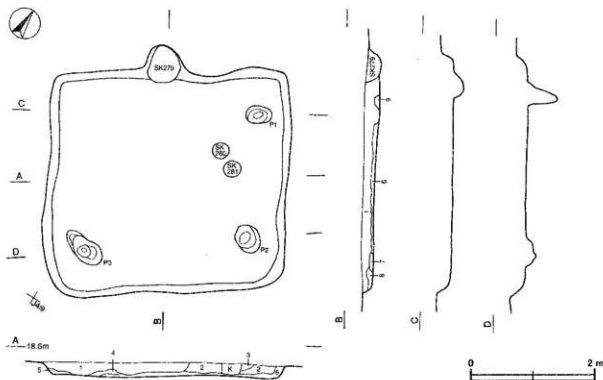
**覆土** 9層からなり, レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

- |        |           |        |                     |
|--------|-----------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック微量 | 6 褐色   | ローム粒子中量             |
| 2 麻暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色   | ロームブロック中量           |
| 3 麻暗褐色 | ローム粒子少量   | 8 極暗褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック微量 | 9 黒褐色  | ローム粒子少量             |
| 5 褐色   | ローム粒子多量   |        |                     |

**遺物出土状況** 土師器片17点(甕類), 須恵器片10点(坏類5, 甕類5)が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 本跡は, 住居跡として扱ったが, 床が軟質で, 竈が設けられておらず, 遺物の出土点数もわずかであることから, 居住以外の機能を果たした施設の可能性も考えられる。時期は, 出土土器が細片のため明確な判断が困難であるが, いずれも8世紀から9世紀代と考えられるため, その時期と推定される。



第123図 第52号住居跡実測図

### 第53号住居跡 (第124図)

位置 調査1区中央部の丁4 a 0 区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.45mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は15~20cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から各支柱穴にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部が残存し、焚口から煙道部まで105cm、袖部最大幅100cmである。煙道部は壁外へ10cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。第11・12層は袖部で、地山を基部とし、その上に粘土・砂・ロームを積み上げて構築されている。火床面はあまり火熱を受けていない。

#### 遺土層解説

- |        |                          |         |                          |
|--------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 7 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量 | 8 暗褐色   | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   |
| 3 暗褐色  | ローム粒子少量、焼土ブロック微量         | 9 暗赤褐色  | 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量     | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量                   |
| 5 黒褐色  | ローム粒子・焼土ブロック微量           | 11 暗褐色  | 焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・粘土粒子微量   |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 12 暗褐色  | ローム粒子微量                  |

ピット 5か所。支柱穴はP1~P4で、深さは30~40cmである。P5は深さ12cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

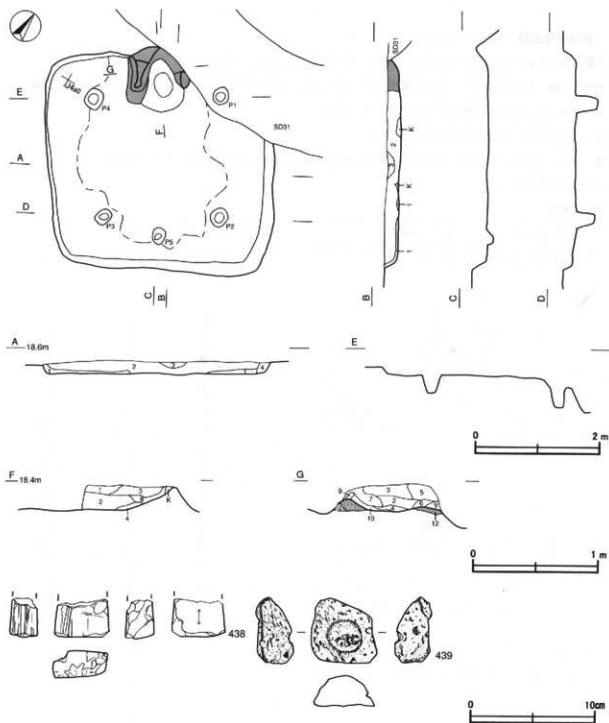
#### 土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量   |

遺物出土状況 土師器片156点(甕類)、須恵器片26点(坏類23, 甕類3)、石器・石製品2点(砥石、浮子)が出土しており、土師の底部片などから推定される個体数は、土師器甕1点、須恵器坏3点である。これらの

遺物は中央部を中心に覆土上層から床面にかけて出土している。

所見 本跡は、出土土器が細片のため、明確な時期判断が困難であるが、須恵器坏片で体部下端手持ちへラ削りの幅が狭いものや、土師器甕片で口縁端部が外上方につまみ上げられているもの（常総甕）が出土していることから、8世紀後半と推定される。



第124図 第53号住居跡・出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
438	砥石	(3.1)	(4.3)	(2.3)	(40.6)	凝灰岩	砥面5面	覆土中	
439	浮子	(5.2)	5.2	(2.9)	(18.1)	流紋岩	片裏面に缺部	P 3内	

第54号住居跡 (第125・126図)

位置 調査I区中央部のJ4d8区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

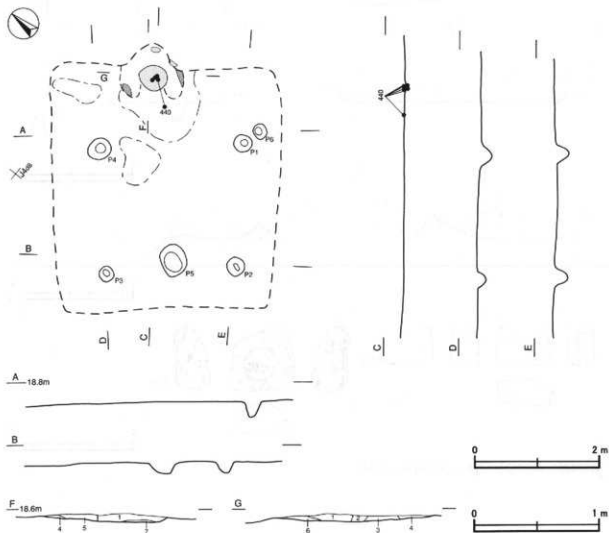
規模と形状 床面が露出した状態で検出されたが、主柱穴の位置や床面の状況などから、長軸3.80m、短軸3.60mの方形と推定され、主軸方向はN-52°-Eである。

床 はほぼ平坦で、竈前が踏み固められている。

竈 北辺の中央部に付設されている。火床面と床面に混じる粘土が残存するだけで、規模は不明である。火床面は赤変硬化している。

覆土層解説

- |                                 |                      |
|---------------------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量    | 5 暗赤褐色 焼土ブロック少量、砂粒微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物微量           | 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化物微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量          |                      |



第125図 第54号住居跡実測図

ピット 6か所。支柱穴はP1～P4で、深さは14～25cmである。P5は深さ15cmで、西辺寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。P6の性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片54点(坏・碗類33, 甕類21), 須恵器片8点(坏類3, 甕類5)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器坏・碗2点, 高台付碗1点, 須恵器甕1点である。これらの遺物は竈内とその周辺部から出土している。出土状況から, 440は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀後半と考えられる。



第126図 第54号住居跡出土遺物実測図

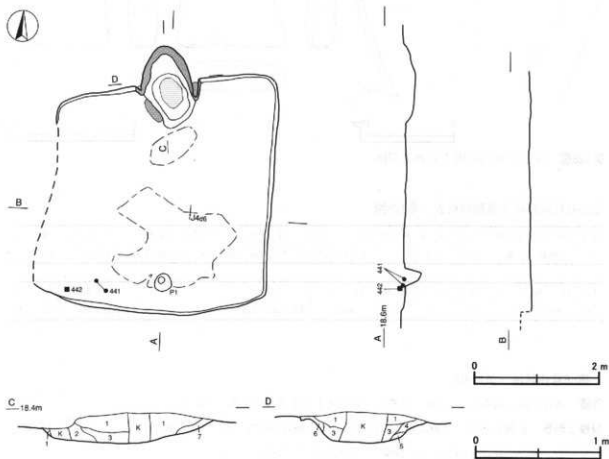
第54号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特質	出土位置	備考
440	土師器	高台付碗	[14.4]	5.4	[7.2]	赤褐色・黒	にぶい黒	普通	高台貼り付け後, ロクロナデ	竈内深部・奥口	70% PL55

第55号住居跡 (第127・128図)

位置 調査I区中央部のJ4c5区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.75m, 短軸3.50mの方形で, 主軸方向はN-5°-Wである。壁高は2～17cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。



第127図 第55号住居跡実測図



床 はほぼ平坦で、中央部と竈前面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設され、右袖部の一部が残存している。焚口部から煙道部まで140cmほどで、煙道部は壁外へ50cmほど掘り込んでおり、緩やかに傾斜して立ち上がっている。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

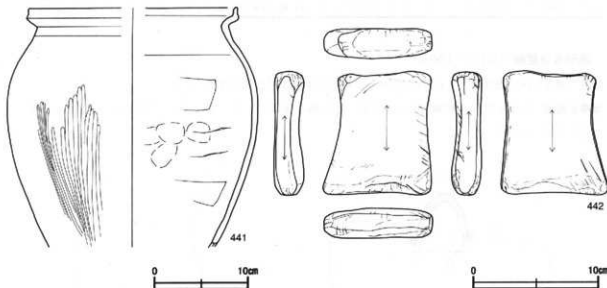
竈土層解説

- |        |                            |        |                          |
|--------|----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量 | 5 褐色   | ローム粒子多量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量   | 6 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量   |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量   |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量 |        |                          |

ピット 1か所。深さは30cmほどで、南壁寄りの中央に位置しており、出入口施設に伴うピットである。

遺物出土状況 土師器片81点（甕類）、須恵器片31点（坏・高台付坏28、蓋2、甕類1）、石器1点（砥石）が出土しており、土師の底部片などから推定される個体数は、土師器甕1点、須恵器坏1点、須恵器高台付坏1点、須恵器蓋1点、須恵器甕5点である。これらの遺物は南西部の覆土上層から下層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、覆土下層の出土土器から9世紀前半と推定される。



第128図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
441	土師器	甕	[21.6]	(25.1)	—	長石・石英・雲母	に近い橙	普通	（竈部外側壁ナガ、竈内部器部同長幅4cm）	南部下層・床	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
442	砥石	9.8	8.6	2.4	321	凝灰岩	紙面6面、目曜かい	南西部中層	100% PL66

第56号住居跡（第129図）

位置 調査1区北部の15f1区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸4.60m、短軸3.40mの長方形で、主軸方向はN-42°-Wである。南コーナー部の壁は残存しないが、他の壁高は5cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 竈前面や中央部が部分的に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設され、火床部と床面に混じる粘土が残存しているだけである。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 2 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 4 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量

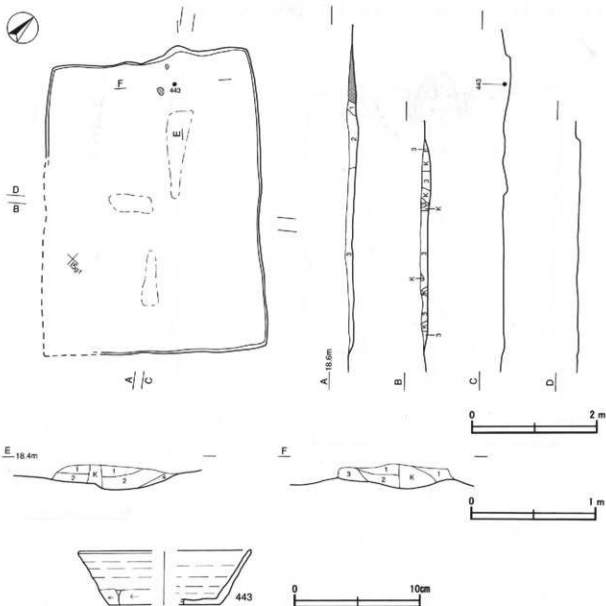
覆土 3層からなるが、覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 3 黒褐色 ローム粒子少量  
 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片50点（坏類9、甕類41）、須恵器片15点（坏類14、甕1）が出土しており、土器の底部片などから推定される個体数は、須恵器坏3点である。これらの遺物は、全体的に覆土下層から床面にかけて出土している。出土状況から、443は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第129図 第56号住居跡・出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表 (第129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
443	須恵器	環	[13.8]	4.8	[8.8]	礫・石英・雲母	灰黄	普通	底部外面二方向のヘラ削り	竈内下層	30%

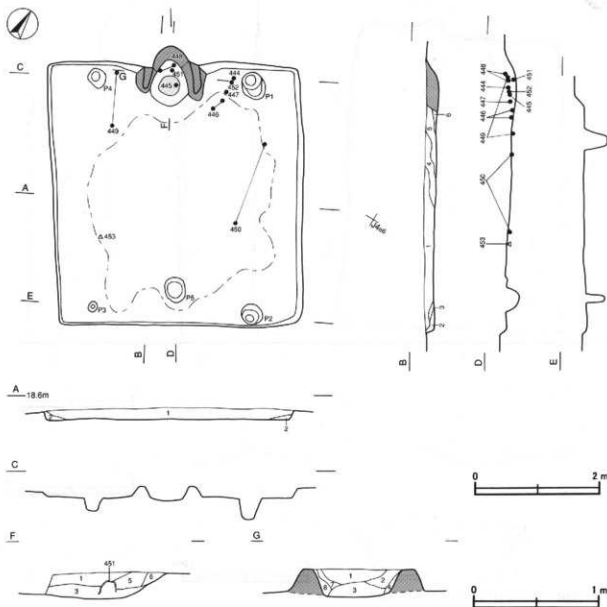
第57号住居跡 (第130・131図)

位置 調査Ⅰ区中央部のJ4e5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸4.25m、短軸4.00mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は5~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入口部周辺に高まりがあり、中央部から各コーナーにかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部が残存し、笑口から煙道部まで95cm、袖最大幅110cmである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖部は粘土・砂・ロームで構築され、火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。



第130図 第57号住居跡実測図

覆土層解説

- |        |                            |         |                            |
|--------|----------------------------|---------|----------------------------|
| 1 灰褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量   | 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量         |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 6 黒褐色   | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 赤黒色  | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量           | 7 褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量         |
| 4 褐色   | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量         | 8 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量                   |

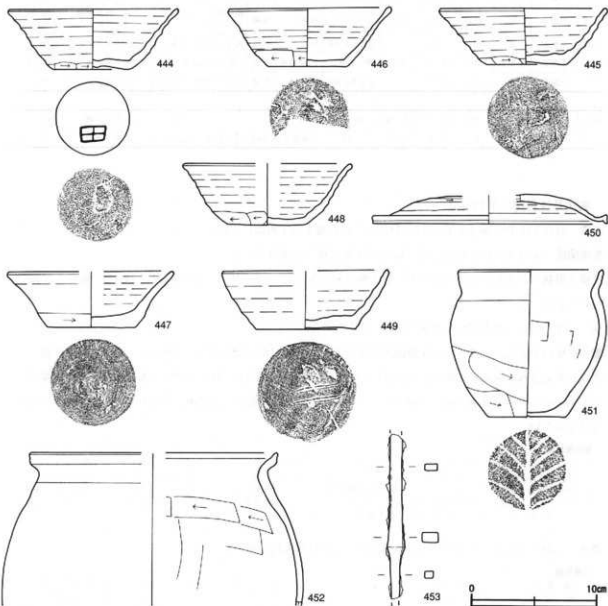
ピット 5か所。主柱穴はP1～P4で、深さは30～35cmである。P5は深さ20cmほどで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                          |       |                            |
|-------|--------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量         | 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量          |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量                | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量 | 6 黒色  | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量     |

遺物出土状況 土師器片161点(坏類3, 甕類158), 須恵器片68点(坏・高台付坏33, 蓋3, 甕類32), 鉄器1点(不明)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器甕6点, 須恵器坏8点, 須恵器高台付坏2点, 蓋1点である。これらの遺物は, 竈周辺を中心に覆土上層から床面にかけて出土している。



第131図 第57号住居跡出土遺物実測図

出土状況から、444・446・448・451は本跡に伴う土器と考えられ、444の底部外面には「田」の墨書が記されている。

所見 本跡は、墨書土器を伴っている。また、煮炊具や貯蔵具に比べて比較的多数の供膳具を伴う点は、他とは異なる様相を呈している。444に記された「田」の墨書は字形が繁わず、字義を理解してではなく、なかば記号化した文字として記された可能性も考えられる。本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
444	炊器	坏	13.4	5.9	5.0	長石・石英・雲母	灰青緑	普通	底部回転ヘラ削り跡	北西部中層	80% 底部外面に「田」 PL52
445	炊器	坏	13.0	4.6	6.3	礫・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り跡、一方のヘラ削り	北中部	80% PL55
446	炊器	坏	12.8	4.8	6.1	礫・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り跡、一方のヘラ削り	北西部下層	60%
447	炊器	坏	13.1	4.3	7.0	砂粒・パミス	灰	普通	底部回転ヘラ削り	北西部	50%
448	炊器	坏	13.8	4.9	[6.1]	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	底部一方のヘラ削り	北中部層	40%
449	炊器	坏	[13.0]	1.7	8.0	長石・パミス	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り跡、一方のヘラ削り	西部中層・床面	80% 底部外面に「田」記号あり
450	炊器	壺	18.5	(2.3)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部外面に回転のヘラ削り	東部床面	40%
451	土師器	小形甕	[11.4]	11.8	6.1	礫・石英	にじみ赤褐色	小良	口縁部内・外面にナデ、底部に素直	北中部	75% PL53
452	土師器	壺	[19.6]	[12.2]	—	石英・雲母	橙	普通	口縁部外縁にナデ、底部にヘラ削り	北西部層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
453	鎌か	(13.3)	1.4	0.8	(42.6)	鉄	基部先端・身部欠損、刃部の可能性も有り	北西部床面	70% PL67

### 第58号住居跡（第132図）

位置 調査1区中央部の14d0区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第47A・47B号住居跡、第519号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.90mほどの方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は14~20cmで、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から壁前にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設され、左袖部が残存している。焚口から煙道部まで100cmで、壁面に貼る粘土の範囲から推定される袖部最大幅は、120cmほどである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖部は粘土・砂・ロームで構築され、火床部はほぼ平坦に作られているが、あまり火熱を受けていない。

#### 竈土層解説

- |         |                            |        |                            |
|---------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 灰褐色   | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量           |
| 2 黒褐色   | ロームブロック微量                  | 7 暗褐色  | ローム粒子中量                    |
| 3 砂礫赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量   | 8 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 灰褐色   | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック少量         | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量   |
| 5 暗褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子・砂粒微量          |        |                            |

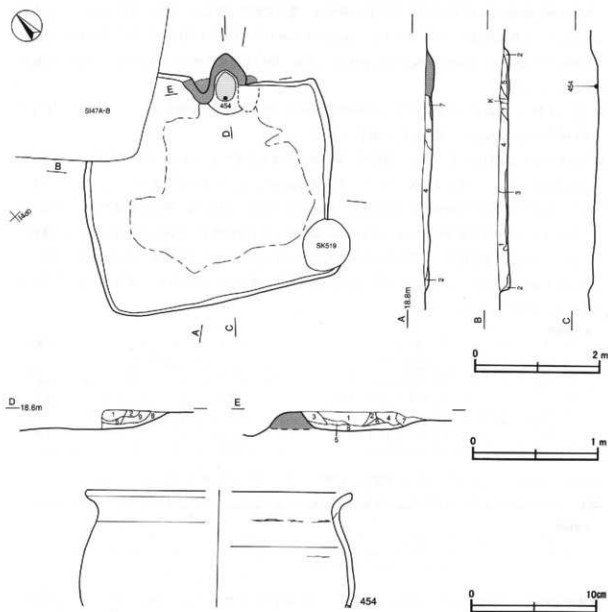
覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |               |       |                            |
|-------|---------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量     | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量           |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量       | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子・砂粒微量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量     | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |       |                            |

**遺物出土状況** 土師器片91点(坏・椀類17, 甕類74)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器坏・椀2点, 土師器高台付坏1点, 土師器甕3点である。これらの遺物は全体的に覆土上層から床面にかけて出土している。出土状況から, 454は本跡に伴う土器と考えられる。

**所見** 本跡は出土している坏類は細片であり, 時期判断が困難であるが, 竈内から出土した甕から10世紀代と考えられる。



第132図 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
454	土師器	甕	[10.5]	(9.3)	—	灰石・灰胎	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	火床面	5%

### 第59号住居跡（第133図）

**位置** 調査Ⅱ区南部のE9b6区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。また、本跡の南西約2mの距離には、本跡と同時期と考えられる第60号住居跡が位置している。

**重複関係** 第7号溝跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 北壁の竪の南側は、北側より20cmほど奥へ掘り込まれており、竪の南側には、地山のローンを掘り残して棚状施設が付設されている。住居跡の規模は、竪の北側の東西長が3.65m、南側では3.90m、南北長は3.40mで、主軸方向はN-65°-Wである。壁高は31~38cmで、各壁ともほぼ直立する。棚状施設の規模は、幅140cm、奥行き70cm、床面からの高さは30cmほどである。棚の上面及び壁面を、粘土などで化粧した痕跡は検出されていない。

**床** ほほ平川で、竪前から東壁にかけての南側が踏み固められ、北側はやや軟質である。また、断面U字形の壁溝が西壁下及び北壁下の一部を除いて周回している。

**竪** 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで140cm、両袖部毎90cm、壁外への掘り込みは40cmである。天井部は崩落しており、竪十層断面図の、第6・7層が崩落した天井部の一部である。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。左袖部は、棚状の施設の壁面を利用しており、内境は最大10cmほど赤変している。火床面は、竪の掘り方を暗褐色土で床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して作られているが、赤変硬化した部分は認められない。火床部の奥には、土師器甕の体部片が据えられ、その上部には土器片が重ねられていたが、これらはその状況から支脚として使用されたと推測される。また、煙道は火床部から外植して立ち上がる。

#### 竪土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10 黒 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量
3 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰 褐色	粘土ブロック・砂粒中量、焼土ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量	13 灰 褐色	粘土ブロック・砂粒中量、焼土粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量
6 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量	15 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	16 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	18 にぶい赤褐色	焼土ブロック微量

**ピット** 1か所。P1は深さ23cmで、東壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

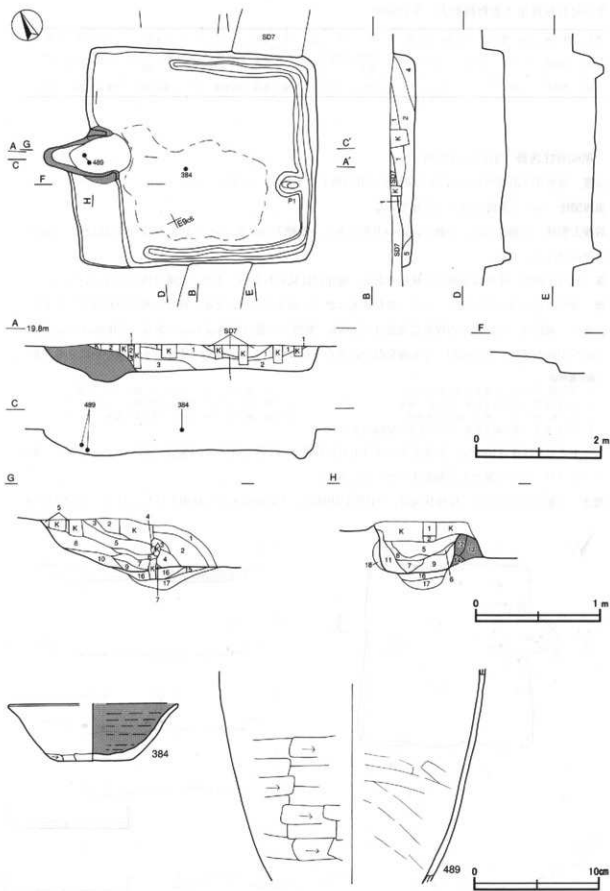
**覆土** 5層に分層される。堆積状況は、全体的に周囲から上砂が流入した様相を呈しており、自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗 褐色	ロームブロック少量
2 灰 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 灰 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片78点（環頸19、寛頸59）、須恵器片12点（寛頸）が、全域から散在した状態で出土している。

**所見** 本跡は竪の脇に棚状施設を有する住居跡であり、当道跡では、棚状施設が付設された壁が竪を挟んで段違いになる形態は、本跡のみである。また本跡は、出土土器の様相から9世紀後半には廃絶され、隣接する第60号住居跡と同時期と考えられるが、この2軒が共存していたとは考えにくく、出土土器の様相から見ても、時期差があったと推測される。



第133图 第59号住居跡・出土遺物実測図



第59号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
384	土師器	環	[13.4]	4.5	[6.3]	雲母・赤色 粒子	櫻	普通	口縁部・体部外面ロクロナ ズ、底部一方向のヘリ削り	中央部上層	20%
489	土師器	甕	—	(17.3)	—	雲母・長石・石英	にぶい黒	普通	体部外面ヘリ削り、体部内面ナデ	竈火床部奥	10%

第60号住居跡（第134・135図）

位置 調査Ⅱ区南部のE9a7区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第7号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.93m、短軸2.78mの方形であり、主軸方向はN-53°-Wである。壁高は20~25cmで、各壁ともほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、床質は全体的に軟質であり、硬化面は見られない。また、壁溝は検出されていない。

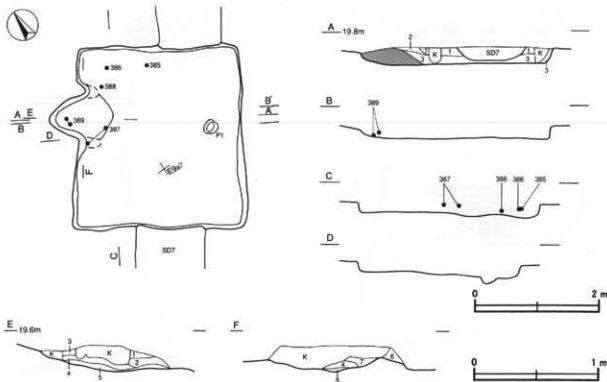
竈 西壁の北寄りに付設されている。遺存状況は悪く、地山のロームを掘り残した袖部の基部が残存するだけである。規模は、焚口部から煙道部先端まで100cm、壁外への掘り込みは40cmである。火床面は床面とほぼ同じ高さの面を使用しているが、赤変硬化部分は認められない。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

甕土層解説

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量         | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量  |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量       | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量         | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |                         |

ピット P1は深さ10cmで、東壁寄りのほぼ中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。覆土はロームブロックを中量含む黒褐色土の単一層である。

覆土 3層に分解される。堆積状況は、全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積である。



第134図 第60号住居跡実測図

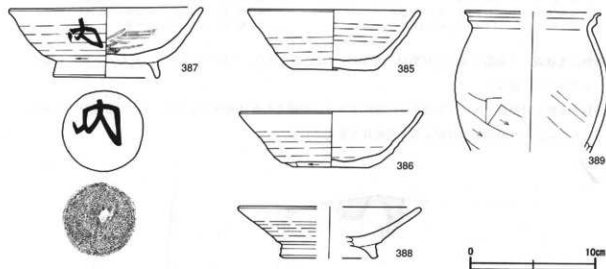
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片49点(坏類27, 甕類22), 須恵器片2点(甕類)が出土している。図示した遺物のなかで残存率の高いものは、北部の上層から中層にかけて出土し、これらは本跡の埋没の過程で投棄されたと考えられる。第135図387は甕付近の覆土上層から出土し、体部外面及び底部にそれぞれ「内」と墨書されている。389は火床部の奥から、逆位の状態で出土している。体部下半は攪乱により失われているが、被熱痕が認められることから、支脚に転用されていたと考えられる。

所見 本跡は、出土土器から9世紀後葉には廃絶されていたと考えられる。



第135図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	須恵器	坏	13.4	4.8	6.4	雲母・長石・石英	黒褐色	普通	磨耗のため体部下端の調整不明、底部一方向のヘラ削り	北壁閉中層	80% PL56
386	須恵器	坏	14.4	4.6	5.8	雲母・長石	にぶい褐色	不良	底部雑な一方向のヘラ削り	北部中層	90% PL56
387	土師器	高台付坏	15.2	5.7	8.0	雲母	にぶい褐色	普通	底部回転ヘラ削り、高台貼り付け後、ロクロナデ	甕前上層	60% 体部・底部外面墨書「内」PL56
388	須恵器	高台付皿	[14.3]	4.1	[7.2]	雲母・赤色粒子	にぶい褐色	不良	高台貼り付け後、ロクロナデ	北部下層	20%
389	土師器	小形甕	[10.8]	(11.2)	—	長石・石英	赤褐色	普通	口縁部内外面ナデ、底部内ヘラナデ	甕内	30% 二次焼成

第61号住居跡 (第136図)

位置 調査I区西部のJ2a3区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第321号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸3.85mで、東西軸は西部が調査区域外のため3.30mだけが確認され、主軸方向はN-20°-Wの、方形または長方形と推定される。壁高は20~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 北壁の中央東寄り付設されている。袖部が残存し、焚口から煙道部まで60cm、袖部最大幅105cmほどである。煙道部は壁外へ5cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第5~7層は袖部であり、平坦な地

山の上に粘土と砂、ロームを積んで構築されている。火床部は平坦で、あまり火熱を受けていない。

**地層解説**

- |       |                        |          |                     |
|-------|------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量       | 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量           |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 7 褐色     | ロームブロック多量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量、粘土粒子・砂粒少量    |          |                     |

ピット 11か所。P1・P2は深さ25cmほどで、南壁寄りの中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3・P4の性格は不明であるが、他は壁柱穴である。

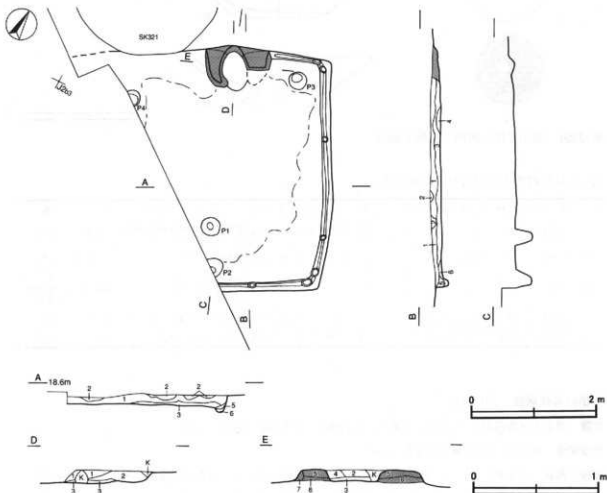
**覆土** 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第5層は壁溝の覆土である。

**土層解説**

- |        |                    |       |                  |
|--------|--------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量            | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量   |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量     | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量        |

**遺物出土状況** 土師器片98点(坏類11, 甕類87), 須恵器片4点(坏類)が出土している。いずれも細片で、図示できるものはない。

**所見** 本跡の時期は、出土土器はすべて細片であり、明確な判断は困難であるが、すべて8世紀から9世紀と考えられるため、時期は8世紀から9世紀代と推定される。



第136図 第61号住居跡実測図

### 第62A号住居跡 (第137・138図)

位置 調査I区西部のI 2 j 5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第62B号住居跡の上に構築し、拡張されている。また、第14号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

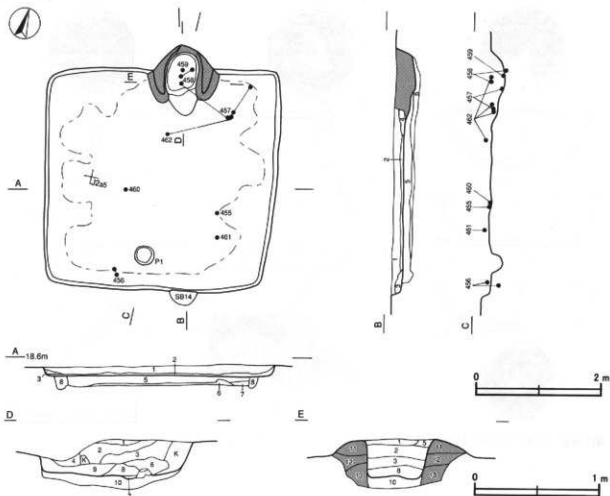
規模と形状 長軸3.70m、短軸3.50mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がっている。各壁とも第62B号住居跡の壁溝から20cmほど外方に作られている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁下には壁溝が確認されている。

竈 北壁の中央に付設されている。袖部が残存し、焚口から煙道部まで110cm、袖部最大幅110cmほどである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第11~13層は袖部と基部であり、地山を掘りくぼめてから第12・13層を埋め込んで平坦な基部を作り出し、その上に第11層で袖部を構築している。第9・10層は火床部の埋土である。火床面は、第62B号住居跡の竈火床部の上に灰やローム混じりの黒褐色土を埋め込んで、作り出しているが、あまり火熱を受けていない。

#### 竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	8	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	灰少量、ロームブロック微量
3	黒褐色	粘土粒子・砂粒少量	10	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化物中量、粘土粒子・砂粒少量	11	黒褐色	粘土粒子・砂粒中量
5	黒褐色	粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子多量
6	にぶい黄褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	13	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量
7	暗褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量			



第137図 第62A号住居跡実測図

ビット 1か所。深さは16cmで、南壁寄りの中央に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

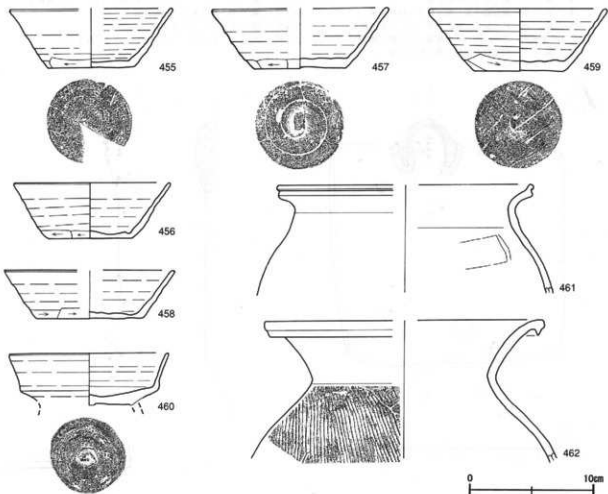
覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第5～8層は貼床の埋土で、第62B号住居跡の床上に貼られている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	6 黒褐色	炭化物多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・砂粒少量	8 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片152点（坏類4，甕類148），須恵器片78点（坏・高台付坏36，甕類42）が出土しており、土師の底部片などから推定される個体数は、須恵器坏9点，須恵器高台付坏1点，須恵器甕3点，土師器甕4点である。これらの遺物は、竈内や竈周辺を中心に覆土下層から床面にかけて出土している。出土状況から、455・457～460は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡は第62B号住居跡の上に四方に20cmほど拡張して構築され、竈を共有している。本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第138図 第62A号住居跡出土遺物実測図

第62A号住居跡出土遺物観察表 (第138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	須恵器	杯	[12.8]	4.8	6.8	硬石質・パイス	褐色	普通	底部回転ヘラ削り	東部下層	45%
456	須恵器	杯	12.3	1.6	6.5	硬石質・コウヤ	黄灰	普通	底部二方向のヘラ削り	東部下層・中層	60%
457	須恵器	杯	[14.1]	5.0	7.0	長石・石英・雲母	明褐色	不良	底部回転ヘラ削り後、一方方向のヘラ削り	東部下層・火床面	30%
458	須恵器	杯	[13.6]	3.9	8.4	石質・雲母・砂粒	褐色	不良	底部摩耗	東部下層・火床面	50%
459	須恵器	杯	14.1	5.0	7.0	長石・石英・雲母	明褐色	普通	底部回転ヘラ削り後、方向のヘラ削り	火床面	90% PL56
460	須恵器	高台付杯	12.6	(4.2)		硬石質・パイス	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	中央部下層	70%
461	土師器	葉	[20.2]	(8.8)	—	硬石質・雲母	明赤褐色	普通	口縁部内面削りナデ、底部内面ヘラ削り	南東部下層	5%
462	須恵器	葉	[22.4]	(11.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部内・外両クロナデ、底部外面横位印き痕	北部・北東部中層	10%

第62B号住居跡 (第139図)

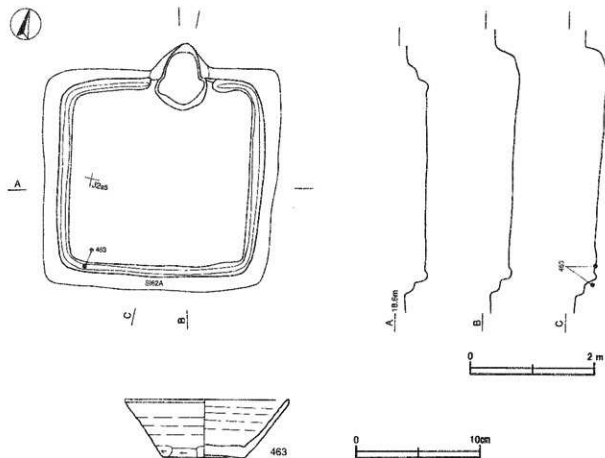
位置 洞春I区西部の12j5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第62A号住居跡が上に構築されている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 軟質で平坦である。壁溝が周囲している。

竈 北壁の中央に付設されている。第62A号住居跡蓋の構築時に掘り込まれたため、火床部が残存するだけで



第139図 第62B号住居跡・出土遺物実測図

ある。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

遺物出土状況 土師器片29点（坏類4、甕類25）、須恵器片22点（坏類16、甕類6）が出土している。これらの遺物は南西コーナー部の床面を中心に出土している。出土状況から、463は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

#### 第62B号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
463	須恵器	坏	13.0	4.7	6.5	砂粒・バミス	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南西壁際床面	80% PL56

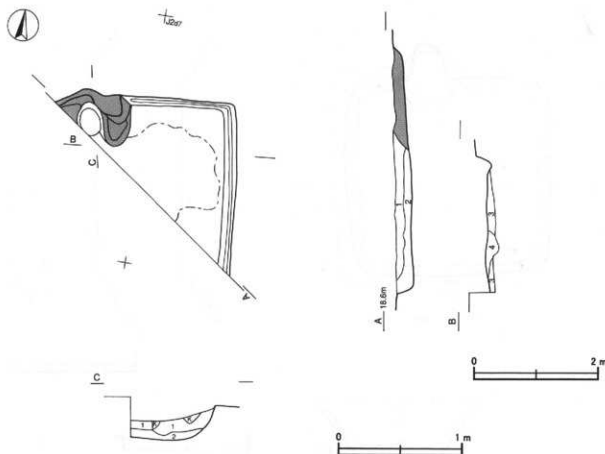
#### 第63号住居跡（第140図）

位置 調査I区西部のJ2d6区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 南西部が調査区域外のため、東西軸2.90m、南北軸2.60mだけが確認され、主軸方向はN-5°-W、方形または長方形と推定される。壁高は23~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前から東壁際にかけて踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。袖部が残存し、焚口から煙道部まで75cm、袖部最大幅110cmである。煙道部は壁外へ10cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。袖部は粘土・砂・ロームで構築されている。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。



第140図 第63号住居跡実測図

#### 遺土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第3・4層は掘り方の土層で、主にロームで床を貼り、踏み固められている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片60点(坏類6、甕類54)、須恵器片17点(坏類12、壺1、甕1、甕類3)が出土している。これらの遺物は、東コーナー部を中心に覆土下層から床面にかけて出土している。いずれも細片で、図示できるものはない。

所見 出土土器はいずれも細片で時期判断が困難であるが、出土土器片から、時期は8世紀中葉から後葉と推定される。

### 第64号住居跡(第141・142図)

位置 調査I区西部のJ2c8区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.65mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は5~17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央に付設されている。袖部が残存し、焚口から煙道部まで130cm、袖部最大幅130cmほどである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。第8・9層は火床部及び基部の埋土であり、第10・11層は袖部である。地山を掘りくぼめてからローム混じりの暗褐色土を埋め込んで火床部と基部を作り出し、その上に粘土や砂・ロームを積んで袖部を構築している。袖部の中には焼土や炭化粒子が含まれており、竈の作り替えが行われている。火床部は、あまり火熱を受けていない。

#### 遺土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 7 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 8 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量  
3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量 9 暗褐色 ロームブロック少量  
4 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 10 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量  
5 黒褐色 焼土ブロック少量 11 濃い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量  
6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 5か所。支柱穴はP1~P4で、深さは36~46cmである。P5は深さ23cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなるが、覆土が薄く、堆積状況は不明である。

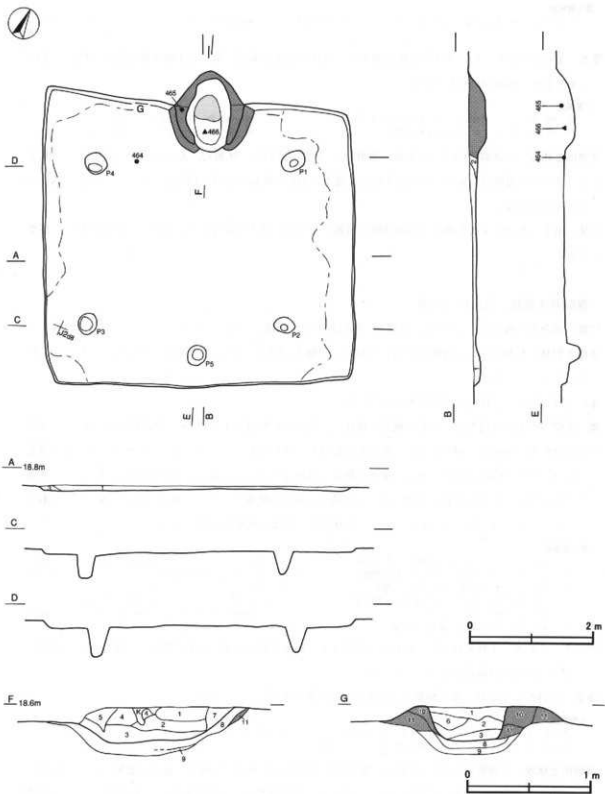
#### 土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 3 暗褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量

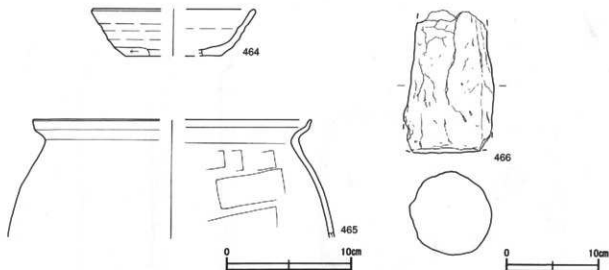
遺物出土状況 土師器片269点(坏類6、甕類263)、須恵器片90点(坏類47、壺10、甕類33)、土製品1点(支脚)が出土しており、土器の底部片などから推定される個体数は、土師器壺4点、須恵器坏3点、須恵器甕1点、須恵器甕2点である。これらの遺物は、竈周辺を中心に覆土下層から床面にかけて出土している。出土状況から、464~466は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。





第141图 第64号住居跡实测图



第142図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
464	須恵器	坏	[12.8]	3.7	[7.6]	長石質・パミス	灰	普通	底部多方向のヘラ削り	北西部床面	10%
465	土師器	壺	[20.2]	(9.3)	—	礫・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈左袖上	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
466	支脚	(15.2)	(9.2)	—	(970)	土製	外面ナデ、胎土に長石・パミス含む	竈中層	

### 第65号住居跡 (第143・144図)

位置 調査I区西部のI3i1区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第527号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.35mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がる焼失家屋である。

床 軟質で平坦である。掘り方は、中央部が不整楕円形状に10cm、壁下が溝状に5cmほど掘りくぼめられ、ロームブロックで厚さ10cmほどの床が貼られている。

竈 北壁の中央に付設されている。天井部や袖部は残存せず、わずかに火床部と煙道部が残るだけである。焚口から煙道部まで90cmであり、煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

#### 竈土層解説

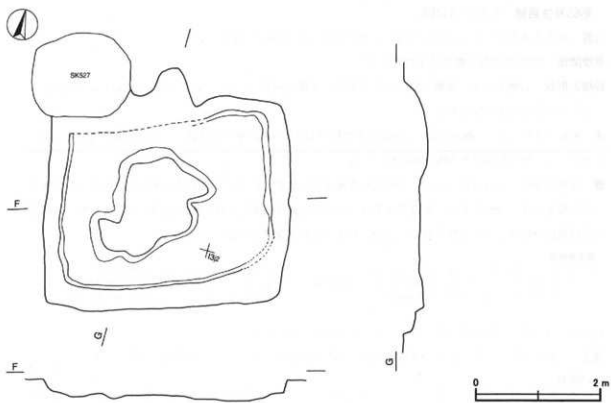
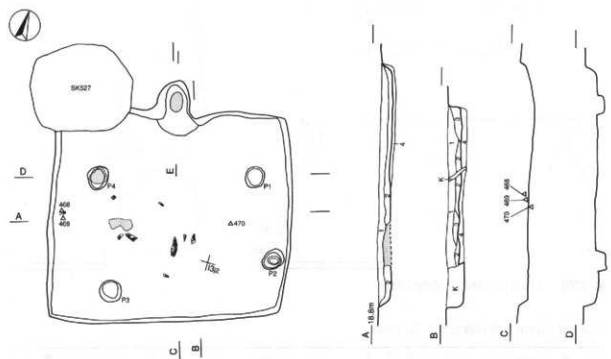
- |       |                        |       |                  |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量       | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量     |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量         | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

ピット 4か所。主柱穴はP1~P4で、深さは10~30cmである。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第4層は貼床の埋土である。

#### 土層解説

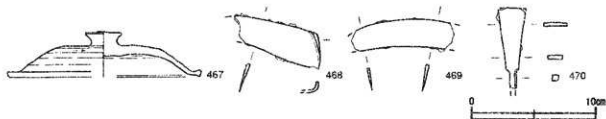
- |       |                        |       |                          |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物粒子微量 | 3 暗褐色 | 炭化物粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量   | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物粒子微量   |



第143图 第65号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片173点(坏類7, 甕類166), 須恵器片86点(坏類41, 蓋16, 甕・甗29), 鉄器等3点(鎌2, 鍬1)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器甕4点, 須恵器坏7点, 須恵器蓋3点, 須恵器甕1点, 須恵器甗1点である。これらの遺物は, 竈周辺から中央部を中心に覆土上層から床面にかけて出土している。また, 焼土と炭化材が, 中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。

所見 本跡は, 焼土と炭化材の出土状況から焼失家屋と考えられるが, 本跡に伴う土器が出土していないため, 住居の機能時の焼失ではなく, 床面で焼土や炭化材が検出されていることから焼直後に焼失した可能性が高い。また焼土と炭化材の出土量がさほど多くないことから, 焼失前に建築部材がある程度撤去されたか, あるいは焼失後に整理されたことが想定される。さらに, 堆積状況が自然堆積であり, 覆土中の炭化粒子や焼土は周縁に残った焼失物が流れ込んだものと考えられる。本跡に伴う土器はないが, 覆土中の土器から時期は9世紀前半と推定される。



第144図 第65号住居跡出土遺物実測図

#### 65号住居跡出土遺物観察表 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
467	須恵器	甕	115.1	3.6	-	細砂質	灰		普通	大井部外壁二回転のヘラ張り	覆土中	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
468	鎌	(6.8)	2.9	0.25	(18.9)	鉄	刃部先端欠損, 曲刃鎌(勾鎌か)	西壁際下層	30% PL67
469	鍬	(8.1)	(2.3)	0.3	(16.1)	鉄	刃部先端・基部欠損, 曲刃鍬(勾鎌か)	西壁際下層	50% PL67
470	甕	(6.5)	(2.2)	0.3	(14.2)	鉄	甕形式, 蓋部欠損	東部床面	60% PL67

#### 第68号住居跡 (第145図)

位置 調査I区西部のI2j0区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.70m, 短軸3.60mの方形で, 主軸方向はN-14°-Wである。壁高は20cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部から竈前面や各土柱穴にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央に付設されている。袖部が残存し, 焚口から煙道部まで120cm, 袖部最大幅130cmほどである。

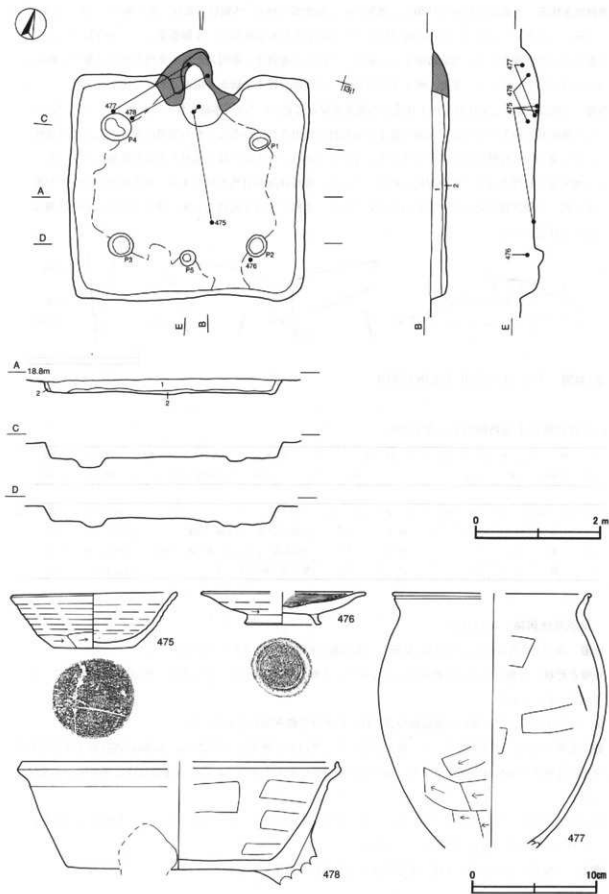
煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ, 緩やかに傾斜して立ち上がっている。火床部はほぼ平坦で, 赤変硬化している。

ピット 5か所。土柱穴はP1~P4で, 深さは10cmほどである。P5は深さ14cmで, 南壁寄りの中央に位置しており, 出入り1施設に伴うピットである。

覆土 2層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

1 雑色褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量



第145图 第68号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片553点(坏39, 高台付皿1, 甕類511, 三足鍋2), 須恵器片222点(坏61, 高台付坏1, 蓋8, 短頸壺1, 盤2, 甕・瓶149)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器坏1点, 土師器高台付皿1点, 土師器甕3点, 土師器三足鍋1点, 須恵器坏7点, 須恵器高台付坏1点, 須恵器蓋1点, 須恵器甕1点, 須恵器瓶1点である。これらの遺物は, 全体的に覆土上層から床面にかけて出土している。475は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	寸法	口径	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴	出土位置	備考
475	須恵器	坏	13.0	4.4	6.3	長石・石英・パミス	灰	小良	底部 方向の回転ヘリ有り	床面中央・甕裏口部下層	80% 底部外側に「」のヘリ起す PL56
476	土師器	高台付皿	[13.1]	2.6	[6.1]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下層回転ヘリ削り, 高台削り付け後, ロクロナデ	甕下部下層	75% PL56
477	土師器	小形甕	[15.8]	[20.3]	---	緑・石英・雲母	明赤黒	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土層・北西部下層	40%
478	土師器	三足鍋	[25.0]	[9.8]	[17.8]	長石・石英・雲母	にじい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 外面削離	甕中層・北西部中層	30% PL57

第69号住居跡 (第146図)

位置 調査Ⅰ区西部のJ3a2区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第329号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m, 短軸3.90mの長方形で, 主軸方向はN-22°Wである。壁高は30cmほどで, ほぼ直立している。

床 軟質で平坦である。

竈 北壁の中央に付設されている。天井部や袖部は残存せず, わずかに火床部と煙道部が残るだけである。焚口から煙道部まで100cmであり, 煙道部は壁外へ10cmほど掘り込まれ, ほぼ直立している。第1・2層は火床部の掘り方埋土で, 地山を掘りくぼめてから黒褐色土と暗褐色土を埋め込み, 平坦な火床面を作り出している。火床部はあまり火熱を受けていない。

覆土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量

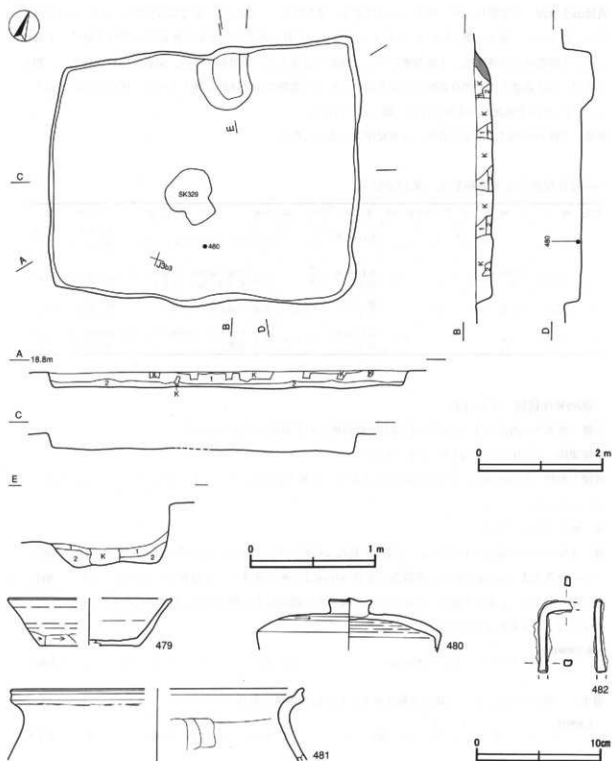
覆土 2層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片324点(坏・高台付坏20, 甕類304), 須恵器片104点(坏・高台付坏71, 蓋3, 盤5, 長頸瓶2, 甕類24), 鉄器1点(鏡)が出土しており, 土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器高台付坏1点, 土師器甕3点, 須恵器坏2点, 須恵器高台付坏1点, 須恵器蓋1点, 須恵器盤3点である。これらの遺物は, 全体的に覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡に伴う土器はないが, 覆土中の土器から時期は8世紀後半と推定される。



第146図 第69号住居跡・出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	須恵器	坏	[12.8]	3.8	[7.8]	砂粒・黒色粒子	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土中	20%
480	須恵器	壺	—	(4.3)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部外面二回転のヘラ削り	南部下層	40%
481	土師器	甕	[23.0]	(5.8)	—	長石・石英・雲母	明赤釉	普通	口縁部内・外面横ナア	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
482	門金具	(5.9)	(2.5)	(0.7)	(13.2)	鉄	断面形は長方形	覆土上層	30%

### 第70号住居跡 (第147・148図)

**位置** 調査I区中央部のJ3b6区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

**規模と形状** 長軸5.65m、短軸5.60mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は24~30cmで、ほぼ直立している。

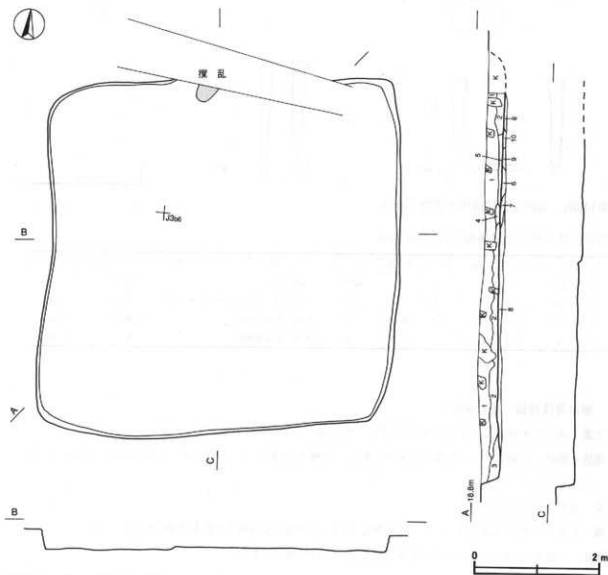
**床** 軟質で平坦である。

**竈** 北壁の中央に付設され、攪乱を受けている。天井部や袖部、煙道部は残存せず、わずかに火床部が残るだけである。火床部は平坦に作られており、赤変硬化している。

**覆土** 10層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6~10層は貼床の土層である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 2 極暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量



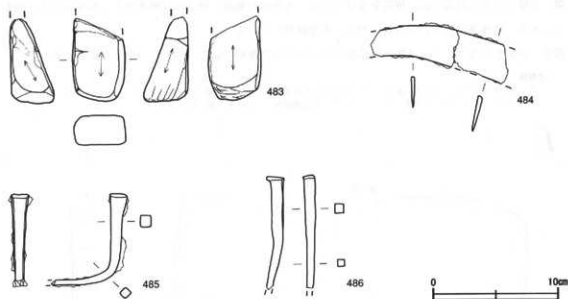
第147図 第70号住居跡実測図



5	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	8	褐色	ロームブロック中量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	9	暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
7	暗褐色	炭化物・粘土ブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量	10	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片473点（坏類14、甕類459）、須恵器片231点（坏・高台付坏115、蓋18、甕・瓶98）、石器1点（砥石）、鉄器3点（鎌1、釘2）が出土しており、土器の底部片などから推定される個体数は、土師器甕9点、須恵器坏7点、須恵器高台付坏5点、須恵器蓋3点、須恵器瓶4点だが、いずれも細片である。これらの遺物は、南東部を中心に覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 出土土器はすべて細片であるが、覆土中から出土した土器片から時期は8世紀後半と推定される。



第148図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第148図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出 土 位 置	備 考
483	砥石	(6.8)	4.2	2.4	(105)	凝灰岩	紙面4面	覆土中	
484	鎌	(10.9)	(3.2)	0.35	(41.3)	鉄	刃部先端・装着部欠損、曲鎌（刃鎌）	覆土中	50% PL67
485	釘	(11.2)	1.4	0.85	(31.7)	鉄	角釘、先端部彎曲	覆土中	90%
486	釘	(10.1)	1.4	0.8	(20.6)	鉄	角釘、先端部破損	覆土中	90%

### 第71号住居跡（第149図）

位置 調査I区中央部のJ3b9区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸5.05m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は18-27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 軟質で平坦である。

竈 北壁の中央に付設されていたことが想定され、その周辺から焼土や砂粒が確認されている。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

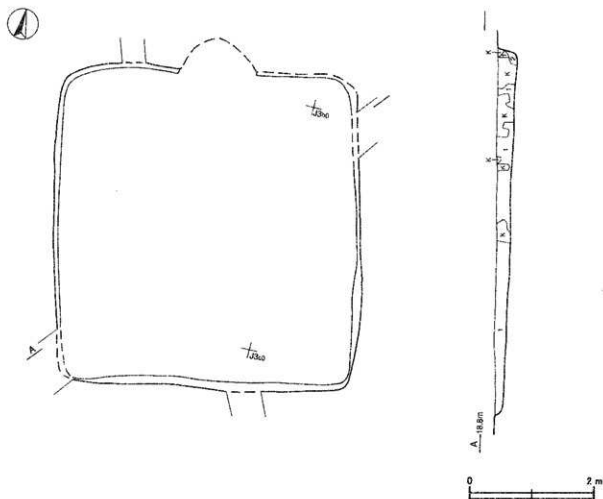
#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片122点(坏類5, 甕類117), 須恵器片77点(坏・高台付坏42, 蓋4, 甕1, 甕・甌30)が出土している。出土遺物はいずれも細片で, 図示できるものはない。

所見 出土土器はすべて細片であり, 明確な時期判断は困難である。出土土器がすべて8世紀から9世紀と考えられるため, 時期は8世紀から9世紀代と推定される。



第149図 第71号住居跡実測図

#### 第72号住居跡 (第150図)

位置 調査1区中央部のJ3c0区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第74号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m, 短軸3.65mの長方形で, 主軸方向はN-21°-Wである。壁高は20~30cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は北壁以外で確認されている。

竈 北壁の中央に付設されていたことが想定され, その周辺から焼土や砂粒が確認されている。

覆土 2層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

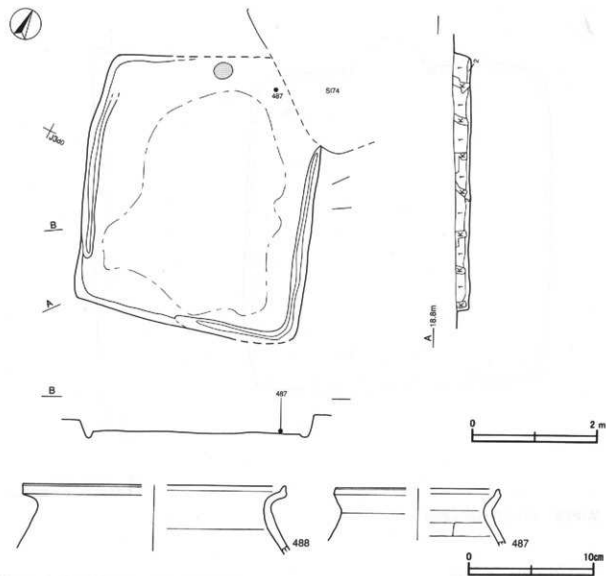
#### 土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・椀上ブロック・炭化物層 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片216点(坏類30, 甕類186), 須恵器片52点(坏類20, 甕2, 甕・甌30)が出土してお

り、土器の底部片などから推定される個体数は、須恵器環3点、須恵器盤1点、須恵器甕2点である。これらの遺物は、竈周辺や中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。487は出土状況から本跡に伴う土器である。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第150図 第72号住居跡・出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
487	土師器	甕	[13.0]	(4.3)	—	長石・スコリア	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部内面ヘラナデ	北東部下層	5%
488	土師器	甕	[20.7]	(5.4)	—	礫・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土上層	5%

### 第73号住居跡 (第151・152図)

位置 調査I区中央部のJ3f9区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.70mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は10cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

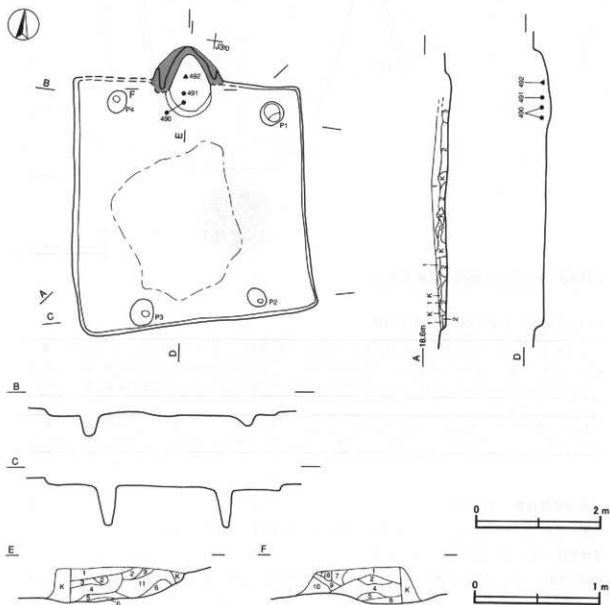
竈 北壁の中央に付設されている。左袖部の一部が残存し、焚口から煙道部まで115cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖部は粘土・砂・ロームで構築され、火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり火熱を受けていない。

電土層解説

- |        |                          |         |                            |
|--------|--------------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   | 7 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 灰褐色  | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量       | 8 暗褐色   | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   | 9 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色  | 粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量         | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量   |
| 6 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック微量       |         |                            |

ピット 4か所。主柱穴はP1～P4であり、深さはP1・P4が20・34cm、P2・P3が60・66cmで、北部の柱穴が浅く、南部の柱穴は深い。

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



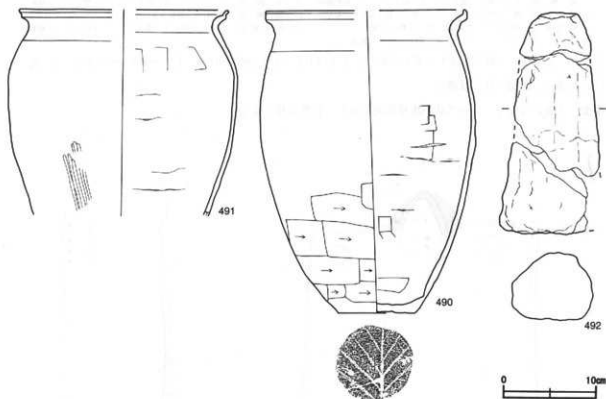
第151図 第73号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片129点（坏類3，甕類126），須恵器片66点（坏類21，長頸瓶2，甕・瓶43），土製品2点（支脚）が出土している。これらの遺物は、竈内を中心に出土している。490～492は出土状況から本跡に伴う土器である。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第152図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
490	土師器	甕	[20.8]	31.8	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面磨ナデ，底部内面輪縁み込	竈下層	60% PL57
491	土師器	甕	[21.9]	(21.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面磨ナデ，底部内面輪縁み込	竈下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
492	支脚	[23.3]	(10.4)	7.1	(1170)	土製	胎土に長石・石英含む，外面ナデ	竈中	80%

第74号住居跡（第153図）

位置 調査I区中央部のJ3c0区に位置し，低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第72号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.25m，短軸3.00mの方形で，主軸方向はN-39°-Eである。壁高は38cmほどで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央からやや南東寄りに付設されている。天井部や袖は残存せず、火床面と煙道部だけが確認されている。焚口から煙道部まで70cmであり、煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。火床部は平坦で、あまり火熱を受けていない。

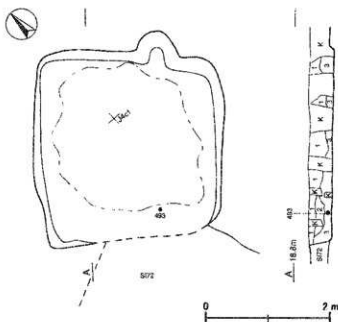
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片35点（坏類1，堯類34），須恵器片6点（坏類4，堯類2）が出土している。出土状況から、493は本跡に伴う土器である。

所見 本跡は、土師器片と比べて須恵器片の出土が少なく、出土土器から時期は9世紀後半と考えられる。



第153図 第74号住居跡・出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴	出土位置	備考
493	土師器	壺	21.0	(7.9)	—	灰赤・赤褐色	にぶい黒	普通	口縁部内・外面縁ナゲ	南部下層	10%

#### 第75A号住居跡（第154・155図）

位置 調査1区中央部のJ4e1区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第75B号住居跡を拡張している。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.70mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。基点は20~30cmで、外縁して立ち上がっている。各壁は、本跡の下部にある第75B号住居跡の壁から20cmほど外方に作られている。

床 ほぼ平坦で、中央部から各支柱穴にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央に付設されている。左袖部が残存し、焚口から煙道部まで100cmである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ、緩やかに傾斜して立ち上がっている。第10・11層は袖部、第12~14層は基部と火床部の掘り方の埋土である。第75B号住居跡の火床部上に、粘土・砂・ロームを埋め込んで基部と火床部を平坦に作り出し、さらにその上に粘土・砂・ロームを積んで袖部が構築されている。火床部は、あまり火熱を受けていない。

#### 土層解説

- |       |                     |       |                            |
|-------|---------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量    | 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量         |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量  | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量、ロームブロック微量      |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量  | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |

- |        |                          |        |                            |
|--------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 9 黒褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量  | 12 黒褐色 | ローム粒子・粘土ブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量     | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量             |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 14 黒色  | 焼土粒子・炭化物・粘土ブロック・砂粒少量       |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4で、深さは27～50cmである。P5は深さ30cmほどで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。これらは、第75B号住居跡の柱穴と同じ位置にある。

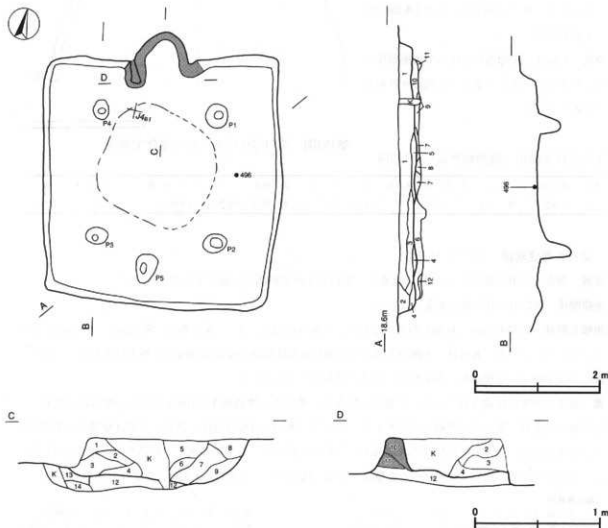
覆土 12層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6～12層は貼床部であり、第75B号住居跡の床上に貼られている。

#### 土層解説

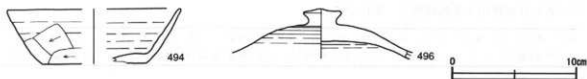
- |        |                        |        |                         |
|--------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量    |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量     | 8 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック微量      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量      |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量  | 11 暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 6 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量     | 12 褐色  | ロームブロック中量               |

遺物出土状況 第75B号住居跡を含めた出土点数は、土師器片225点（坏類11、甕類214）、須恵器片80点（坏類49、蓋8、短頸壺1、甕類22）が出土している。496は出土状況から本跡に伴う土器である。

所見 本跡は、第75B号住居跡を四方に拡張した住居跡であるが、柱穴は移動せずにそのまま使用しており、拡張幅も20cmほどであり、上屋の構造は拡張前とほぼ同じであったと考えられる。本跡の時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第154図 第75A号住居跡実測図



第155図 第75A号住居跡出土遺物実測図

第75A号住居跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
494	須恵器	坏	[13.8]	4.4	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶ・赤黒	普通	底部一方向のへら削り	覆土中	40%
496	須恵器	蓋	—	(4.1)	—	糠・砂粒	灰黄	普通	天井部外面四回転のへら削り	東部下層	60%

第75B号住居跡 (第156図)

位置 調査I区中央部のJ4e1区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第75A号住居跡に拡張されている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.30mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は10cmほどで、外傾して立ち上がっている。

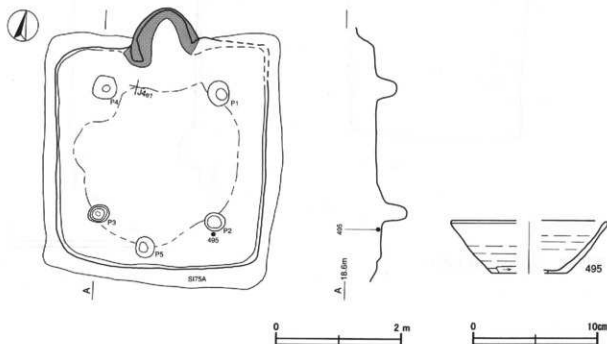
床 ほぼ平坦で、中央部から各主柱穴にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央に付設されていたことが想定され、第75A号住居跡の竈火床部の下から火床面が確認されている。火床部は地山を掘りくぼめて作られているが、あまり赤変していない。

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4で、深さは30～40cmである。P5は深さ30cmほどで、北壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

遺物出土状況 出土点数は、第75A号住居跡で記述した。出土状況から、495は本跡に伴う土器である。

所見 本跡は、8世紀後葉の時期の土器を伴っているが、8世紀後葉である第75A号住居跡よりもやや古い時期と考えられる。



第156図 第75B号住居跡・出土遺物実測図



第75B号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	種別	器種	口径	容高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
495	須恵器	杯	[12.6]	4.2	[6.0]	長石6成分	にがい菊	普通	成部回転ヘラ削り		南東部床西	30%

第76号住居跡 (第157図)

位置 調査Ⅰ区中央部の丁4h5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第334号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.90mの方形で、主軸方向はN-76°-Eである。壁高は10cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 軟質である。

竈 東壁の中央に付設されていたことが想定され、その周辺から焼土や砂粒が確認されている。

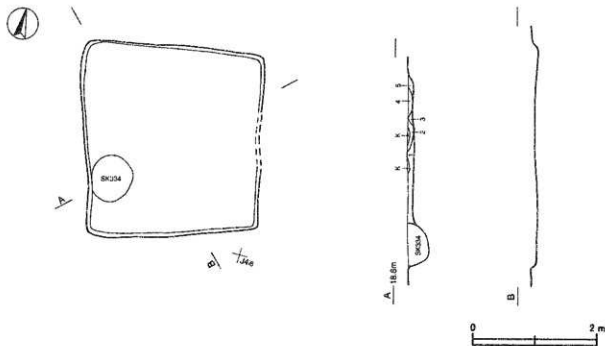
覆土 5層からなるが、覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- |        |                        |       |                        |
|--------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・黄土ブロック・炭化粒子微量  | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、黄土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・黄土ブロック少量、炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量        |
| 3 褐色   | ロームブロック中量、黄土ブロック・炭化物微量 |       |                        |

遺物出土状況 土師器片37点(坏類7, 甕類30), 須恵器片5点(坏類3, 甕類2)が出土している。いずれも細片で、図示できるものはない。

所見 出土土器がすべて細片であり、明確な時期判断は困難である。出土土器がすべて8世紀から9世紀と考えられるため、時期は8世紀から9世紀代と推定される。



第157図 第76号住居跡実測図

第80号住居跡 (第158図)

位置 調査Ⅱ区南東部のE11c8区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第100・101号土坑に掘り込まれている。

確認状況 南部は調査区域外に位置する。

規模と形状 確認されたのは東西軸2.20m、南北軸3.35mであり、平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は10cmほどで、立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質で硬化面は見られない。また、壁溝は検出されていない。

竈 西壁の中央に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで130cm、袖部幅95cm、壁外への掘り込みは50cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は北壁ラインの内側に位置し、赤変している。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量

覆土 2層に分層される。層厚が最大で10cmほどと薄いため、堆積状況は不明である。

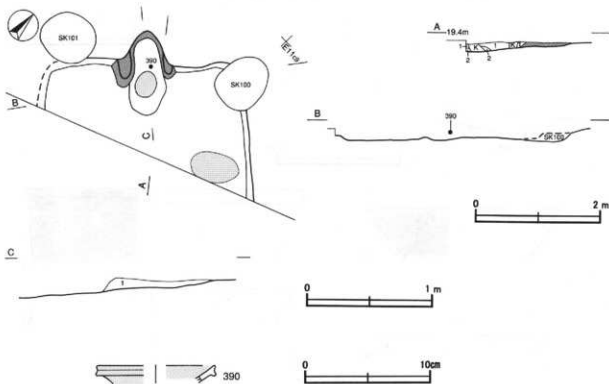
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

- 2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片53点(坏類8, 甕類45), 須恵器片12点(坏類4, 甕類8), 灰釉陶器1点(長頸瓶)が、主に竈の覆土中及び竈付近から出土している。とくに竈の覆土中からは、土師器甕類の破片が多く出土している。390は竈の覆土中からの出土である。北壁際の床面で、焼土が検出されている。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀と考えられる。



第158図 第80号住居跡・出土遺物実測図

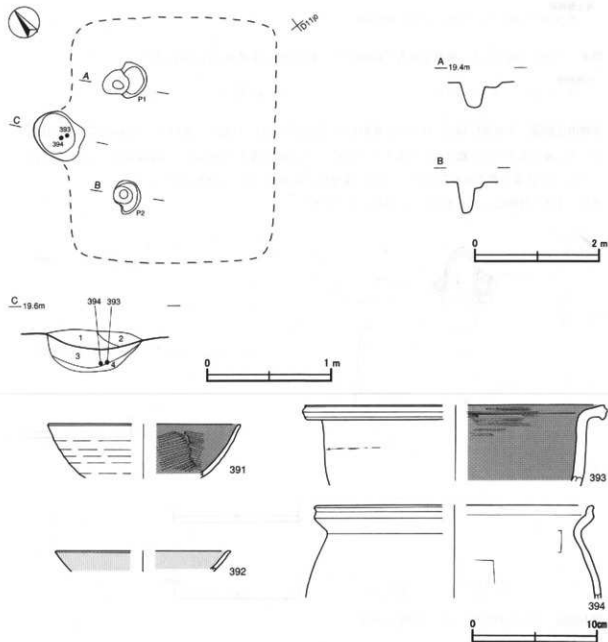
第80号住居跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	灰輪陶器	長頸瓶	[9.2]	(1.4)	—	緻密	灰白、灰 オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ、輪は流し 掛けか	竈覆土中	5%

第81号住居跡 (第159図)

位置 調査Ⅱ区南東部のD11j9区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 床面直上まで削平された状態で検出されたため、壁の立ち上がりは明確に確認されていない。竈の位置や暗褐色を呈した床面の広がりから判断して、N-50°-Wを主軸とする3.95m、短軸3.20mの長方形と推定される。



第159図 第81号住居跡・出土遺物実測図

床 全体的に軟質で、硬化面は見られない。また、溝も検出されていない。

竈 遺存状況が悪く、北西壁の中央と推定される位置から、火床部が検出されただけである。竈土層断面図の第1・2層中には、焼土ブロックとともに粘土粒子や砂粒が含まれることから、天井部の崩落土の一部と考えられる。

#### 竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子中量・焼土ブロック・ローム粒子・炭化 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量  
 粒子・砂粒少量 4 褐色 ロームブロック少量  
 2 暗赤褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴に相当し、深さは40～50cmである。南東壁面に想定される主柱穴2か所及び出入り口施設に伴うピットは、検出されていない。

遺物出土状況 土師器片57点（坏類8、甕類49）、須恵器片6点（坏類2、甕類4）、灰粘陶器片1点（碗類）が、主に中央部の覆土中から出土している。第159図393・394は、竈の掘り方の埋土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器の様相から9世紀後半と考えられる。

### 第81号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
391	土師器	坏	[15.3]	(4.2)	—	石英	にぶい色	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	覆土中	5%
392	灰粘陶器	碗	[13.7]	(1.6)	—	緻密	乳白・灰白	良好	口縁部ロクロナデ、体は刷毛塗り	覆土中	5%
393	土師器	鉢	[23.8]	(6.5)	—	長石	にぶい色	普通	口縁部外面横ナデ	竈中	5%
394	土師器	甕	[22.0]	(7.1)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ、体部内面横ナデ	竈中	5% 二次焼成

### 第82号住居跡（第160図）

位置 調査区南東部のD11h6区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.00mの長方形であり、主軸方向はN-48°-Wである。壁高は20～35cmで、各壁とも外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。北西壁と南西壁の一部を除いて、断面U字形の壁溝が周回している。

竈 北西壁のほぼ中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで137cm、袖部幅135cm、壁外への掘り込みは50cmである。天井部は崩落しており、石袖の遺存状況は悪い。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は北西壁ライン上に位置し、床面とほぼ同じ高さの地山面を使用したと考えられるが、赤変硬化した部分は認められない。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量

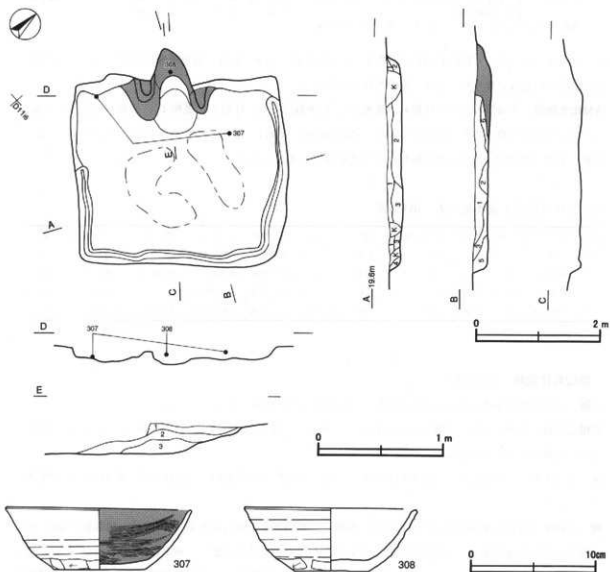
覆土 6層に分層される。堆積状況は、全体的に両側から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積である。第6層は粘性が強く、粘土粒子とともに焼土ブロック・砂粒が含まれていることから、竈材が流出したものと考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量 4 暗褐色 ロームブロック中量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量 5 暗褐色 ロームブロック少量  
 3 暗褐色 ロームブロック少量 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片33点(坏類26, 甕類7), 須恵器片9点(坏類7, 甕類2)が, 主に覆土下層から出土している。第160図307は, 西コーナー部と北コーナー部のいずれも覆土下層から出土した破片が接合した資料である。308は煙道の立ち上がり部で, 逆位の状態で出土し, 被熱痕が認められることから, 支脚に転用されていたと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第160図 第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表 (第160図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
307	土師器	坏	14.6	5.0	7.2	雲母・赤色 粒子	にぶい濁	普通	底部一方向のヘラ削り	西部・北部 覆土下層	85% PL.57
308	須恵器	坏	13.6	5.2	5.7	雲母・長石・ 石英	にぶい黄 濁	普通	底部一方向のヘラ削り	壺内	75% 二次 焼成 PL.57

第83号住居跡 (第161・162図)

位置 調査Ⅱ区北部のD11b7区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.05m、短軸2.30mの長方形であり、主軸方向はN-65°-Wである。壁高は25cmで、各壁とも外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。また、断面U字形の壁溝が周囲している。

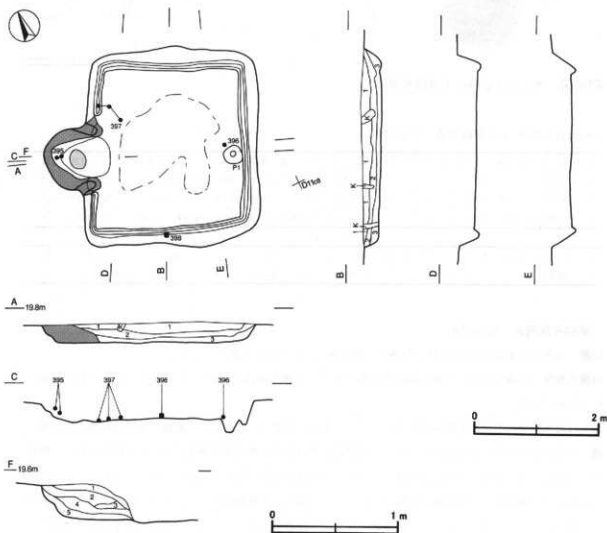
竈 西壁のやや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで105cm、袖部幅110cm、壁外への掘り込みは65cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築され、壁への取り付け部がわずかに遺存している。覆土の堆積状況から、火床面は床面と同じ高さの地山面と考えられるが、赤変硬化部分は認められない。また、煙道は火床部から階段状で立ち上がる。

竈土層解説

- |         |                        |       |                      |
|---------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 灰褐色   | ローム粒子少量、焼土ブロック・砂粒微量    | 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色   | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量     | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 にぶい棕色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |       |                      |

ピット 1か所。P1は深さ20cmで、東壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層に分層される。堆積状況は、全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積である。



第161図 第83号住居跡実測図

土層解説

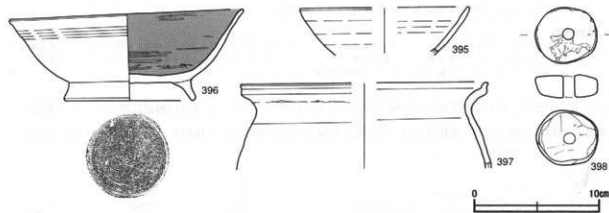
1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片110点（坏類13、甕類97）、須恵器片55点（坏類11、甕類44）、石器1点（紡錘車）が出土しており、甕類の大半は甕の覆土中及び窠付近からの出土である。土器の底部片などから推定される個体数は、土師器坏類2点、土師器甕1点、須恵器坏2点、須恵器甕類3点である。細片は全域から散在した状態で出土しているが、比較的大形の破片は覆土土層断面図の第3層中に包含されている。第162図395は窠内、396は東壁際の覆土下層、397は西壁際の床面、398は南壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第162図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
395	須恵器	坏	[13.6]	(3.8)	—	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部、体部内・外面ロクロナデ	窠覆土中	30%
396	土師器	高台付甕	18.5	7.8	10.0	雲母・赤色粒子	橙	普通	底面網絛へくすり洗、高台彫り付け	東壁際下層	80% PL57
397	土師器	甕	[19.6]	(6.9)	—	雲母・石英	暗赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ、内面ナデ	西壁際床面	10%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
398	紡錘車	5.0	1.8	0.9	52.8	凝灰岩	側面一部平滑	南壁際下層	PL65

第84号住居跡（第163図）

位置 調査Ⅱ区北部のD11b3区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.40mの方形であり、主軸方向はN-32°-Eである。壁高は12~17cmで、各壁とも直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、北壁の一部を除いて断面U字形の壕溝が周囲する。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道先端まで105cm、袖部幅110cm、壁外への掘り込みは40cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図の第3・4層がその一部である。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。覆土の堆積状況から、火床部は床面をわずかに掘りくぼめて作られていたと考えられるが、火床面の赤変部分は認められない。また、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- |         |                  |        |                     |
|---------|------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土ブロック少量         | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、砂粒少量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量   | 5 暗褐色  | ローム粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 6 褐色   | 砂粒中量、焼土ブロック少量       |

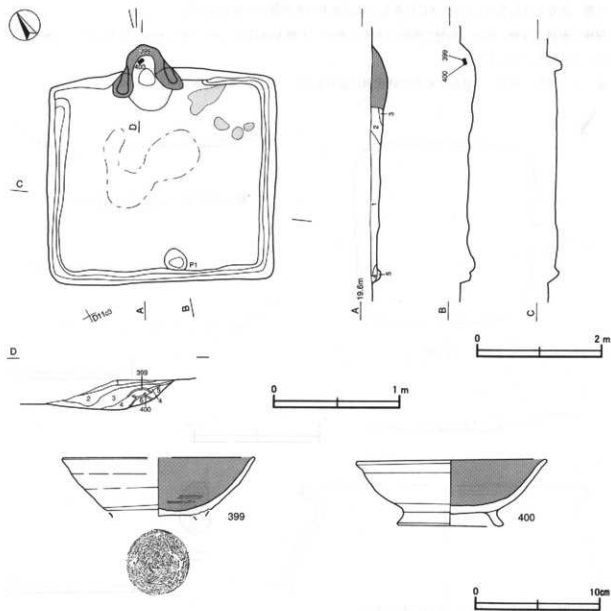
ピット 1か所。P1は深さ10cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分層される。堆積状況は、全体的に周囲から土砂流入した様相を呈しており、自然堆積である。

土層解説

- |         |                    |       |           |
|---------|--------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色   | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色   | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック少量          |       |           |

遺物出土状況 土師器片93点(坏類67, 甕類26), 須恵器片47点(坏類3, 甕類44)が、主に竈の覆土中から出土している。土師の底部片などから推定される個体数は、土師器坏4, 土師器甕4, 須恵器甕2であるが、復元できたものは第163図399・400の2個体であり、大半が住居の埋没の過程で投棄されたものと考えられる。399・400は竈の火床部の奥から、逆位で重ねられた状態で出土している。399は体部外面に焼土が付着し、部



第163図 第84号住居跡・出土遺物実測図



分的に二次焼成を受けていることから、400とともに支脚転用されていた可能性がある。また、東コーナー部から竈の右袖にかけての床面に焼土が検出されている。

所見 本跡は炭化材が検出されていないが、床面から部分的に焼土が検出されており、焼失住居である可能性もあり得る。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表（第163図）

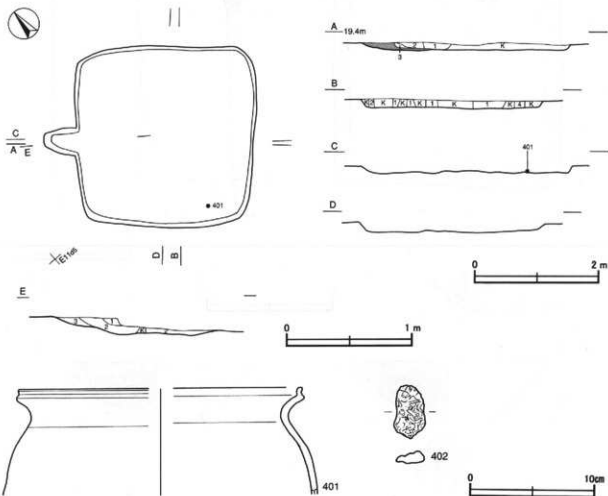
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
399	土師器	高台付碗	[15.2]	(4.6)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口クロナデ、底部回転ヘラ削り	竈内	70% 部分的に二次焼成
400	土師器	高台付碗	15.0	5.5	8.1	石英・赤色稜子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口クロナデ、高台貼り付け後、ナデ	竈内	70% PL57

第85号住居跡（第164図）

位置 調査Ⅱ区北部のE11c5区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.80mの方形であり、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は10~15cmで、各壁とも外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。全体的に軟質で硬化面は見られない。また、壁溝は検出されていない。



第164図 第85号住居跡・出土遺物実測図

竈 西壁の中央に付設されている。袖部は遺存せず、煙道部の掘り込みが確認できるだけである。煙道部の壁外への掘り込みは50cmと長く、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量  
 2 暗赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

覆土 4層に分層される。堆積状況は、覆土が薄いため判断が困難ではあるが、全体的に周囲から土砂流入した様相を呈しており、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 4 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点(斐類)、須恵器片13点(斐類)、鉄滓1点が、全城から散在した状態で出土している。第164図401は南部の覆土中から出土した破片が接合した資料である。

所見 本跡からは鉄滓が出土しているが、本跡及び周辺の遺構から鍛冶関連施設は検出されていない。本跡から出土している土器片はいずれも細片であるため、時期を明確にすることは難しい。出土土器はおおよそ9世紀代と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
401	土師器	甕	22.4	(8.6)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外面磨み付、底部内面十字	南部覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
402	鉄滓	4.2	2.6	1.0	15.4	鉄	鍛冶滓、鉄分有する	覆土上層	

第86号住居跡(第165図)

位置 調査Ⅱ区南東部のE10b9区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第1号掘立柱建物跡、第121・122号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.15mの長方形であり、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は8~10cmで、壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦であるが、西側に向かって緩やかに傾斜している。床面は全体的に軟弱で、硬化面は見られない。また、北西壁下及び南東壁下の一部を除いて断面U字状の壁溝が周囲している。

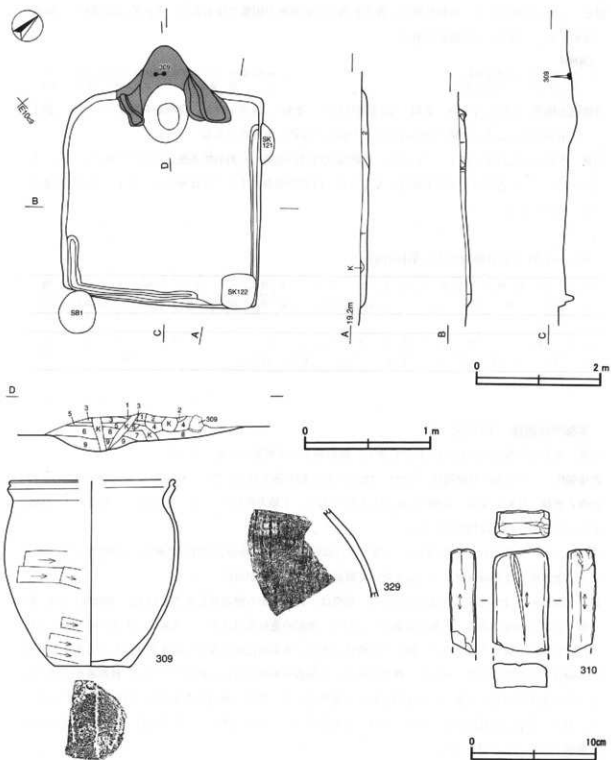
竈 北西壁のほぼ中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで150cm、袖部幅150cm、壁外への掘り込みは70cmである。天井部は崩落しており、袖部の遺存状況は悪い。袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。覆土の堆積状況から、火床面は地山面をそのまま使用したと考えられるが、赤変硬化した部分は認められない。煙道部から、土師器小形甕が逆位で出土している。被熱痕が認められ、さらにその出土状況から支脚として使用された可能性がある。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。なお、覆土の各層に比較的多くのロームブロックや焼土ブロックが含まれている状況は、本跡の廃絶時に人為的に破壊されたことが想定される。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量  
 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

- |        |                                     |       |                             |
|--------|-------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 4 黒褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量           | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量     |
| 5 麻暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量、炭化物微量           | 8 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・砂粒微量   |

覆土 3層に分層される。層厚が最大で10cmと薄いため、堆積状況は不明である。



第165図 第86号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 にぶい棕色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 にぶい棕色 ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片30点（坏類6点、甕類24点）、須恵器片8点（甕類）が出土している。第165図309・329は竈内から出土し、309は前述した土師器小形甕である。310は覆土中から出土している。

所見 時期を推定できる出土遺物が少ないために、本跡の時期を推定することは困難である。出土遺物中に須恵器坏類が含まれていないことや、体部外面に縦格子目叩きが施された須恵器片が出土していることから、本跡の時期は9世紀後半と考えられる。

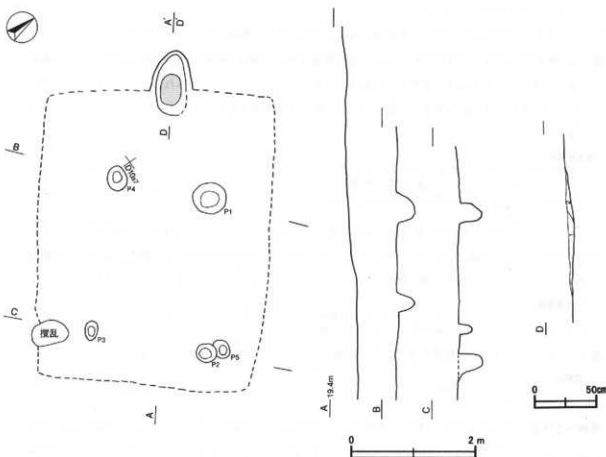
第86号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
309	土師器	甕	[12.8]	14.9	6.0	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ、底部木炭痕	竈内遺部	40% 二次焼成
329	須恵器	鉢	—	(7.0)	—	赤色粒子	にぶい黄橙	不良	体部外面縦格子目叩き	竈覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
310	紙石	(8.2)	4.4	2.1	(112)	砂岩	紙面3面、溝状の擦痕2本有り	覆土中	P1.66

第87号住居跡（第166図）

位置 調査Ⅱ区南東部のE10a7区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。



第166図 第87号住居跡実測図

**確認状況** 硬化面まで削平された状態で検出された。

**規模と形状** 窓の位置及び主柱穴の位置、さらに暗褐色をした床面の広がりから推定し、N-51°-Wを主軸とする長軸3.40m、短軸3.00mの長方形と考えられる。

**床** 硬化面や壁溝は検出されていない。

**竈** 北西壁中央部と推定される位置から、火床部及び煙道部が検出された。煙道部の壁外への掘り込みは50cmほどである。火床面は北西壁ライン上で、地山面をそのまま使用しており、赤褐色化している。

**竈土層解説**

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量  
2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

**ピット** 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは22～36cmである。P5は不明である。

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 本跡からは遺物が出土していないため時期の判断が困難であるが、周辺に本跡とほぼ同一方向の主軸方向をもつ9世紀後半に位置付けられる住居跡が点在することから、本跡もこの時期に位置付けられると推定される。

### 第88号住居跡（第167回）

**位置** 調査地区南部のE10e1区に位置し、低地上の平坦部に立地している。

**重複関係** 第157号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.55m、短軸3.10mの長方形であり、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は10cmで、壁の立ち上がり具合は判然としない。

**床** ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。また、壁溝は検出されていない。

**竈** 北西壁のやや北寄りにつ設されている。遺存状況は悪く、煙道部の掘り込みが確認できただけである。覆土の堆積状況から、火床部は床面を皿状に掘りくぼめて作られていたと考えられるが、火床面の赤褐色部分は認められない。また、煙道部の壁外への掘り込みは、壁の遺存状況が悪いにもかかわらず約80cmと長く、火床部から緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量  
2 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、砂粒微量  
3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量  
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量

**ピット** 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは15～20cmである。P5は深さ23cmで、南東壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。P6は北コーナー部に位置する。覆土に焼土や炭化物などが含まれていることから、竈から掻き出した灰などを捨てたピットの可能性がある。P7は不明である。

**P6土層解説**

- 1 濃い黄褐色 焼土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量  
2 暗褐色 焼土ブロック中層、焼土ブロック・炭化粒子微量  
3 暗褐色 焼土ブロック少量、焼土ブロック微量

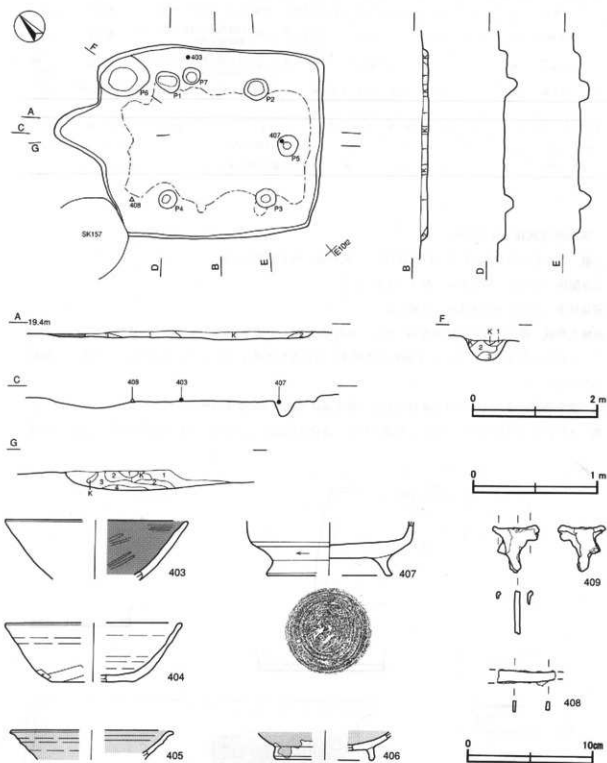
**覆土** 3層に分層される。攪乱が著しいうえ、覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- 1 黄褐色 ロームブロック微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片72点(坏類35、甕類37)、須器器片28点(坏類22、甕類5、釜1)、灰釉陶器片4点(椀)、鉄器1点(鏃)、不明銅製品1点が出土しており、比較的大形の破片が壁近くから出土している。第167回403・407・408は床面、404～406・409は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第167図 第88号住居跡・出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表 (第167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
403	土器	杯	[14.6]	(4.7)	—	赤褐色粘土	灰青褐色	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	北東壁際体面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
404	土師器	坏	[13.9]	4.7	[ 6.6]	雲母・長石	灰黄褐色	普通	底部一方のヘラ削り	覆土中	40%
405	灰軸陶器	輪	[12.6]	(2.3)	—	長石	灰白、軸色不明	良好	口縁部内・外面ロクロナデ、軸は刷毛塗り	覆土中	5% 遠江産
406	灰軸陶器	輪	—	(2.3)	[ 7.6]	緻密	灰白、灰オリーブ	良好	高台貼り付け後、ロクロナデ、軸は刷毛塗りか	覆土中	5% 粟波原(原第90号式か)
407	須恵器	盤	—	(4.3)	[10.0]	雲母・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	P 5付近表面	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
408	刀子	(4.7)	(1.1)	0.3	(2.9)	鉄	刀身部・茎尻部欠損	西コーナー床面	PL67
409	不明	3.7	3.7	0.5	12.3	銅	板状 弧状の線を有す	覆土中	

### 第89号住居跡 (第168図)

位置 調査Ⅱ区南東部のE11e3区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

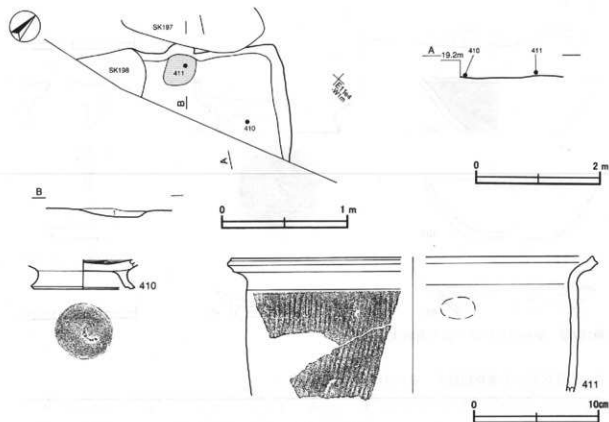
重複関係 第197・198号土坑に掘り込まれている。

確認状況 南部は調査区域外に位置する。

規模と形状 確認されたのは南北軸1.85m、東西軸は第198号土坑に掘り込まれているため推定で3.20mである。主軸方向はN-42°-Wで、平面形は方形または長方形と推定される。壁高は20cmで、各壁とも外傾して立ち上がる。

床 調査範囲内は、ほぼ平坦で軟質である。硬化面は見られず、壁溝は検出されていない。

竈 北壁の中央に付設されていたと推測される。遺存状況は悪く、確認できたのは火床部と煙道部の一部だけ



第168図 第89号住居跡・出土遺物実測図

である。火床面は北壁ラインの内側に位置し、焼土・炭化物・灰が混じった暗赤褐色土が堆積している。

#### 覆土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、灰微量

**覆土** ロームブロックを含む暗褐色土の単一層である。堆積状況は、人為堆積の可能性が高い。

**遺物出土状況** 土師器片37点(坏類8, 甕類19), 須恵器片31点(甕類)が, 全域から散在した状態で出土している。第168図410は北東部, 411は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の時期は, 出土土器の様相から9世紀後半と考えられる。

#### 第89号住居跡出土遺物観察表 (第168図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
410	土師器	高台付坏	—	(2.3)	(7.7)	灰母	にぶい赤黄	普通	蓋部細柄ヘラ切り後高台付付け	北東部下層	30%
411	須恵器	鉢	[28.8]	(10.8)	—	雲母長石多量	灰黒	普通	内面ナデ, 歯面痕	竈前下層	5%

#### 第90号住居跡 (第169・170図)

**位置** 調査Ⅱ区南西部のE 8 c 7 区に位置し, 低台地上の平坦部に立地している。

**重複関係** 第25号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸は第25号溝に掘り込まれているため, 確認できた長さで3.50m, 短軸3.00mで, 主軸方向をN-45°-Wとする長方形と推定される。壁高は30~45cmで, 外傾して立ち上がる。

**床** ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。また, 北西壁の一部を除いて断面U字形の溝溝が周回する。

**竈** 北西壁のやや南寄りに付設されている。抽部は遺存せず, 天井部は崩落している。竈土層断面図の第5・7層が崩落土の一部である。覆土の堆積状況から, 火床面は竈1層断面図の第10層の上面と考えられ, 北西壁ライン上に位置する。火床部の奥には, 土師器小形甕が逆位で据えられている。二次焼成を受けており, 支脚に転用されていたと考えられる。また, 煙道部の壁外への掘り込みは40cmほどで, 火床部から外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- |        |                            |          |                                 |
|--------|----------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色  | 焼土粒・炭化粒・粘土粒少量              | 6 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土粒・粘土粒・砂粒微量            |
| 2 暗褐色  | 焼土粒微量                      | 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒・焼土粒・粘土粒微量             | 8 暗赤褐色   | 焼土ブロック・炭化粒・粘土粒・砂粒微量             |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒少量, 炭化粒・粘土粒・砂粒微量        | 9 暗赤褐色   | 焼土ブロック少量, 粘土粒・砂粒微量              |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒少量, ロームブロック・砂粒微量 | 10 暗赤褐色  | 焼土粒少量, 炭化粒・粘土粒・砂粒微量             |

**覆土** 7層に分層される。堆積状況は, 全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており, 自然堆積である。

第6層は粘性が強く砂粒が含まれていることから, 電材が流出したものと考えられる。

#### 土層解説

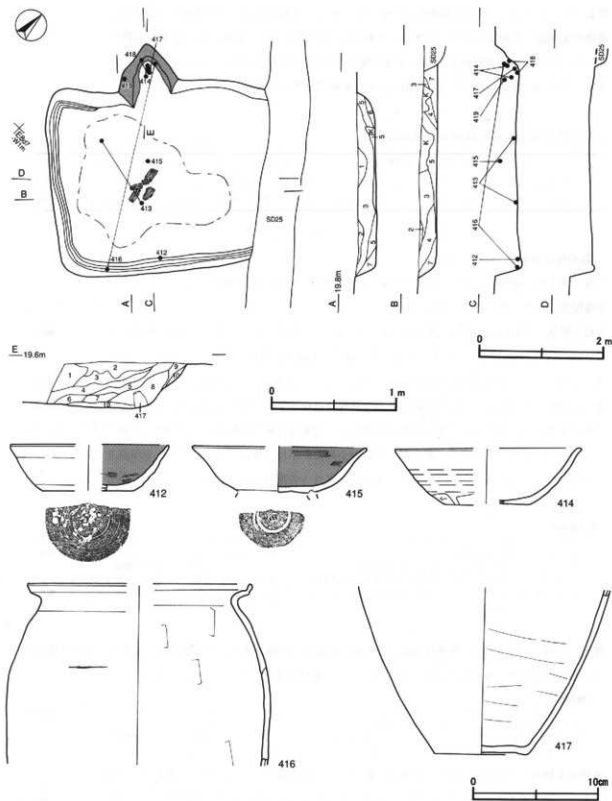
- |       |                      |       |                          |
|-------|----------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒少量               | 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量     | 6 暗褐色 | 粘土粒少量, 砂粒微量              |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒微量 | 7 褐色  | ロームブロック微量                |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒微量     |       |                          |

**遺物出土状況** 土師器片188点(坏類33, 甕類155), 須恵器片29点(坏類8, 甕類21)が出土しており, 甕類の大半は竈の覆土中からの出土である。土師の底部片などから推定される個体数は, 土師器坏4点, 須恵器坏2点, 土師器高台付坏1点, 土師器甕5点(内4点は竈内), 須恵器鉢1点である。第169図416は, 南コーナー付近の覆土下層から出土した破片と竈内から出土した破片が接合した資料である。417は, 前述した支脚転用

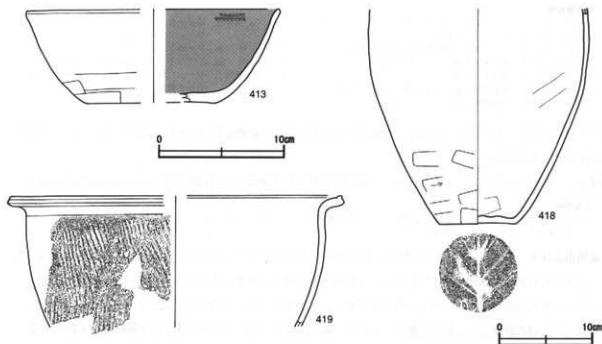


と考えられる土師器小形甕である。また、中央部の床面からコーナーに向かって炭化材が検出されている。

所見 本跡は炭化材の出土状況から、住居の廃棄後間もなく焼失した可能性が考えられ、出土土器から時期は9世紀中葉と考えられる。



第169図 第90号住居跡・出土遺物実測図



第170図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第169・170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
412	土師器	坏	[12.8]	3.8	(7.0)	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	南東壁下層	30% 二次焼成
413	土師器	碗	[20.0]	7.5	[10.0]	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部多方向のヘラ削り	中央部下層	40%
414	須恵器	坏	[14.8]	4.5	[6.8]	雲母・石英	にぶい黄褐	普通	底部一方のヘラ削り	竈覆土中	40% 二次焼成
415	土師器	高台付坏	[14.0]	(3.6)	—	雲母・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	中央部中期	30%
416	土師器	甕	[17.8]	(14.5)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面微ナデ, 体部内面ナデ	南部下層・室内	10%
417	土師器	甕	—	(13.4)	7.4	雲母・長石・石英	橙	普通	磨耗のため体部外面の調整不明, 体部内面ナデ	竈火床部奥	30% 二次焼成
418	土師器	甕	—	(23.0)	8.1	雲母・長石・石英	赤褐	普通	体部内面ナデ, 底部木炭痕	竈覆土中	40%
419	須恵器	鉢	[34.4]	(13.8)	—	雲母・長石・石英	にぶい褐	不良	口縁部内・外面口クロナデ	竈覆土中	5%

#### 第96号住居跡 (第171・172図)

位置 調査Ⅱ区南西部のF 8 a 6 区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.05mの長方形であり、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は10~20cmで、各壁とも外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、北西壁下を除いて断面U字状の壁溝が周回する。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで80cm、袖部幅105cm、壁外への掘り込みは40cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に、ロームブロックを含む暗褐色土を基部とし、その上に砂粒を含む黄褐色粘土を用いて構築されている。覆土の堆積状況から、火床部は床面をわずかに掘りくぼめて作られていたと考えられるが、火床部の赤変部分は認められない。火床部の奥では、土師器坏、須恵器坏、土師器小形甕などが並進で重ねられ、支脚に転用されている。また、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

**竪土層解説**

- |          |                    |           |                                |
|----------|--------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量       | 8 にぶい黄褐色  | 砂粒多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック・ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色    | 焼土ブロック微量           | 9 暗褐色     | ロームブロック中量                      |
| 3 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 10 暗褐色    | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子微量               |
| 4 暗赤褐色   | 焼土粒子中量、ローム粒子少量     | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック微量     |
| 5 暗赤褐色   | 焼土粒子中量             |           |                                |
| 6 にぶい赤褐色 | 砂粒多量、粘土粒子中量、焼土粒子少量 |           |                                |
| 7 にぶい黄褐色 | 砂粒多量、粘土ブロック少量      |           |                                |

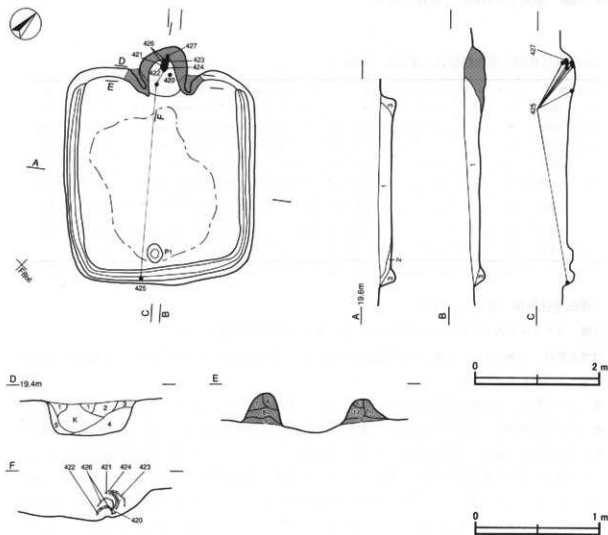
ピット 1か所。P1は深さ5cmほどと掘り込みは浅いが、南東壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層に分層される。堆積状況は、全体的に周囲から土砂流入した様相を呈しており、自然堆積である。

**土層解説**

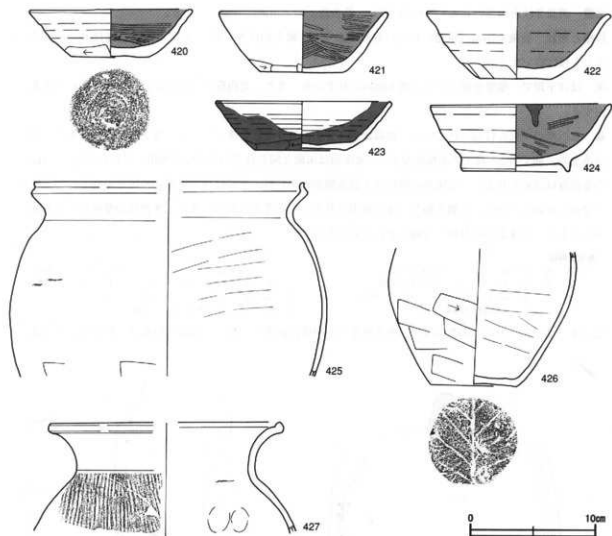
- |       |                       |      |                  |
|-------|-----------------------|------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量             |      |                  |

遺物出土状況 土師器片146点（坏類40，甕類106），須恵器片126点（坏類30，甕類96）が出土している。細片は全城から散在した状態で出土しており、比較的大形の破片は壁際の上層から中央部の中層にかけて出土している。土師の底部片などから推定される個体数は、土師器坏7点，須恵器坏2点，土師器高台付坏1点，土師器甕3点，須恵器甕2点，須恵器板1点である。第172図420～424・426は前述した支脚転用の土器である。423の上部には、425・427などの破片が確認できただけでも12片重ねられている。これは、坏類や甕を重ねただけ



第171図 第96号住居跡実測図

では不足する高さを補う調整の結果と推測される。



第172図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
420	土師器	坏	12.9	3.9	6.0	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面口クロナデ、底部回転ヘラ切り	竈内	98% 二次焼成 PL57
421	土師器	坏	13.3	5.0	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面口クロナデ、底部一方方向のヘラ削り	竈内	95% 部分的に二次焼成 PL57
422	土師器	坏	[14.5]	5.3	5.6	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面口クロナデ、底部一方方向のヘラ削り	竈内	50% 二次焼成
423	須恵器	坏	13.9	4.0	7.0	雲母・長石	にぶい黄	普通	底部一方方向のヘラ削り	竈内	100% 内・外面灰附着 PL57
424	土師器	高台付坏	14.4	5.5	8.8	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り付、高台貼り付け	竈内	95% 部分的に二次焼成 PL57
425	土師器	甕	[21.6]	(15.6)	—	雲母・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部内面ナデ	竈内	20%
426	土師器	小形甕	—	(11.0)	6.9	雲母・石英	にぶい褐	普通	体部内面ナデ、底部木葉痕	竈内	50%
427	須恵器	甕	[18.4]	(8.8)	—	雲母・長石	灰	普通	口縁部内・外面口クロナデ、内面磨痕	竈内	10%

第97号住居跡（第173・174図）

位置 調査Ⅱ区南西部のE8e7区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.40mの方形であり、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は35～45cmで、各壁ともほぼ直立する。

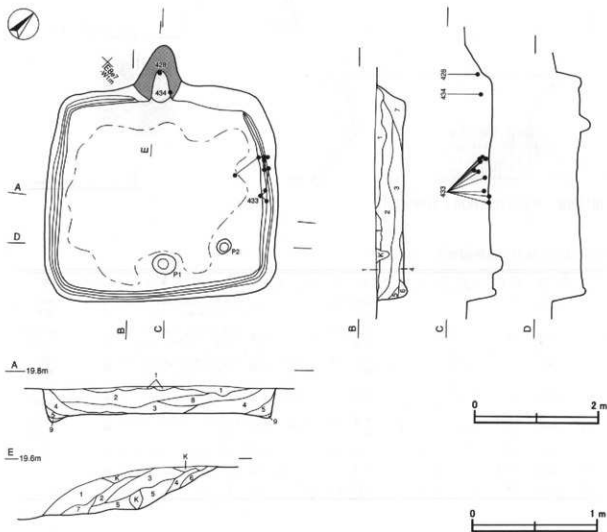
床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。また、北西壁の一部を除いて断面U字形の壁溝が周回する。

竈 北西壁の中央に付設されている。袖部は遺存せず、天井部は崩落している。竈土層断面図の第3・4層が崩落土の一部である。覆土の堆積状況から、火床面は床面と同じ高さの地山面を利用していたと考えられるが、赤変部分は認められない。火床部の奥には土製支脚が据えられ、上部には土師器坏が伏せられている。被熱痕が認められることから、土製支脚と一体で使用されていたと考えられる。また、煙道部の壁外への掘り込みは60cmほどで、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- |       |                               |          |                     |
|-------|-------------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量                 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、砂粒微量  |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量                | 5 暗褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物粒子微量 | 6 暗褐色    | ローム粒子中量             |
|       |                               | 7 暗褐色    | 焼土ブロック微量            |

ピット 2か所。P1は深さ15cmで、南東壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。



第173図 第97号住居跡実測図

P2は東コーナー部に位置する。位置的には支柱穴の可能性はあるが、これに対応するピットは検出されていない。

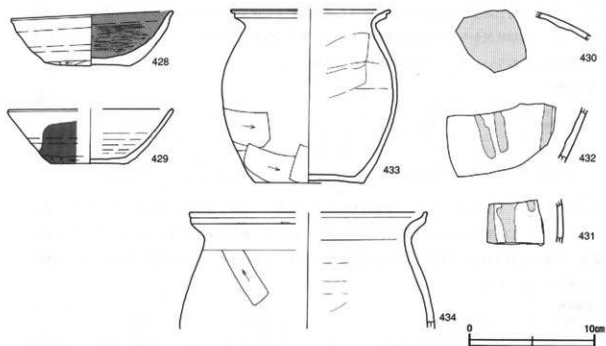
**覆土** 9層に分層される。堆積状況は、同一色調の土層内にロームブロックが不規則に混入している様相から、人為堆積と判断される。

**土層解説**

- |       |                    |       |                     |
|-------|--------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子微量             | 6 暗褐色 | ロームブロック少量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量     | 7 褐色  | 焼土ブロック・炭化粒子微量       |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量   | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量     |       |                     |

**遺物出土状況** 土師器片92点(環類48, 甕類44), 須恵器片71点(環類12, 甕類59), 灰輪陶器3点(瓶類)が, 主に壁際の覆土下層から出土している。土器の底部片などから推定される個体数は, 土師器環6点, 須恵器環4点, 土師器甕5点, 須恵器甕3点である。第174図428は前述した支脚転用と考えられる土師器環で, この上には更に須恵器甕の体部片が重ねられている。これは煮炊具として使用された甕の大きさに合わせて調整した結果と推測される。430~432は覆土中から出土しているが, 胎土及び釉薬の発色などから同一個体の可能性が高く, 猿投産(井ヶ谷78号窯式~黒笹14号窯式)と考えられる。433は北東壁際から廃棄されたような状態で出土している。

**所見** 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第174図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表(第174図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	土師器	環	12.9	4.4	5.8	雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ, 底部一方向のヘラ削り	竈火床部奥	90% 部分的に 二次焼成 PL58
429	須恵器	環	[13.0]	4.4	6.1	雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 底部一方向のヘラ削り	覆土中	40% 内・ 外面煤付着
430	灰輪陶器	瓶類	—	(2.0)	—	緻密	灰黄, 灰 オリーブ	良好	体部内・外面ロクロナデ, 軸は流し削りか	覆土中	3% 431, 432 と同一個体か

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
431	灰釉陶器	瓶類	—	(3.5)	—	鉄青	灰黄、灰オリーブ	良好	体部内・外面ロロナナ、輪は流し掛けか	覆土中	35% 430, 431と同一器体か
432	灰釉陶器	瓶類	—	(4.5)	—	鉄青	灰黄、灰オリーブ	良好	体部内・外面ロロナナ、輪は流し掛けか	覆土中	5% 430, 431と同一器体か
433	土師器	小形壺	[12.4]	13.8	8.6	雲母・長石・石英	灰黄	普通	口縁部内・外面横ナア、体部内面ヘラナア	北東壁際中下層・床面	45% 内・外両面墨付着 PL58
434	土師器	甕	[19.0]	(9.3)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤黄	普通	口縁部内・外面横ナア、体部内面ヘラナア	室内	10%

### 第98号住居跡 (第175図)

位置 調査Ⅱ区南西部のE9a1区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 竈の両側に、地山のロームを掘り残して棚状施設が付設されている。それを含めると長軸3.55m、短軸3.40mの方形であり、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は40~50cmで、各壁ともほぼ直立する。棚状施設の規模は、竈の左右ともほぼ同規模で、幅約120cm、奥行約50cm、床面からの高さ30~45cmほどである。棚の上面及び壁面には、粘土などで化粧した痕跡は確認されていない。

床 ほぼ平坦で、中央部が窪み凹められている。また、椀溝は検出されていない。

竈 北壁の中央に付設されている。規模は、焚口部から煙道部先端まで115cm、単外への掘り込みは35cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図の第3・5・12層が崩落した天井部の一部である。袖部の遺存状況は悪く、床面と同じ高さの地山面上に砂粒を含む黄褐色粘土で構築された基部がわずかに遺存しているのみである。覆土の堆積状況から、火床部は床面をわずかに掘りくぼめて作られていたと考えられるが、火床面の小変部分は認められない。また、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

1 筒 色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量	8 暗 褐色 romeブロック・灰土ブロック・炭化物微塵
2 暗 褐色 romeブロック微量	9 にぶい黄褐色 romeブロック少量
3 暗 褐色 romeブロック・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色 romeブロック微量
4 暗 赤褐色 romeブロック・焼土ブロック・炭化粒子微塵	11 褐色 rome粒子中量、炭化粒子・砂粒微塵
5 暗 赤褐色 焼土ブロック少量、romeブロック・炭化粒子微塵	12 暗 赤褐色 romeブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒少量
6 暗 赤褐色 焼土ブロック少量	13 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒多量
7 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化物微塵	

ピット 3か所。P1は深さ15cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。P2・P3は、ともに深さ10cmほどで棚状施設の上面に位置する。棚状施設に関連するものと考えられる。

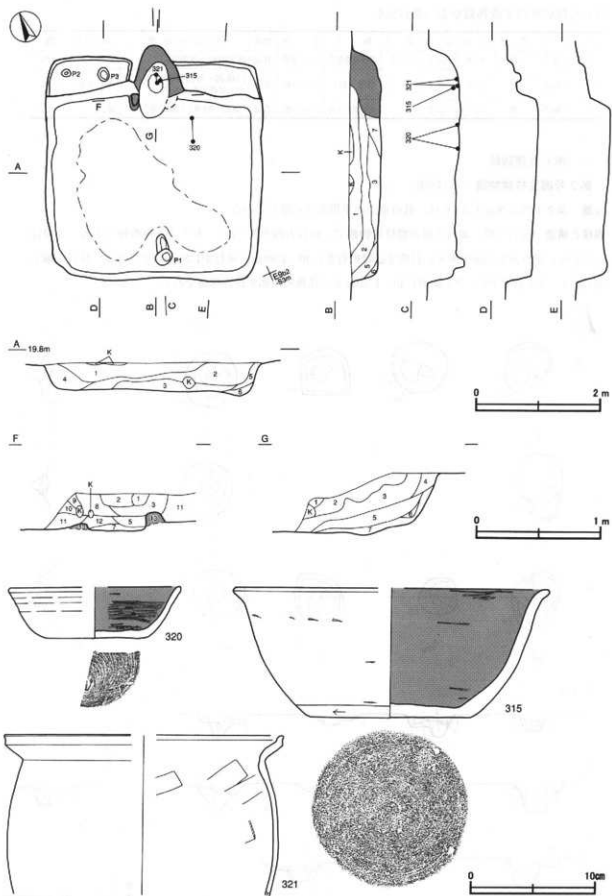
覆土 7層に分層される。堆積状況は、同一色調の上層内にロームブロックが不規則に混入している様相から、人為堆積と判断される。

#### 土層解説

1 暗 褐色 romeブロック少量	5 暗 褐色 romeブロック少量
2 筒 色 romeブロック中量	6 暗 褐色 romeブロック少量
3 暗 褐色 romeブロック・炭化粒子微塵	7 暗 褐色 romeブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微塵
4 暗 褐色 romeブロック中量	

遺物出土状況 土師器片56点(坏類11、甕類45)、須恵器片2点(坏類、甕類)が、全域から散在した状態で出土している。第175図315・321は竈の天井部崩落土中、320は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも残存率は低く、破断面が磨滅していないことなどから、本跡廃絶後の埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は竈の両側に棚状施設を有する住居跡であり、当遺跡ではこの形状は本跡のみである。また、棚状施設の上面にピットを有する形態は稀有なものである。時期は、出土土器の様相から9世紀後半と考えられる。



第175图 第98号住居跡・出土遺物実測図



第98号住居跡出土遺物観察表 (第175図)

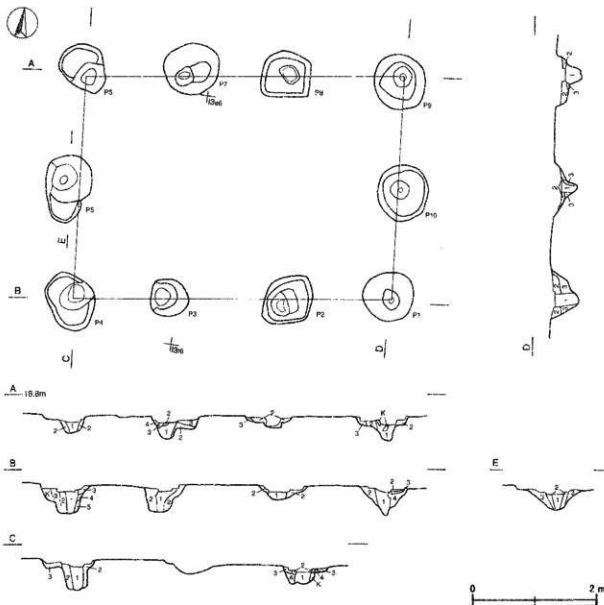
番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
315	土師器	鉢	[24.6]	10.3	12.6	雲母・赤色灰子	にぶい	黄緑	普通	底部回転ヘラ削り	竪内	50%
320	土師器	環	[13.6]	4.1	[7.6]	雲母・長石	にぶい	黄	普通	11線部・外部外面口クロナダ、底部回転ヘラ削り	竪内下層	30%
321	土師器	甕	[22.0]	(12.8)		雲母・長石・石灰	にぶい	黄	普通	山腹部中央無灰子、外壁内部ヘラナデ	竪内	10%

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 (第176図)

位置 調査1区北西部I 3 e 6区、低台地上の平坦部に立地している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の竪柱建物跡で、桁行方向をN-81°-Eとする東西棟である。規模は桁行長5.00m、梁行長3.55mであり、柱間寸法は桁行が1.40~1.80m、梁行が1.80mほどである。柱筋が揃い、柱間はP3~P4間とP6~P7間が1.40・1.50mと、建物の西部が短い構造である。



第176図 第2号掘立柱建物跡実測図

柱穴 平面形は長径65～107cm、短径60～83cmの円形または不整形円形で、深さは18～50cmである。第1層が柱の抜き取り痕、第2層は埋土が崩れた土層で、締まりが弱い。第3～5層は埋土で、褐色土・暗褐色土で互層に突き固められている。P4～P6には径50～70cmほどの張り出しがあり、柱を抜き取る際に掘り込まれた跡と考えられる。

土層解説 (P1～P6)

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量  |
| 2 褐色 ロームブロック少量      | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量        |                |

遺物出土状況 土師器片38点(坏類3, 甕類35), 須恵器片7点(坏類5, 蓋1, 甕類1)が出土している。P1内からの出土が多く、土師器片27点, 須恵器片5点とその大半を占めている。

所見 本跡は出土土器が細片であるため、明確な時期判断は困難であるが、時期は8世紀後半から9世紀前半と推定される。

(3) 井戸跡

第13号井戸跡 (第177図)

位置 調査I区西部のI3f2区、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.38m、短径1.10mの楕円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.40mほどである。

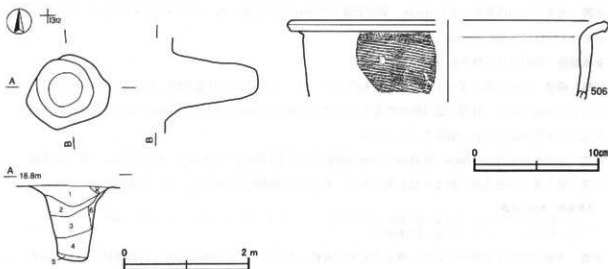
覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量          |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量        | 6 暗褐色 ロームブロック少量          |

遺物出土状況 土師器片10点(坏類1, 甕類9), 須恵器片8点(坏類2, 蓋1, 甕・甌5)が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

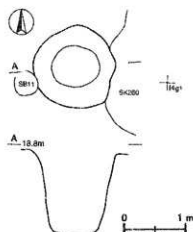


第177図 第13号井戸跡・出土遺物実測図

第13号井戸跡出土遺物観察表 (第177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	須恵器	甌	[24.8]	(6.2)	—	長石・雲母	黒褐	不良	口縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

### 第14号井戸跡 (第178図)



第178図 第14号井戸跡実測図

**位置** 調査I区北部のI3f0区、低台地上の平坦部に立地している。  
**重複関係** 第260号土坑を掘り込み、第11号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.30mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.35mほどである。

**遺物出土状況** 土師器片5点(壺頸)、須恵器片1点(杯)が出土している。

**所見** 出土土器がいずれも細片で明確な時期判断が困難であるが、出土した土器片から8世紀から9世紀代と推定される。

## 3 中・近世の遺構と遺物

今回の調査で、中・近世の遺構は、掘立柱建物跡16棟、櫓列跡1条、井戸跡17基、土壌墓53基、土坑4基、溝8条が確認された。これらの内、掘立柱建物跡、井戸跡、土壌墓と、これらとの関連性が深いと想定される第4・31～33号溝について出土遺物とともに記述する。

なお、土壌墓以外の土坑(第57・66・206・321号土坑)と第6・7・22・29号溝については、ここでは取り扱わずに、「4 その他の遺構」で一覧表での記述とする。

### (1) 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡(第179図)

**位置** 調査II区の南東部のE10d9区、第33号溝から20mほど南東、第7号井戸や第8号井戸に隣接した低台地上の平坦部に立地している。

**重複関係** 第86号住居跡を掘り込んでいる。

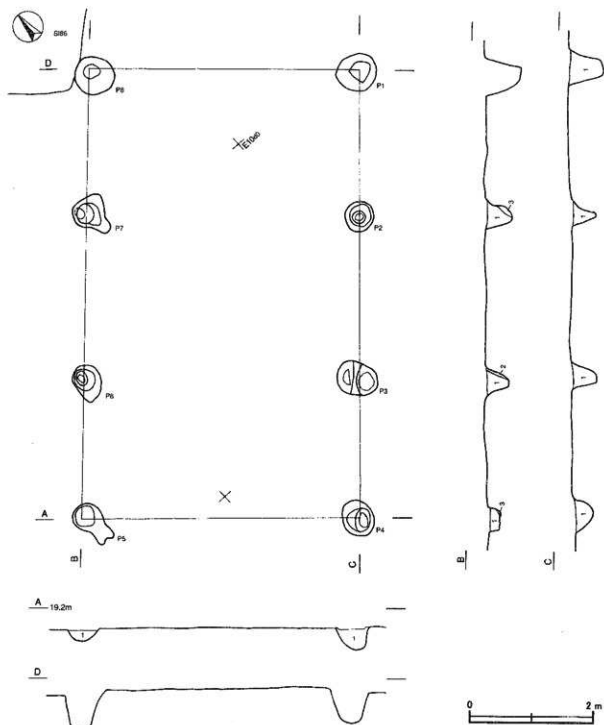
**規模と構造** 桁行3間、梁行1間で、桁行方向をN-44°-Eとする掘立柱建物跡である。規模は桁行長7.20m、梁行長4.40mであり、柱間寸法は桁行が北から2.34・2.66・2.20m、梁行が4.40mである。柱筋は揃うが、西妻部より中央部がやや長い構造を示している。

**柱穴** 平面形は長径50～68cm、短径46～50cmの円形または楕円形で、深さは20～60cmである。柱の抜き取り痕は第1層と考えられるが、輪まりは普通である。第2・3層は埋土であるが、強く突き固められてはいない。

#### 土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

**所見** 本跡には出土遺物がないが、構造や柱穴の規模・形状から中世と推定され、位置関係と桁行方向から16世紀の第33号溝に区画されていることが想定される。



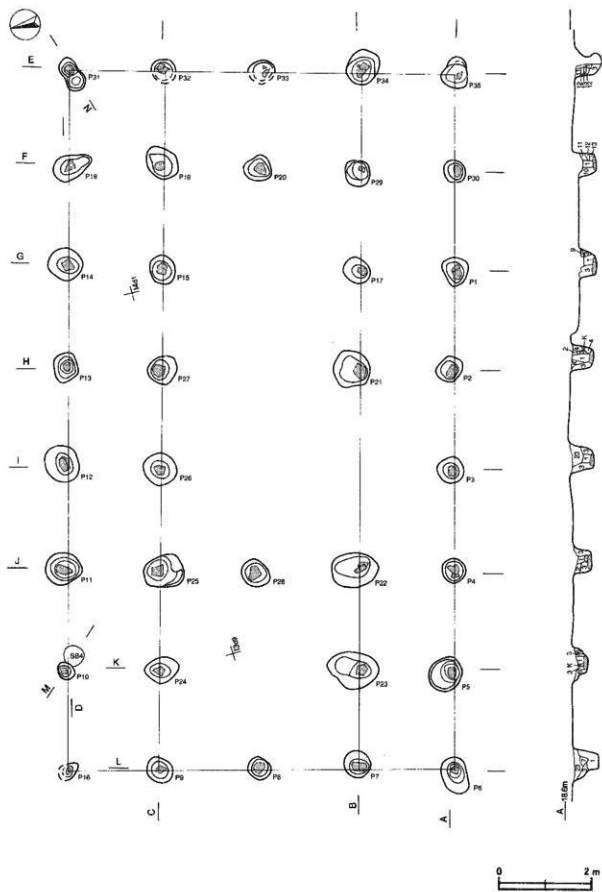
第179図 第1号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡 (第180・181図)

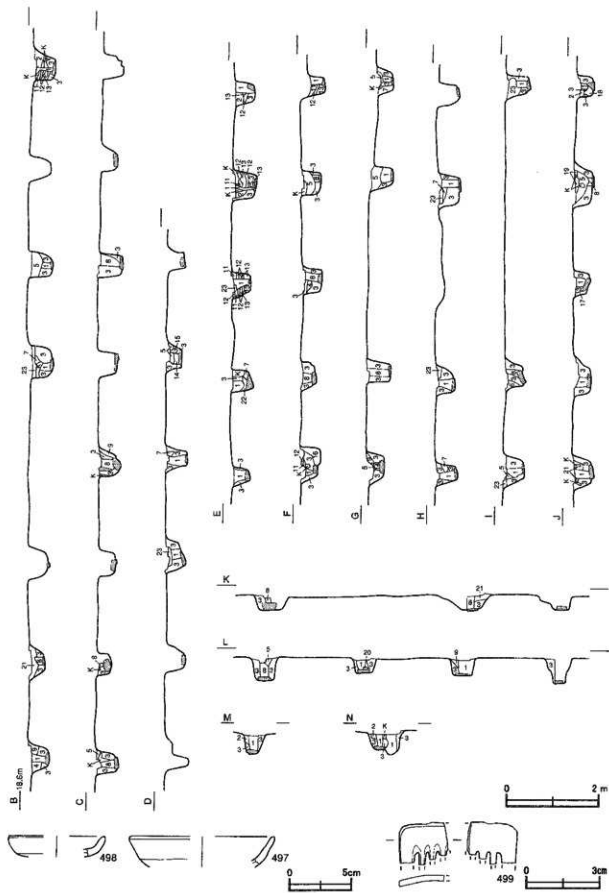
位置 調査1区北部の13d9区、第31号溝から18mほど西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号住居跡・第4号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、第5・9・11号掘立柱建物跡とも重複しているが、第11号掘立柱建物跡は第4号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから本跡が新しく、第5・9号掘立柱建物跡とは柱穴が切り合っていない。

規模と構造 桁行7間、梁行4間の建物跡で、桁行方向を $N-73^{\circ}-W$ とする東西棟である。規模は桁行長14.70



第180图 第3号掘立柱建物跡実測図



第181图 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

m、梁行長8.10mあり、柱間寸法は桁行・梁行ともに2.10mほどで、柱筋と間尺が揃う構造である。構造については、総柱建物跡や、西面を除く三面あるいは四面に、縁または庇が付属した建物跡と考えられるが、いずれとも判断しがたい。

**柱穴** 平面形は長径40～110cm、短径36～72cmの円形または楕円形で、深さは24～48cmである。いずれの柱穴にも、長軸28～35cm、短軸20～25cmの方形または長方形で、厚さ4～8cmの雲母片岩が底面に埋め込まれ、根石として利用されている。柱の抜き取り痕または柱痕は第1・8層で、締まりが弱い。その他の上層は埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土や褐色土、粘土ブロックで突き固められている。なお、P26では、根石の他に板状の石が柱の抜き取り痕の側から立てかけた状態で検出されており、柱を支える目的で埋め込まれたと推定される。また、柱穴掘り方の形状と土層から、P5・P22・P23は北に、P6は西に、P25は南に抜き取られたと考えられる。

**土層解説 (各柱穴共通)**

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	13	暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
3	褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	15	暗褐色	ロームブロック中量(第6層より締まり強)
4	暗褐色	ローム粒子中量	16	暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	17	暗褐色	ロームブロック多量、粘土粒子少量
6	褐色	ロームブロック中量	18	暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	19	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	20	暗褐色	ロームブロック多量
9	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量	21	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	22	暗褐色	ロームブロック多量(第20層より締まり強)
11	暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量	23	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
12	暗褐色	ロームブロック多量、粘土粒子少量			

**遺物出土状況** 土師質土器片20点(小皿)、陶器片2点(常滑甕)、石39点(柱穴根石)、鉄洋5点、甌甲製品1点(櫛)が出土している。鉄洋はP14・P15の柱抜き取り痕から出土している。また、P8・P15・P16・P33の柱抜き取り痕とP16から炭化材が出土している。

**所見** 本跡は、各柱穴に根石を持ち、約120㎡の面積を有する当遺跡では最大規模の建物跡である。規模と構造から、主屋としての機能を果たしていたと考えられるが、その構造については明確にしがたい。本跡の時期であるが、桁行方向から見て13世紀後半～14世紀前半の第31号溝が、本跡や第4・10・11号掘立柱建物跡を区画する溝と考えられ、その重複関係から、本跡は第31号溝と関連する掘立柱建物跡の中では最も新しく、時期は第31号溝が機能していた最終期と推定される。

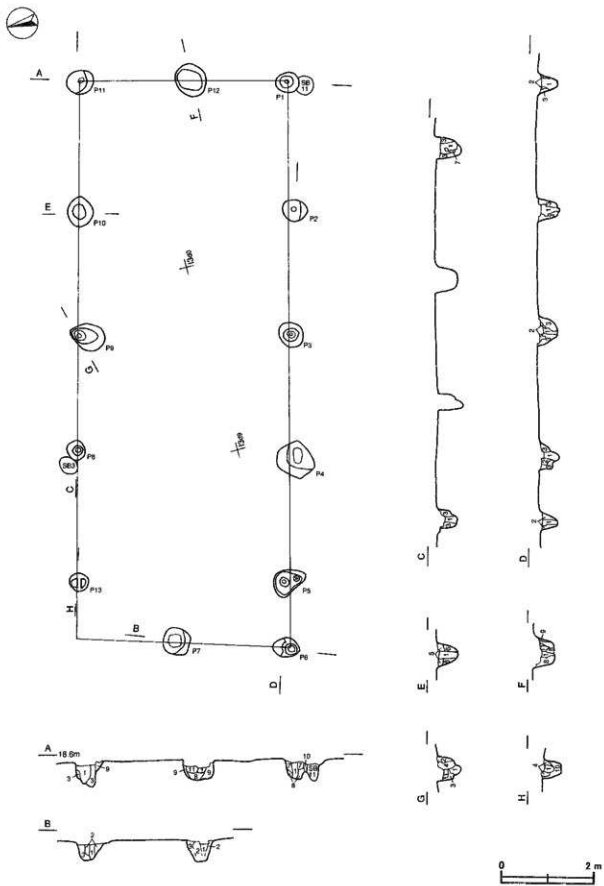
**第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第181回)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
497	土師質土器	小皿	[11.5]	(2.4)	-	砂粒・スコリア	橙	普通	口縁部及び底部内・外面横ナデ、底部外面指オサエナデ	P10内	10%
498	土師質土器	小皿	[7.6]	(1.7)	-	砂粒・スコリア・バミス	橙	普通	口縁部及び内・外面横ナデ、底部外面指オサエナデ	P10内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
499	櫛	(2.0)	(1.7)	0.25	(0.8)	甌甲製	横溝、端部と歯の基部残存	P27柱抜き取9区・P170	

**第4号掘立柱建物跡 (第182回)**

**位置** 調査I区北部13c9区、第31号溝から22mほど北西、第10号掘立柱建物跡から約6m北西の底台地上の平坦部に立地している。



第182图 第4号掘立柱建物跡実測图



重複関係 第3号掘立柱建物跡に掘り込まれ、第11号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、柱穴の切り合いはないが、第5号掘立柱建物跡とも重複している。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向をN-73°-Wとする東西棟である。規模は桁行長12.00m、梁行長4.40mあり、柱間寸法は梁行2.00~2.45mで、桁行は2.50~2.80mを基調とするが、P5~P6間は1.40mで、西部部の柱間が短い構造である。北西部の隅柱は確認されなかった。

柱穴 平面形は長径38~76cm、短径38~56cmの円形または楕円形で、深さは42~54cmである。柱の抜き取り痕は第1層、柱の抜き取りに伴う埋め戻し土が第11層とともに締まりが弱く、その他の上層は埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土や褐色土などで突き固められている。

#### 土層解説 (各柱穴共通)

1	赤褐色	ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
2	褐色	ローム粒子中量	8	褐色	ローム粒子多量、炭化物微量
3	明褐色	ローム粒子多量	9	明褐色	ロームブロック多量
4	明褐色	ロームブロック中量	10	褐色	ローム粒子多量
5	にぶい褐色	ローム粒子多量	11	暗褐色	ローム粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子中量			

所見 本跡は、面積が52㎡と当遺跡では4番目の規模の建物跡である。第10号掘立柱建物跡と桁行方向が一致し、近接することから、同時期と考えられるが、それよりは小規模なため、副次的機能を果たしていたと推定される。また、桁行方向から、第31号溝とも関連性が考えられ、第11号掘立柱建物跡を掘り込み、第3号掘立柱建物跡に掘り込まれているため、時期は、第3号掘立柱建物跡よりも1段階古い時期と推定される。

### 第5号掘立柱建物跡 (第183図)

位置 調査1区北部の1d1区、第7号掘立柱建物跡の約4m南西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号住居跡を掘り込んでいる。また、柱穴の切り合いはないが、第3・4・9・11号掘立柱建物跡、第524号土坑とも重複している。

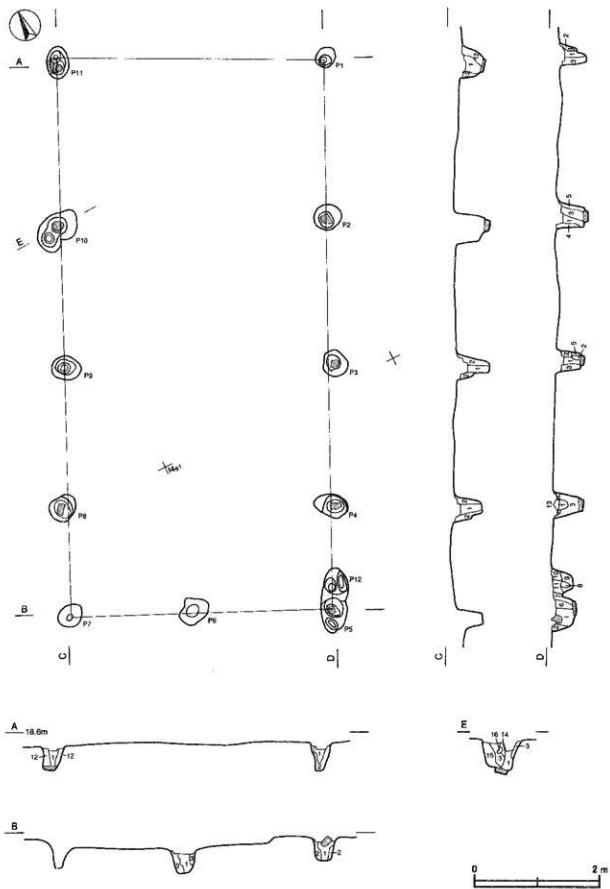
規模と構造 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向をN-24°-Eとする南北棟である。規模は桁行長8.90m、梁行長4.20mで、柱間寸法は梁行2.00・2.20m、桁行は北から2.60・2.30・2.30mであり、南部のP4~P5・P7~P8間は1.70mである。柱筋は揃うが、柱間は北部が長く南部が短いややばらつきのある構造である。

柱穴 平面形は長径34~70cm、短径30~50cmの円形または楕円形で、深さは35~55cmである。P1~P5・P8・P10・P11は、長軸13~25cm、短軸12~15cmの方形または長方形で、厚さ5~7cmの雲母片岩が底面に埋め込まれ、根石として利用されている。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で締まりが弱く、第2~7・12~14層は埋土で、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土、褐色土などで突き固められている。第8~11層はP12の土層であり、他の土層とは土質が異なっている。また、P12はP5に掘り込まれており、本跡以外に柱筋が通る掘立柱建物跡を確認できないため、ここで取り扱ったが、性格は不明である。

#### 土層解説 (各柱穴共通)

1	黒色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	9	明褐色	ロームブロック多量
2	明褐色	ローム粒子中量	10	黒褐色	ロームブロック微量
3	褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ローム粒子多量	12	黒褐色	ローム粒子少量
5	褐色	ロームブロック多量	13	暗褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック微量	14	褐色	ロームブロック中量
7	暗褐色	ローム粒子少量	15	黒褐色	ロームブロック微量
8	暗褐色	ローム粒子微量	16	明褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 石8点(柱穴根石)が出土している。



第183图 第5号掘立柱建物跡実測图

所見 本跡では、第3号掘立柱建物跡と似た形状の根石が確認されており、本跡との密接な関連性が考えられるが、桁行方向が第31号溝の長軸方向と若干のずれがみられるため、時期は第31号溝の機能が停止した後の14世紀中葉以降と推定される。また、近接する第7号掘立柱建物跡とはほぼ直交しており、本跡は第7号掘立柱建物跡と一体的な機能を果たしていたことが想定される。

### 第6号掘立柱建物跡（第184図）

位置 調査I区北部のI4b1区、第5号掘立柱建物跡から1.5m北の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 柱穴の切り合いはないが、第7号掘立柱建物跡と重複している。

規模と構造 北部が調査区域外のため、確認されたのは長軸2間、短軸1間で、長軸方向をN-56°-Eとする東西棟の竪柱建物跡と推定される。規模は長軸長3.06m、短軸長2.00mあり、柱間寸法は長軸1.50mほどで、短軸は2.00mである。

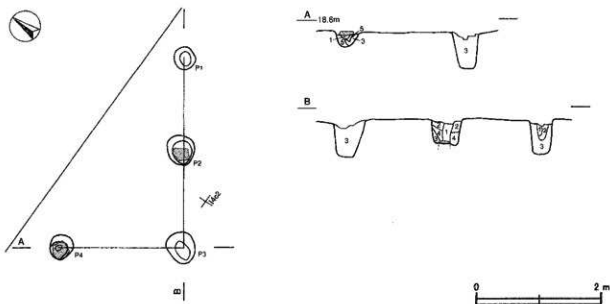
柱穴 平面形は長径34～50cm、短径32～40cmの円形または楕円形で、深さは23～58cmである。P2・P4は、長軸24・30cm、短軸15cmの長方形で、厚さ5cmほどの雲母片岩が底面に埋め込まれ、根石として利用されている。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で締まりが弱く、第2～5層は埋土で、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土、褐色土などで突き固められている。

#### 土層解読（各柱穴共通）

- |       |                 |       |               |
|-------|-----------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック豊富       | 4 褐色  | ローム粒子多量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量         | 5 暗褐色 | ロームブロック少量     |
| 3 褐色  | ロームブロック多量、炭化物少量 |       |               |

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、石2点（柱穴根石）が出土している。小皿はP2内から出土しているが、細片のため、図示することができない。

所見 本跡は、第3・5号掘立柱建物跡と同様に根石を持つ建物跡で、それらとの関連性が考えられるが、軸方向がどの掘立柱建物跡とも異なり、対応関係が不明である。P2内から出土している土師質土器小皿片が、非ロク口成形で、整形方法から、時期は13世紀から14世紀代と考えられる。14世紀前葉の第3号掘立柱建物跡とは3m、14世紀中葉以降の第5号掘立柱建物跡とは1.5mしか離れていないためこれらとは同時期と考えら



第184図 第6号掘立柱建物跡実測図

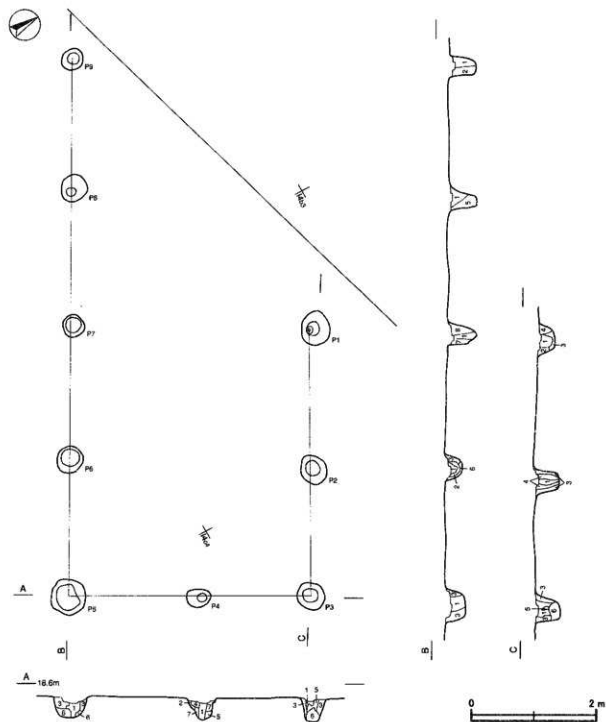
れず、第31号溝とも軸方向が異なることから、溝が構築される前の13世紀前半、または廃絶後の14世紀中葉から後葉と考えられ、第5号掘立柱建物跡とは異なる時期と推定される。

### 第7号掘立柱建物跡（第185図）

位置 調査I区北部の14b3区、第5号掘立柱建物跡から4mほど北東の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 柱穴の切り合いはないが、第6号掘立柱建物跡・第1号溝列跡と重複している。

規模と構造 西部が調査I区域外のため、確認されたのは桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向をN-



第185図 第7号掘立柱建物跡実測図

58°-Wとする東西棟である。規模は桁行長8.60m、梁行長3.80mあり、柱間寸法は桁行2.10~2.30m、梁行1.70・2.10mである。柱筋と間尺がほぼ揃う構造である。

**柱穴** 平面形は径35~54cmの円形で、深さは26~46cmである。柱の抜き取り痕は第1・2層で締まりが弱く、第3~8層は埋土で、ローム土を主体とした黒褐色上や暗褐色上、褐色上などで突き固められている。

**土層解説 (各柱穴共通)**

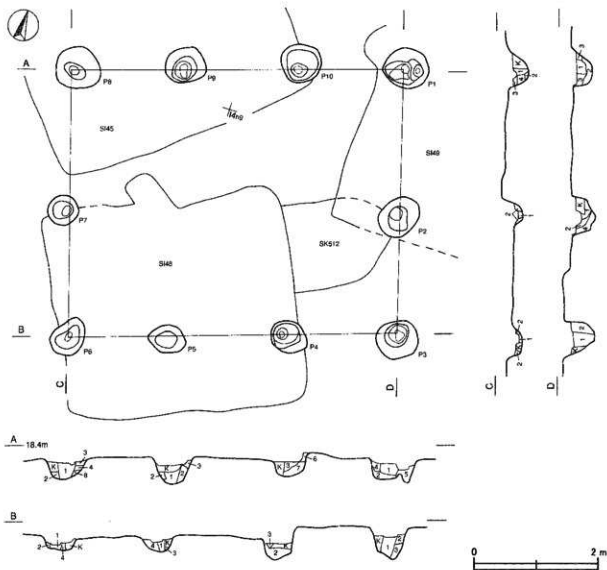
- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 縦暗褐色 ローム粒子中量    |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量   | 6 褐色 ローム粒子多量      |
| 3 橙色 ロームブロック多量  | 7 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 黒褐色 ローム粒子微量     |

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿)がP4内から出土しているが、細片のため図示できない。

**所見** 本跡は、位置や桁行方向から、第5号掘立柱建物跡と密接な関連性をもつ施設であることが想定され、同時期の14世紀中葉以降に機能していたと推定される。

**第8号掘立柱建物跡 (第186図)**

**位置** 調査I区北部のI4h9区、第31号溝から3mほど内側の低台地上の平坦部に立地している。



第186図 第8号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第45・48・49号住居跡，第512号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向を $N-74^{\circ}-E$ とする東西棟である。規模は桁行長5.20m，梁行長4.30mあり，柱間寸法は桁行1.60～1.84m，梁行2.00・2.30mである。柱筋が揃い，桁行の柱間が短く，桁行柱間と梁行柱間が異なる構造である。

柱穴 平面形は長径50～76cm，短径44～68cmの円形または楕円形で，深さは14～52cmである。柱の抜き取り痕は第1・5層で締まりが弱く，第2～4・6～8層は埋土で，ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土，褐色土などで突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

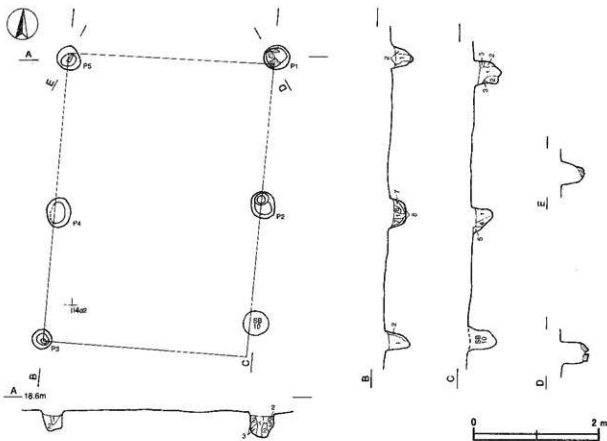
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 黒色 ロームブロック微量  |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量   |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 褐色 ロームブロック中量  |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿)がP3・P6内とP9の柱抜き取り痕から出土しているが，いずれも細片で図示できない。また，土師器片42点と須恵器片2点も出土しているが，これらは奈良・平安時代の住居跡を掘り込んでいる柱穴から出土しており，本跡に伴うものではない。

所見 本跡の時期は，第31号溝の区画内に位置しているが桁行方向が異なることや，出土している土師質土器小皿片が非ロクロ成形ではあるものの，第31号溝や第3号掘立柱建物跡のものより調整が雑で新しい様相を示していることなどから，第31号溝廃絶後の14世紀中葉から15世紀中葉の間と推定される。

第9号掘立柱建物跡 (第187図)

位置 調査I区北部のI4c2区，第11号掘立柱建物跡から約4m北の低台地上の平坦部に立地している。



第187図 第9号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 柱穴の切り合いはないが、第3・5・10号掘立柱建物跡と重複している。

**規模と構造** 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向をN-3°-Eとする南北棟である。規模は桁行長4.50m、梁行長3.30mあり、柱間寸法は桁行2.00~2.50m、梁行3.30mである。南東部の確認面を精査したが、隅柱を検出することができなかった。

**柱穴** 平面形は長径32~50cm、短径30~38cmの円形または楕円形で、深さは26~40cmである。P1・P5は、長軸15cm、短軸10cmほどの長方形で、厚さ5cmほどの雲母片岩が底面に埋め込まれ、根石として使用されたと考えられる。柱の抜き取り痕は第1・6層で締まりが弱く、第2~5・7・8層は埋土で、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土、褐色土などで突き固められている。

**土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒暗褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック多量	6 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	7 黒暗褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ローム粒子多量	8 褐色	ロームブロック多量

**遺物出土状況** 柱穴の根石4点が出土している。

**所見** 本跡は、柱穴掘り方の規模や構造と根石を伴うことから、中世の建物跡と推定される。第3・5・10号掘立柱建物跡と重複し、第6・7号掘立柱建物跡と接しているため、これらとは異なる時期で、13世紀前半または14世紀中葉以降と推定される。

### 第10号掘立柱建物跡 (第188図)

**位置** 調査I区北部のI4e3区、第4号掘立柱建物跡から6.5m南東、第31号溝から10mほど北西の低台地上の平坦部に立地している。

**重複関係** 第40号住居跡を掘り込んでいる。また、柱穴の切り合いはないが、第9号掘立柱建物跡と重複している。

**規模と構造** 桁行5間、梁行1間の身舎に、南北2面に庇が付属する建物跡で、桁行方向をN-75°-Eとする東西棟である。庇部を含めた規模は桁行長12.24m、梁行長6.36mあり、柱間寸法は桁行2.40~2.50m、梁行3.40mで、庇の間は南1.00m、北面1.40mの間尺を示し、柱筋が揃う構造である。

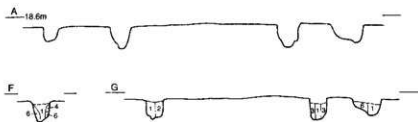
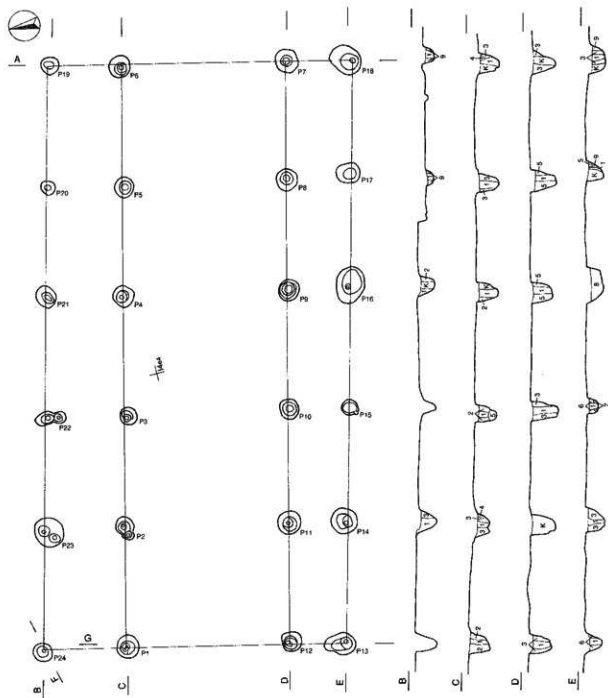
**柱穴** 平面形は長径32~80cm、短径30~60cmの円形または楕円形で、身舎と庇の柱穴規模に明確な違いは認められないが、深さは身舎が36~60cm、庇が25~40cmで、概ね身舎の方が深い。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で締まりが弱く、第2~9層は埋土であり、第7・9層は強く突き固められているが、他層の締まりはそれほど強くない。

**土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	炭化物少量、ロームブロック微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒暗褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 明褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ロームブロック微量		

**遺物出土状況** 土師貫土器片3点(小皿)がP6の柱抜き取り痕とP10・P12内から出土しているが、いずれも細片で図示できない。また、P4の柱痕からは炭化材が出土している。

**所見** 本跡は、庇部を含めた面積は約78㎡であり、第3号掘立柱建物跡に次ぐ規模である。桁行方向が一致し、近接することから、第4号掘立柱建物跡と同時期で、主屋の機能を果たしていたと推定される。



第188图 第10号掘立柱建物跡実測図

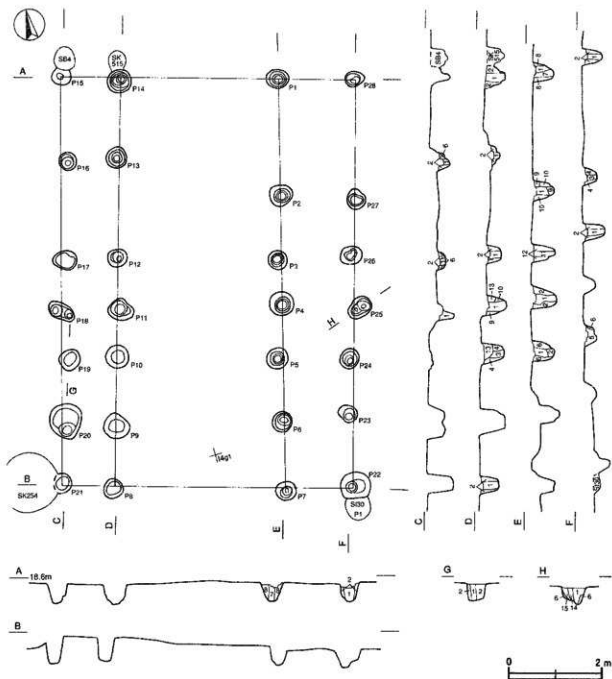


第11号掘立柱建物跡 (第189図)

位置 調査I区北部のI 4 e1区, 第31号溝から17mほど西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第4号掘立柱建物跡・第254号土坑に掘り込まれ, 第30・31号住居跡, 第14号井戸跡, 第260・515号土坑を掘り込んでいる。また, 柱穴の切り合いはないが, 第3・5号掘立柱建物跡とも重複している。

規模と構造 桁行6間, 梁行1間の身舎に, 東西2面に庇が付属する建物跡で, 桁行方向をN-16°-Eとする南北棟である。庇部を含めた規模は桁行長8.94m, 梁行長6.50mあり, 柱間寸法は桁行1.20~2.50m, 梁行3.20・3.40mで, 庇の柱間は1.00mほどである。桁行は北部の柱間は長いが, 中央部から南部の柱間が短く, 梁行と比べて庇が短い構造である。



第189図 第11号掘立柱建物跡実測図

**柱穴** 平面形は長径68～74cm、短径34～40cmの円形または楕円形で、深さは21～59cmである。身舎と庇の柱穴規模に明確な違いは認められない。柱の抜き取り痕または柱痕は第1・3・7層、柱の抜き取り痕は第5・13～15層で締まりが弱く、第2・4・6・8～13層は埋土であり、第2・6・9層は強く突き固められているが、他の締まりはさほど強くない。

**土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒褐色 ロームブロック微塵	9 褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック微塵	10 黒褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子少量	11 暗褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ロームブロック少量	12 褐色 ロームブロック多量
5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微塵	13 黒褐色 ロームブロック微塵
6 褐色 ローム粒子多量	14 暗褐色 ロームブロック微塵
7 黒褐色 ロームブロック少量	15 暗褐色 ロームブロック少量
8 暗褐色 ロームブロック中量	

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(鉢類)がP4内から出土している。また、土師器片19点と須恵器片4点も出土しているが、本跡に伴うものではない。いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡は、底部を含めた面積は約58㎡であり、第3・10号掘立柱建物跡に次ぐ規模であり、規模や構造から主屋的機能を果たしていたと考えられる。桁行方向から見て第31号溝が本跡の区画溝と考えられ、第4号掘立柱建物跡に割り込まれていることから、時期は区画溝が機能していた初期段階の13世紀後半と推定される。

**第12号掘立柱建物跡 (第190図)**

**位置** 調査丁区中央部のI4j5区、第31号溝から約1m南の低台地上の平坦部に立地している。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の建物跡で、桁行方向をN-37°-Eとする南北棟である。規模は桁行長6.40m、梁行長4.30mあり、柱間寸法は桁行2.00～2.20m、梁行1.80～2.45mである。柱筋が揃い、南西部の屋内柱が省略されている構造である。

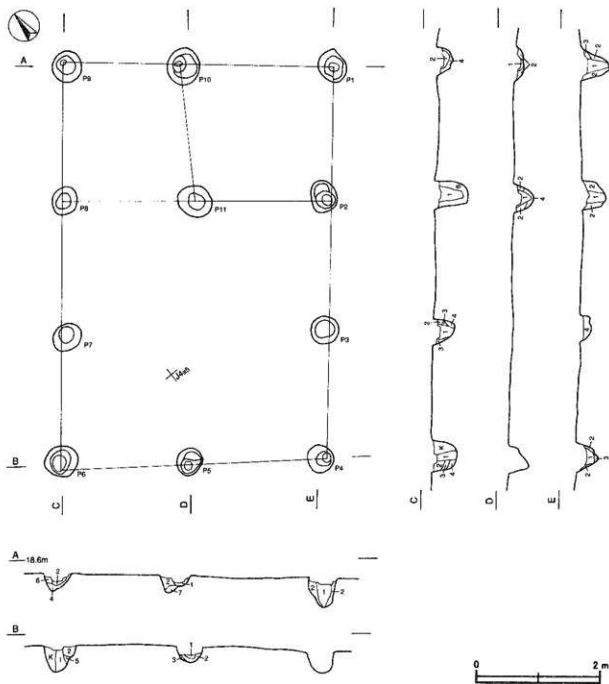
**柱穴** 平面形は長径46～57cm、短径45～52cmの円形または楕円形で、深さは12～50cmである。柱の抜き取り痕は第1層で締まりが弱く、第2～7層は埋土であるが、ローム混じりの黒褐色土が主体であり、締まりはさほど強くない。

**土層解説 (各柱穴共通)**

1 黒褐色 ローム粒子微塵	5 黒褐色 ロームブロック微塵
2 黒褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ローム粒子中量
3 黒褐色 ローム粒子少量	7 黒褐色 ロームブロック微塵
4 黒褐色 ロームブロック少量	

**遺物出土状況** 鉄製品1点(不明)がP8の柱抜き取り痕から出土している。また、土師器片19点と須恵器片4点も出土しているが、本跡に伴うものではなく、いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡は、柱穴掘り方の規模と形状や、屋内柱の一部を省略している構造から、主屋的機能を有する中世の建物跡と推定されるが、明確な時期判断は困難である。第31号溝で区画された掘立柱建物跡群(3・4・10・11号掘立柱建物跡)とは20mほど離れた区画外に位置し、桁行方向も一致しないため、それらとの関連性は考えられず、時期も異なるものと想定される。



第190図 第12号掘立柱建物跡実測図

### 第13号掘立柱建物跡 (第191図)

位置 調査I区中央部のI4j7区, 低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号溝と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向を $N-27^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行長5.53m, 梁行長3.85mあり, 柱間寸法は桁行1.70~1.85m, 梁行3.85mである。柱筋は揃うが, 南部の梁行がやや歪む構造である。

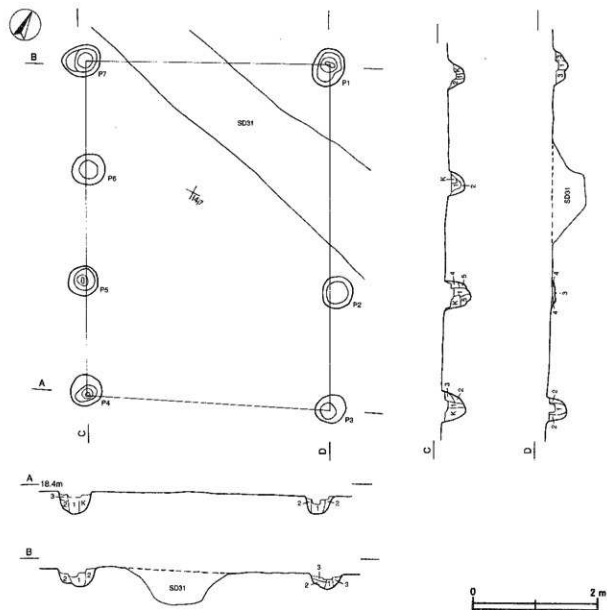
柱穴 平面形は長径48~60cm, 短径44~48cmの円形または楕円形で, 深さは17~50cmである。柱の抜き取り痕は第1層で締まりが弱く, 第2~5層は埋土で, ローム混じりの黒褐色土と褐色土で突き固められている。

土層解題 (各柱穴共通)

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色  | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |       |           |

遺物出土状況 土師器片11点が出土しているが混入したものと考えられる。いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、構造や柱穴掘り方の規模と形状から、中世の建物跡と推定されるが、明確な時期判断は困難である。第31号溝に区画された掘立柱建物跡群(3・4・10・11号掘立柱建物跡)とは桁行方向が異なり、第31号溝と重複しているため、それらとの関連性はなく、時期も異なると考えられる。



第191図 第13号掘立柱建物跡実測図

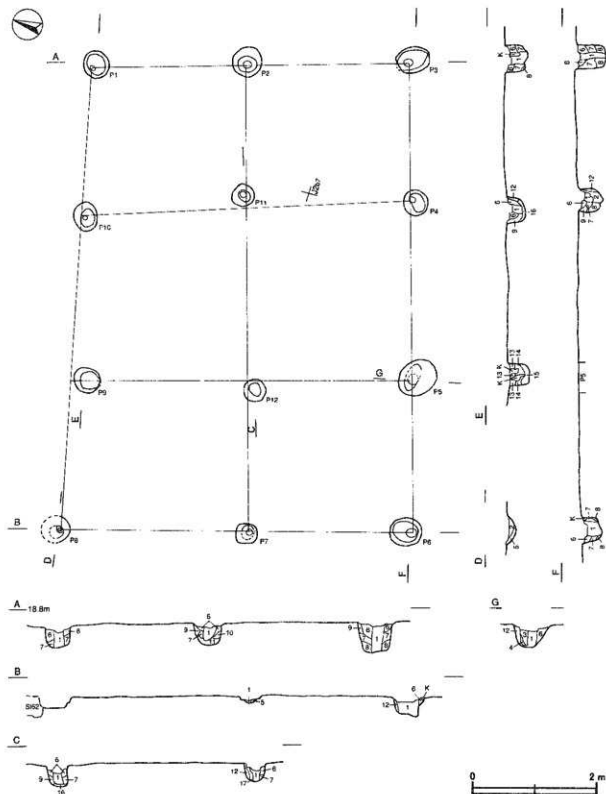
第14号掘立柱建物跡 (第192図)

位置 調査1区西部のJ2a6区、第15~17号掘立柱建物跡から約4m西、第3号掘立柱建物跡から約50m南西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第62号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向をN-74°-Eとする東西棟である。規模は桁行長7.55m、梁行長5.00mあり、柱間寸法は桁行2.20~3.15m、梁行2.45~3.00mである。柱筋と間尺が揃わない構造である。

柱穴 平面形は長径36~66cm、短径34~53cmの円形または楕円形で、深さは17~50cmである。柱の抜き取り痕



第192図 第14号掘立柱建物跡実測図

は第1～5・17層で締まりが弱く、第6～16層は埋土で、ローム土の褐色土やローム混じりの暗褐色土を互層に埋めて突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ロームブロック中量
4 褐色	ロームブロック中量	13 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量	14 褐色	ローム粒子多量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック多量
7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック少量	17 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
9 褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片15点が柱穴の埋土や柱抜き取り痕から出土しており、その内8点はP6の柱抜き取り痕からの出土である。いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、隣接する第15～17号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ直交しており、それらとの関連性が考えられる。埋土や柱抜き取り痕から土師器片が出土しているが、時期は柱穴掘り方の規模と形状や柱筋が不揃いな構造から、中世の建物跡と推定される。また、第31号溝で区画された掘立柱建物跡群(第3・4・10・11号掘立柱建物跡)からは50mほど離れており、桁行方向も一致しないことから、それらとの関連性はないと考えられる。

第15号掘立柱建物跡 (第193図)

位置 調査I区西部の12J9区、第14号掘立柱建物跡から約4m東、第3号掘立柱建物跡から約40m南西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第17号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、柱穴の切り合いはないが、第16号掘立柱建物跡とも重複している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向をN-10°-Wとする南北棟である。規模は桁行長5.00m、梁行長3.20mあり、柱間寸法は桁行1.52～1.90m、梁行は1.50～1.60mである。柱筋が揃わず、柱間が短い構造である。

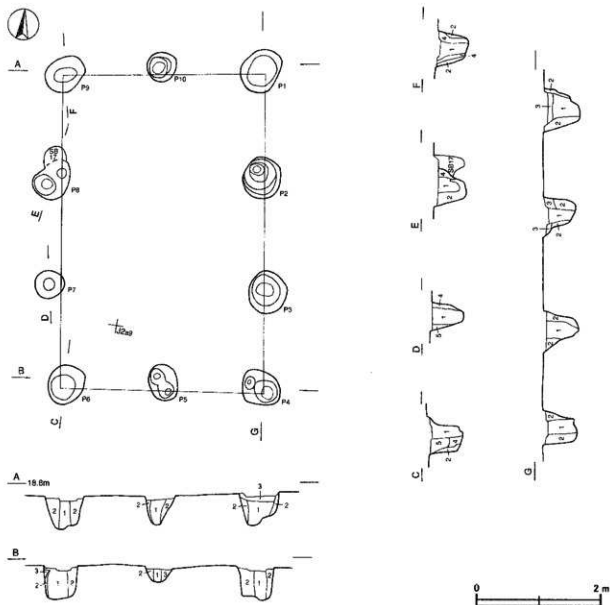
柱穴 平面形は長径48～70cm、短径44～63cmの円形または楕円形で、深さは34～57cmである。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で締まりが弱く、第2・5層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土と暗褐色土、さらに第3・4層は締まりがあまり強くない黒褐色土であり、柱の抜き取りに伴い流れ込んだ土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒暗褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック多量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片32点、須恵器片6点が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、隣接する第14号掘立柱建物跡や重複する第16・17号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ直交または一致しており、それらとの関連性が考えられる。柱穴内から土師器片と須恵器片が出土しているが、構造や柱穴の規模と形状から、時期は中世と推定される。また、第31号溝で区画された掘立柱建物跡群(第3・4・10・11号掘立柱建物跡)からは40mほど離れて桁行方向も一致しないことから、それらとの関連性はないと考えられる。



第193図 第15号掘立柱建物跡実測図

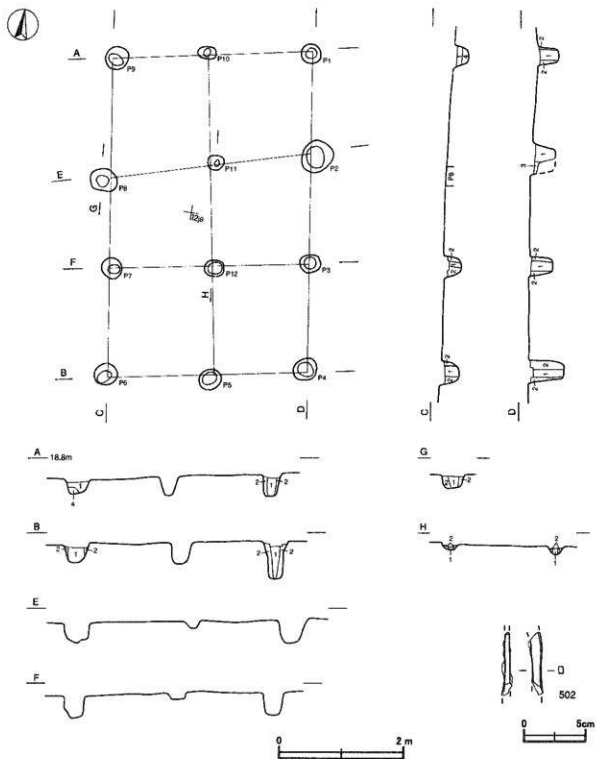
#### 第16号掘立柱建物跡 (第194図)

位置 調査I区西部の12j9区, 第14号掘立柱建物跡から約4m東, 第3号掘立柱建物跡から約40m南西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第15・17号掘立柱建物跡と重複しているが柱穴の切り合いはなく, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の総柱建物跡で, 桁行方向を $N-8^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行長5.12m, 梁行長3.20mあり, 柱間寸法は桁行1.50~1.90m, 梁行1.50~1.70mである。柱筋と間尺が揃わず, 柱間が短い構造である。

柱穴 平面形は長径30~52cm, 短径26~40cmの円形または楕円形で, 深さは屋内柱が10cmほどと浅く, 他は22~38cmとやや深くなっている。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で輪まりが弱く, 第2~4層は埋土であるがあまり突き固められていない。



第194図 第16号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解読 (各柱穴共通)

- |        |                |      |           |
|--------|----------------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム柱子・焼土ブロック散見 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量      | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片6点、鉄器1点(釘)が出土している。502はP6内から出土している。

所見 本跡は、隣接する第14号掘立柱建物跡や重複する第15・17号掘立柱建物跡と相行方向がほぼ直交または一致しており、それらとの関連性が考えられる。柱穴内から土師器片が出土しているが、柱穴掘り方の規模と



形状や柱筋と間尺が不揃いな構造であることから、時期は中世の建物跡と推定される。また、第31号溝で区画された掘立柱建物跡群（第3・4・10・11号掘立柱建物跡）からは40mほど離れて桁行方向も一致しないことから、それらとの関連性はないと考えられる。

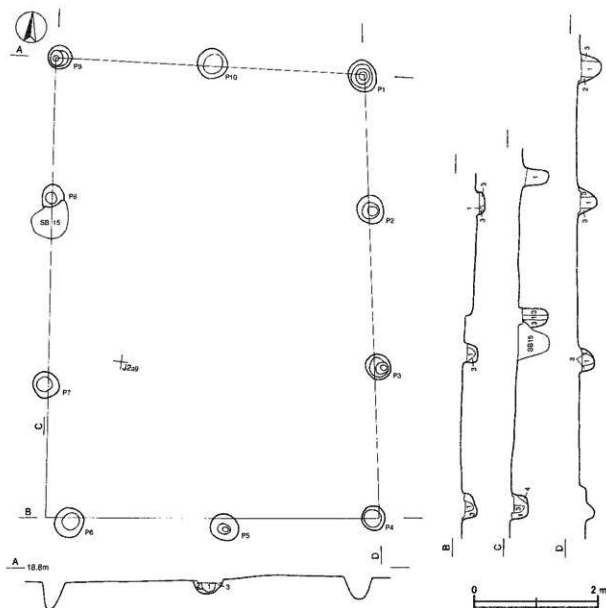
第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第194図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
502	刀子	(5.1)	0.9	0.4	(4.4)	鉄	扉部の一部	P 6 覆上中	

第17号掘立柱建物跡（第195図）

位置 調査Ⅰ区西部のⅠ2j9区、第14号掘立柱建物跡から約4m東の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第67号住居跡を掘り込み、第15号掘立柱建物跡に掘り込まれている。また、柱穴の切り合いはない



第195図 第17号掘立柱建物跡実測図

が、第16号掘立柱建物跡とも重複している。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向を $N-9^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行長7.36m、梁行長4.90mであり、柱間寸法は桁行2.10～2.50m、梁行2.40～2.50mである。柱筋が揃わず、北西にやや歪む構造である。

**柱穴** 平面形は長径34～50cm、短径34～40cmの円形または楕円形で、深さは14～48cmである。柱の抜き取り痕または柱痕は第1層で締めりが弱く、第2～4層は埋土であるがあまり突き固められていない。

**土層解説 (各柱穴共通)**

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 焦褐色 ロームブロック・炭化粒子微帯 | 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微帯 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量      | 4 明褐色 ロームブロック多量           |

**遺物出土状況** 土師器片10点、須恵器片2点が出土しているが、いずれも細片で図がでない。

**所見** 本跡は、第15・16号掘立柱建物跡と桁行方向が一致し、重複していることから、建て替えが繰り返されたと考えられる。また、隣接する第14号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ直交しており、関連性が考えられる。柱穴から土師器片や須恵器片が出土しているが、柱穴掘り方の規模と形状や柱筋が揃わず歪む構造から、時期は中世と推定される。

(2) 櫛列跡

第1号櫛列跡 (第196図)

**位置** 調査I区の南部のI4c3区、第11号掘立柱建物跡から6mほど北東の低台地上の平坦部に立地している。

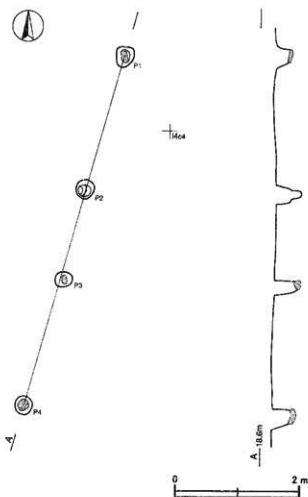
**重複関係** 柱穴の切り合いはないが、第7号掘立柱建物跡と重複している。

**規模** 3間 (5.80m) で、軸方向を $N-16^{\circ}-E$ とし、柱間寸法は北から2.25・1.45・2.10mである。

**柱穴** 平面形は長径27～35cm、短径24～32cmの円形または楕円形で、深さは20～40cmである。いずれの柱穴にも、方形または長方形の雲母片岩が底面に埋め込まれ、根石として利用されている。

**遺物出土状況** 石4点 (柱穴根石)

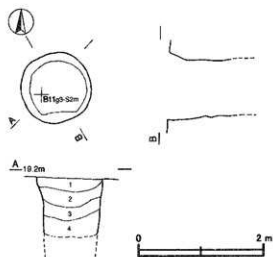
**所見** 本跡は、柱穴が4か所に1条しか確認されなかったため櫛列として扱ったが、根石を伴う点や、第11号掘立柱建物跡と軸方向が一致することなどから、第11号掘立柱建物跡と関連する付属建物の可能性が考えられ、時期も同時期の13世紀後半と推定される。



第196図 第1号櫛列跡実測図

### (3) 井戸跡

#### 第1号井戸跡 (第197図)



第197図 第1号井戸跡実測図

**位置** 調査Ⅱ区北部のB11g3区、低台地上の平坦部に立地している。

**規模と形状** 径1.15mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.10mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

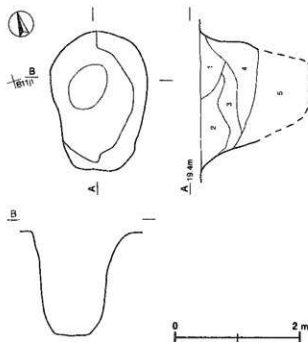
**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

- |   |   |    |           |
|---|---|----|-----------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 | 黒 | 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ローム粒子微量   |

**所見** 本跡には出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、形状や覆土の色調などから中・近世の時期と推定される。

#### 第2号井戸跡 (第198図)



第198図 第2号井戸跡実測図

**位置** 調査Ⅱ区北部のB11j1区、低台地上の平坦部に立地している。

**規模と形状** 長径2.20m、短径1.55m楕円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.60mほどで、底面はほぼ平坦である。

**覆土** 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |   |   |    |                           |
|---|---|----|---------------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子微量                   |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量、炭化物微量      |
| 3 | 黒 | 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量        |
| 5 | 黒 | 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量          |

**所見** 本跡からの出土遺物はなく、時期判断が困難であるが、形状や覆土の色調などから中・近世の時期と推定される。

#### 第3号井戸跡 (第199図)

**位置** 調査Ⅱ区北部のB10j0区、低台地上の平坦部に立地している。

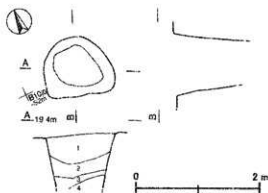
**規模と形状** 長径1.20m、短径1.00m不整楕円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.20mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒色 ロームブロック微量

所見 本跡からは出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、形状や覆土の色調などから中・近世の時期と推定される。



第199図 第3号井戸跡実測図

第4号井戸跡 (第200図)

位置 調査Ⅱ区北部のC10b7区、低台地上の平坦部に立地している。

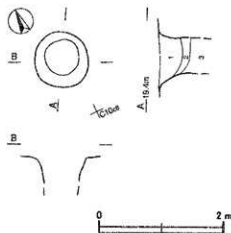
規模と形状 径0.90mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは0.65mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量

所見 本跡からは出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、形状や覆土の色調などから時期は中・近世と推定される。



第200図 第4号井戸跡実測図

第5号井戸跡 (第201図)

位置 調査Ⅱ区東部のD11a6区、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.24m、短径1.20mの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.10mで、底面はほぼ平坦である。

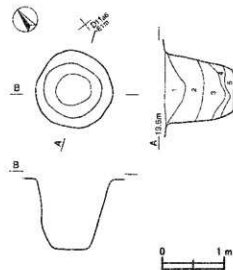
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示しているが、第4層だけがロームを多量に含んで、色調が異なるため、1～3・5層は自然堆積で、第4層が人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 5 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 石製品1点(石臼)と混入した土師器片2点が出土している。

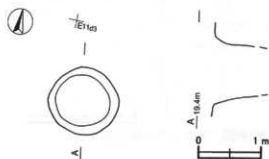
所見 本跡に伴う出土遺物は少なく、時期判断は困難であるが、石臼片が出土していることや遺構の形状と覆土の色調などから、



第201図 第5号井戸跡実測図

時期は中・近世と推定される。

### 第6号井戸跡 (第202図)



第202図 第6号井戸跡実測図

**位置** 調査Ⅱ区南東部のE11d3区、低台地上の平坦部に立地している。

**規模と形状** 長径1.10m、短径1.04mの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは0.80mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

**遺物出土状況** 土師器片9点が出土しているが、混入と考えられる。

**所見** 本跡に伴う出土土器がなく、時期判断が困難であるが、遺構の形状から時期は中・近世と推定される。

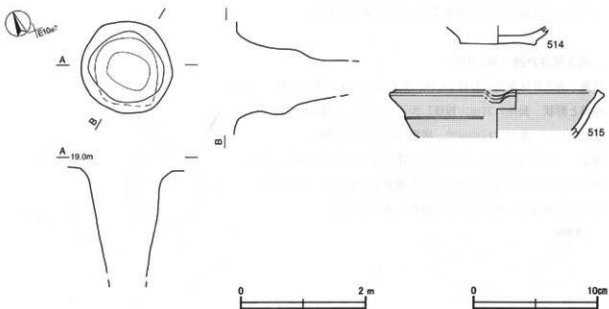
### 第7号井戸跡 (第203図)

**位置** 調査Ⅱ区南東部のE10e7区、第1号掘立柱建物跡から4m西に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

**規模と形状** 径1.45mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。深さは1.80mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿)、陶器片1点(古瀬戸印皿)、木製品6点(曲物底板)、木片2点(不明)が出土している。木製品は細片のため、図示できない。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から14世紀中葉と推定される。



第203図 第7号井戸跡・出土遺物実測図

第7号井戸跡出土遺物観察表(第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
514	土師質土器	小皿	—	(1.5)	[6.0]	石英・雲母	橙	普通	底部外面右回転糸切り、底部内面一方向の指ナデ	覆土中	20%
515	陶器	脚皿	[16.0]	(3.8)	—	白色粒子・灰泡	灰白、黄緑色灰釉	良好	口縁部内・外面横ロクロナデ、網毛塗り釉か	覆土中	10% 古瀬戸中期 PLS8

## 第8号井戸跡(第204図)

位置 調査Ⅱ区南部E10e6区、第1号掘立柱建物跡から約6m北西の低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径2.80m、短径1.70mの不整楕円形で、東部が階段状、西部が漏斗状に掘り込まれている。深さは2.30mほど掘り下げが、湧水のために下部の調査を断念した。

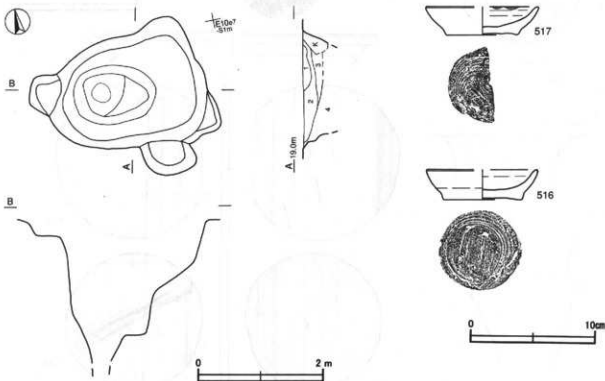
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

## 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量  
 2 黒褐色 粘土ブロック微量  
 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、果実種24点(桃)が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から14世紀中葉と考えられる。



第204図 第8号井戸跡・出土遺物実測図

第8号井戸跡出土遺物観察表(第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	土師質土器	小皿	[8.8]	2.4	6.3	雲母・スコリア	橙	普通	底部外面静止糸切り、スノコ状圧痕、底部内面指ナデ	覆土中	70% PLS8
517	土師質土器	小皿	[8.8]	2.2	[5.8]	雲母・スコリア	橙	普通	底部外面右回転糸切り、底部内面指ナデ	覆土中	40% 7-6付録

### 第9号井戸跡（第205図）

位置 調査Ⅱ区南部のE10h2区，低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径2.12m，短径1.76mの楕円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは2.00mほど掘り下げたが，湧水のために下部の調査を断念した。

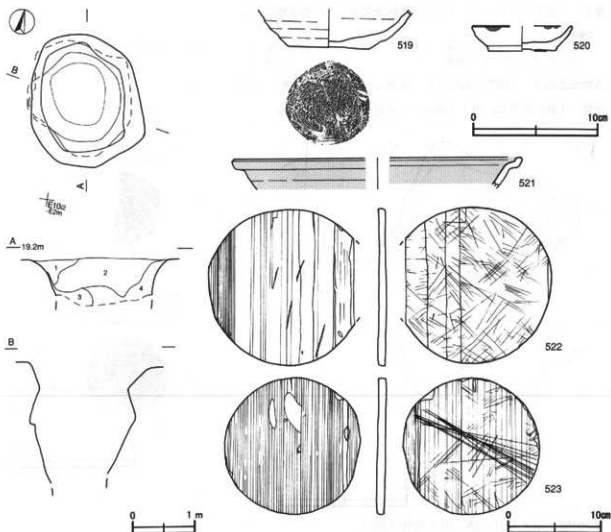
覆土 4層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量      | 3 黒色 ローム粒子微量  |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿），陶器片1点（古瀬戸折縁深皿），木製品4点（曲物底板）が出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から14世紀中葉と考えられる。



第205図 第9号井戸跡・出土遺物実測図

第9号井戸跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
519	土師質土器	小皿	—	(3.2)	6.5	雲母・スコリア	橙	普通	底部外面右側転車切り，板状圧痕，底部内面指ナデ	覆土中	70%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
520	土師瓦葺器	小皿	[7.8]	2.0	[5.4]	緑黄色ローム	黄	普通	底縁外縁未切り、底部的蓋ロームナデ	覆土中	25% P-4付着
521	陶器	新緑滑瓶	130.2	(3.3)	--	白色粒子・気泡	灰白、黄緑色所稀	良好	口縁部及び体内内・外面ロームナデ、浸け面付着	覆土中	5% PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備	出土位置	備考
522	漆物	16.5	(15.4)	0.8	(154.7)	漆	成板、両面刷板転用		覆土中	95% PL70
523	漆物	14.3	14.3	0.8	119.9	漆	成板、片面刷板転用		覆土中	100% PL70

### 第10号井戸跡 (第206図)

位置 調査Ⅱ区中央部のD10g9区、低台地上の平掘部に立地している。

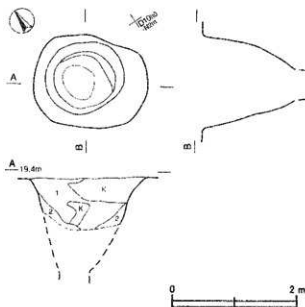
規模と形状 長径1.72m、短径1.48mの楕円形で、漏斗状に掘り込まれている。深さは1.50mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

所見 本跡には出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、覆土の色調などから時期は中・近世と推定される。



第206図 第10号井戸跡実測図

### 第11号井戸跡 (第207図)

位置 調査Ⅰ区東部のK6f3区、南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

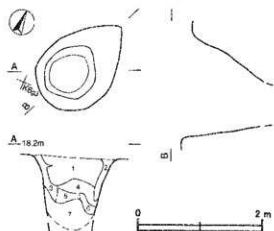
規模と形状 長径1.65m、短径1.15mの楕円形で、北部が緩やかに傾斜して、南部がほぼ直立して掘り込まれている。深さは1.30mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

所見 本跡には出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、形状や覆土の色調などから時期は中・近世と推定される。



第207図 第11号井戸跡実測図



### 第12号井戸跡 (第208図)

位置 調査I区中央部のJ4g9区、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.20m、短径1.05mの楕円形で、円筒状に掘り込まれているが、深さは1.20mほどである。

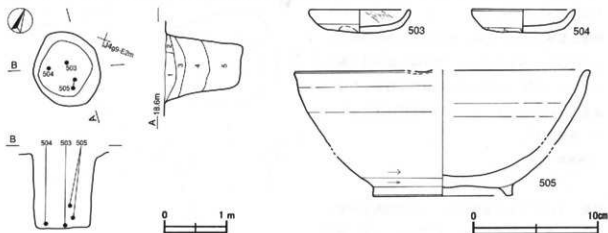
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                  |       |                    |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量          | 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |       |                    |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器片2点(常滑片口鉢)が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から13世紀前半と考えられる。



第208図 第12号井戸跡・出土遺物実測図

### 第12号井戸跡出土遺物観察表 (第208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
503	土師質土器	小皿	7.9	1.9	—	石英スコリア	橙	普通	底部外面磨サキエ後ナテ、底部内面磨ナテ	第5層下層	100% PL58
504	土師質土器	小皿	8.1	2.0	—	石英・雲母・スコリア	橙	普通	底部外面磨サキエ後ナテ、底部内面磨ナテ	第5層下層	95% PL58
505	陶器	片口鉢	[31.0]	[13.4]	[14.5]	雑・黒色粒子	灰	良好	体芯下・底部外面回転ヘラ削り	第5層上・中層	10% 5割1(型式)

### 第15号井戸跡 (第209図)

位置 調査I区北部のI4c5区、第7号掘立柱建物跡から約4m東、第10号掘立柱建物跡から約6m北の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第16号井戸を掘り込んでいる。

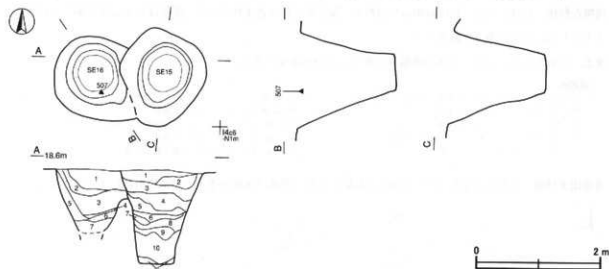
規模と形状 長径1.60m、短径1.35mの不整楕円形で、円筒状に掘り込まれ、深さは1.50mほどである。

覆土 11層からなる。第1～3・11層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり、第4～10層はブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。全体的に締まりが弱い。

#### 土層解説

- |       |              |       |                          |
|-------|--------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色  | ロームブロック中量(第4層よりも明るい色調)   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量    | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量         |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量      | 9 暗褐色 | ロームブロック少量(第6層よりも明るい色調)   |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量    | 10 褐色 | ロームブロック多量                |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量      | 11 褐色 | ロームブロック中量(第4・7層よりも締まり強い) |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量    |       |                          |

所見 本跡からは出土物がなく、時期判断が困難であるが、覆土の締まりが弱いことなどから、中・近世と推定され、また位置関係から第7号掘立柱建物跡または第10号掘立柱建物跡に伴うものと想定される。



第209図 第15・16号井戸跡実測図

#### 第16号井戸跡 (第209・210図)

位置 調査I区北部のI4c5区、第7号掘立柱建物跡から約3m東、第10号掘立柱建物跡から約6m北の低台地上の平坦部に立地している。

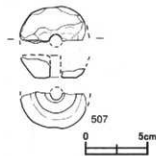
重複関係 第15号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 径1.30mほどの円形で、円筒状に掘り込まれ、深さは1.55mである。

覆土 7層からなり、どの層も締まりが弱い人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック多量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量



第210図 第16号井戸跡出土物実測図

遺物出土状況 土師器片20点、須恵器片2点、土製品1点(紡錘車)、鉄滓1点が出土しているが、いずれも細片で、混入したものと考えられる。

所見 本跡は、時期判断が困難であるが、覆土の締まりが弱く、中・近世の可能性が考えられ、位置関係からは第7号掘立柱建物跡または第10号掘立柱建物跡に伴うことが想定される。

#### 第16号井戸跡出土物観察表 (第210図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
507	紡錘車	(5.1)	(1.0)	(1.0)	(24.1)	土製	側面へタ張り、断面逆台形、粘土に長石・雲母・パミス含む	第1層上層	50%

第17号井戸跡 (第211図)

位置 調査I区北部のI3d4区、低台地上の平坦部に立地している。

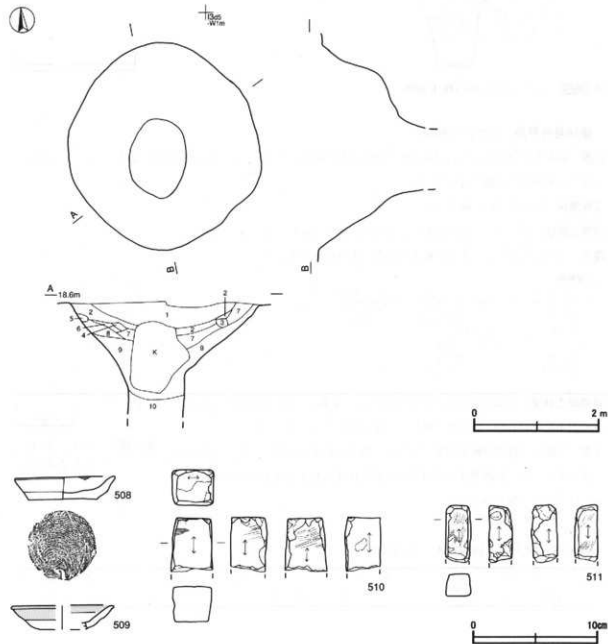
規模と形状 長径3.30m、短径3.00mの円形で、漏斗状に掘り込まれている。深さは2.30mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量        | 7 極暗褐色 ロームブロック微量     |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量        | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量   | 9 暗褐色 ロームブロック微量      |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量        | 10 黒灰色 ローム粒子・粘土粒子少量  |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、陶器片5点(古瀬戸緑釉小皿1、常滑片口鉢片1、不明3)、石器



第211図 第17号井戸跡・出土遺物実測図

2点(磁石)が出土している。また、土師器片16点と須恵器片4点も出土しているが、混入と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から15世紀中葉から後葉と考えられる。

#### 第17号井戸跡出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
508	土師質土器	小皿	7.9	1.9	5.4	柔中・スコリア	橙	普通	底面外周方向に赤褐色、底面内周部まで	覆土中	100%
509	陶器	輪軸小皿	8.2	11.9	3.6	パミス	灰黄、黄緑色灰輪	良好	体部・底面露胎	覆土中	20% 古瀬戸長瀬後平 11.5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	容	数	出土位置	備考
510	磁石	(4.3)	3.3	2.9	(70.3)	凝灰岩	縦面5面		覆土中	
511	磁石	(4.6)	2.0	1.9	(25.2)	凝灰岩	縦面4面		覆土中	

#### 第18号井戸跡(第212図)

位置 調査I区中央部のJ5a2区、低台地上の平坦部に立地している。

規模と形状 径1.25mほどの円形で、円筒状に掘り込まれ、深さは1.40mほどである。

覆土 4層からなる。1・2層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが、3・4層は締まりが固く、人為堆積と考えられる。

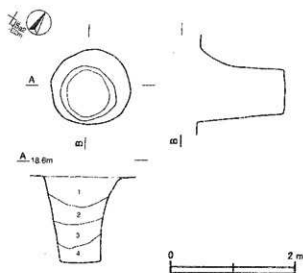
##### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片9点(甕類)、須恵器片8点(甕類)、磁器片1点(青磁碗)が出土している。

いずれも第1層から出土し、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡の出土土器はいずれも覆土上層からで、細片のため明確な時期判断は困難であるが、覆土の状況や竜泉窯系の青磁片が出土していることなどから、時期は中世と推定される。



第212図 第18号井戸跡実測図

#### 第19号井戸跡(第213図)

位置 調査I区西部のJ2a3区、第16号掘立柱建物跡から8mほど西の低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第61号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.43m、短径2.05cmの楕円形で、漏斗状に掘り込まれ、深さは1.70mほど掘り下げたが、湧水のために下部の調査を断念した。

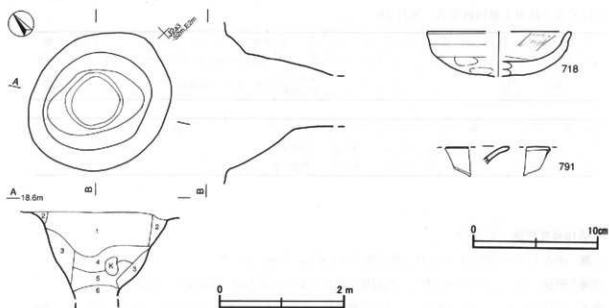
覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（小皿）、磁器片1点（白磁碗皿類）が出土している。

**所見** 本跡は、位置関係から第16号掘立柱建物跡に伴う可能性も想定され、出土土器から時期は13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第213図 第19号井戸跡・出土遺物実測図

第19号井戸跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
718	土師質土器	小皿	[11.4]	3.6	—	灰白系スロツテ	橙	普通	底部内面一方指ナシ、底部外縁指ナシ	覆土中	35%
791	磁器 (白磁)	口壳皿	—	(1.3)	—	黒色粒子	灰白、透明釉	堅緻	口縁部内・外面口クロナシ	覆土中	5%

#### (4) 土墳墓

当遺跡では、第208号土坑を除いてすべてが第2号堀の内側に位置しており、墓域を形成しているが、土墳墓群の様相については「第4節 まとめ」で考察する。

なお、土墳墓については、骨片や副葬品（古銭、煙管等）、五輪塔などの石塔が出土している土坑を取り扱った。また、それら出土遺物が無いものであっても、人為堆積で形状が楕円形・円形・隅丸方形・隅丸長方形などの土坑は土墳墓として、ここで記載する。

#### 第9号土墳（第214図）

**位置** 調査I区東部のL5a3区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第21号住居跡・第4号溝・第90号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径2.60m、短径0.87mの長方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さは40cmほどあり、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

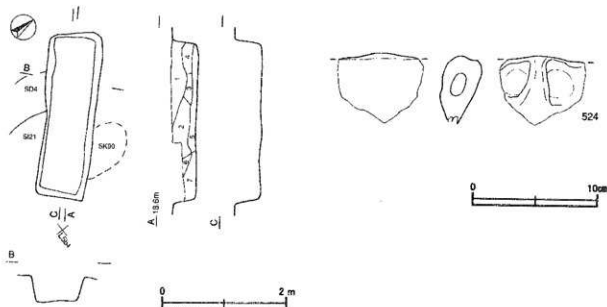
**覆土** 7層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                        |       |                     |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中層、焼土粒子・炭化粒子少量  | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームアブロック中層、炭化粒子少量      | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームアブロック中層、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量           |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量  |       |                     |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳土器）が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、造構の形状から臥屈葬と推定され、16世紀後半の第4号溝を掘り込んでいることと出土土器などから、時期は17世紀前半と考えられる。



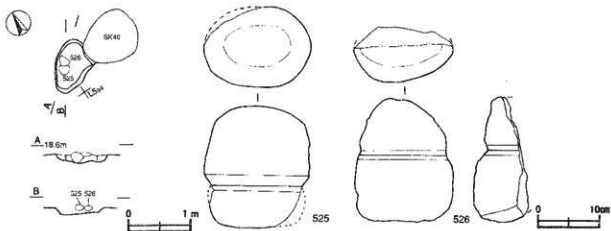
第214図 第9号土壌・出土遺物実測図

第9号土壌出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の管見	出土位置	備考
524	土師質土器	内耳土器	—	(15.4)	—	6.4	黄褐色	普通	耳部張り付け接ぎ	覆土中	5%

第10号土壌（第215図）

位置 調査1区東部のK5j4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。



第215図 第10号土壌・出土遺物実測図

**重複関係** 第21号住居跡を掘り込み、第40号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.84m、短径0.53mの不整楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは10cmほどであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 覆土が薄く単一層であるが、締まりが弱く人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 石塔2点（五輪塔空風輪）が出土している。また、混入した土師器片36点も出土している。

**所見** 本跡の時期は、17世紀前半の第40号土坑に掘り込まれていることから、17世紀前半以前と考えられる。

第10号土坑出土遺物観察表（第215図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	数	出土位置	備考
525	五輪塔	(19.5)	16.9	13.0	(5280)	花崗岩	空風輪、風輪下部欠損		下層	
526	五輪塔	(20.0)	15.8	(8.9)	(2390)	花崗岩	空風輪の一部		下層	

第11号土坑（第216図）

**位置** 調査1区東部のK5 j4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第21号住居跡を掘り込んでいる。

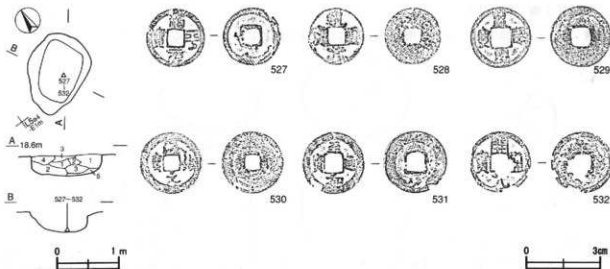
**規模と形状** 長径1.30m、短径0.95mの不整楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。深さは30cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

**遺物出土状況** 古銭6点（乾元重宝、開元通宝、皇宋通宝、至和通宝、治平通宝、淳祐元豊）と骨片が出土している。また、混入した土師器片15点が出土している。



第216図 第11号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の塚形形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭の大半が北宋銭で寛永通宝を含まないことや周囲の上城墓群との関連性から、時期は16世紀後半から17世紀前葉の間と考えられる。

#### 第11号土城出土遺物観察表（第216図）

番号	銭名	径	孔	厚	重量	初繰年	材質	特徴	出土位置	備考
527	治平通宝	2.3	0.6	3.2	1064		銅	北宋銭、無背銭	底面	PL68
528	皇元通宝	2.2	0.6	2.6	758		銅	背銭、無背銭	底面	PL68
529	皇宋通宝	2.1	0.7	3.0	1038		銅	北宋銭、無背銭	底面	PL68
530	淳化元宝	2.4	0.5	2.9	1241		銅	南宋銭、無背銭、極薄浅小	底面	PL68
531	聖和通宝	2.4	0.7	2.9	1054		銅	北宋銭、無背銭	底面	PL68
532	開元通宝	2.5	0.6	2.5	960		銅	唐銭、無背銭	底面	PL68

#### 第15号土城（第217図）

位置 調査I区東部のK5h6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

規模と形状 長径2.10m、短径1.67mの不整形円形で、長径方向はN-43°-Eである。深さは50cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

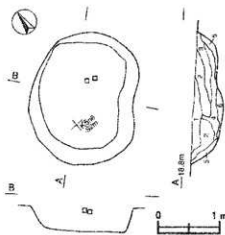
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 骨片2点が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から伸展葬または臥屈葬と推定される。出土土器がないため時期判断は困難であるが、周囲の墓群群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第217図 第15号土城実測図

#### 第16号土城（第218図）

位置 調査I区東部のK5f5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

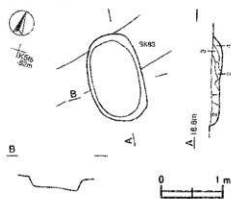
重複関係 第2号住居跡・第83号土坑を採り込んでいる。

規模と形状 長径1.40m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。深さは20cmほどで、底面はほぼ平坦を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量



第218図 第16号土城実測図



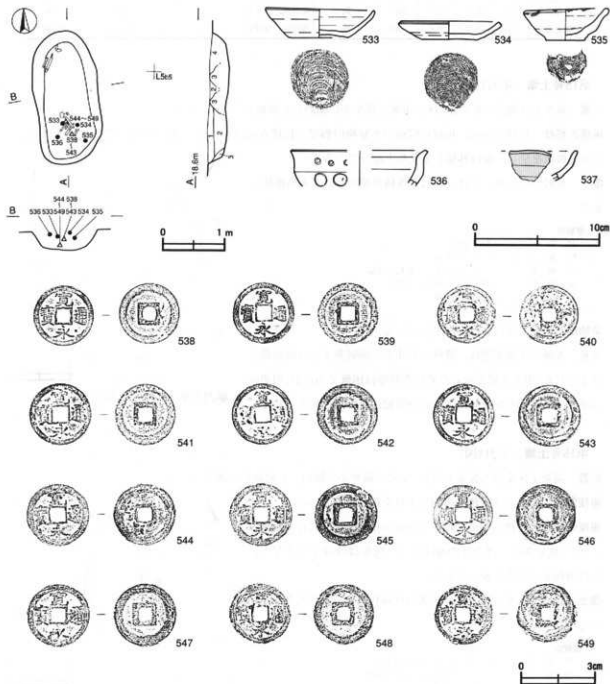
所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。出土遺物はなく、時期判断は困難であるが、周辺の土壌墓群と同時代の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

### 第17号土壙 (第219図)

位置 調査I区東部のL5b4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.10m、短径1.05mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは40cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。



第219図 第17号土壙・出土遺物実測図

覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・骨片微量 3 暗褐色 ローム粒子少量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量、骨片微量 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿3、香炉1)、陶器片1点(志野丸皿)、石塔1点(五輪塔)、古銭12点(寛永通宝)と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から伸展葬と推定される。副葬銭がすべて古寛永であることや出土土器などから、時期は17世紀中葉と考えられる。

第17号土坑出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
533	土師質土器	小皿	8.7	2.4	4.6	長石・雲母・スコリア	橙	普通	底部外面左回転糸切り、底部内面クロナテ	南部中層	100% PL58	
534	土師質土器	小皿	7.9	1.5	4.3	雲母・スコリア	赤褐	普通	底部外面左回転糸切り、底部内面クロナテ	南部上層	60%	
535	土師質土器	小皿	6.6	2.6	3.2	スコリア・パミス	灰	普通	底部外面左回転糸切り	南部中層	100% ター ル付番 PL58	
536	土師質土器	香炉	10.6	(2.8)	—	雲母・スコリア	橙	普通	口縁部及び体部内・外面クロナテ、外面円形の印文	南部上層	5%	
537	陶器	丸皿	—	(2.4)	—	石英	明褐色、長石粒	普通	口縁部及び体部内・外面クロナテ	覆土中	5% PL58 祝志野	

番号	銭名	径	孔	幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
538	寛永通宝	2.4	0.5	4.0	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
539	寛永通宝	2.4	0.5	3.0	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
540	寛永通宝	2.3	0.5	3.7	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
541	寛永通宝	2.4	0.6	3.7	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
542	寛永通宝	2.4	0.6	3.3	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
543	寛永通宝	2.5	0.6	2.7	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部中層	PL68
544	寛永通宝	2.5	0.6	2.8	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68
545	寛永通宝	2.5	0.5	3.3	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68
546	寛永通宝	2.4	0.5	3.2	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68
547	寛永通宝	2.5	0.5	3.6	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68
548	寛永通宝	2.4	0.5	3.2	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68
549	寛永通宝	2.4	0.5	2.9	1636		銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	南部下層	PL68

第19号土坑 (第220図)

位置 調査1区東部のL5b5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第14号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.07m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-68°-Wである。深さは20cmほどで、底面は北東に傾斜し、壁は外傾して立ち上がっている。

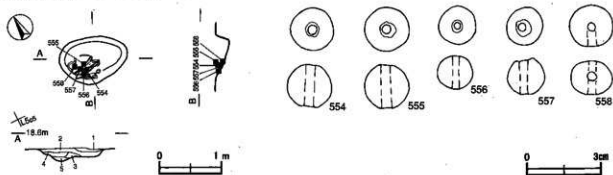
覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック少量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 石製品5点(数珠玉)と人骨1体が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、頭位を北西に体を南西に向けた横臥屈葬である。本跡に伴う出土土器がないため時期判断は困難であるが、遺構の形状から周辺の墓塚群と同時代の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第220図 第19号土壌・出土遺物実測図

第19号土壌出土遺物観察表 (第220図)

番号	径	長さ	幅	孔径	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
554	散珠玉	1.1	1.2	0.2	1.8	水晶	外面研磨		下層	100%
555	散珠玉	1.1	1.2	0.2	2.1	水晶	外面研磨		下層	100%
556	散珠玉	0.9	1.1	0.2	1.5	水晶	外面研磨		下層	100%
557	散珠玉	1.0	1.0	0.2	1.1	水晶	外面研磨		下層	100%
558	散珠玉	0.9	1.1	0.2	2.0	水晶	外面研磨		下層	100%

第20A号土壌 (第221・222図)

位置 調査I区東部のL5b5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

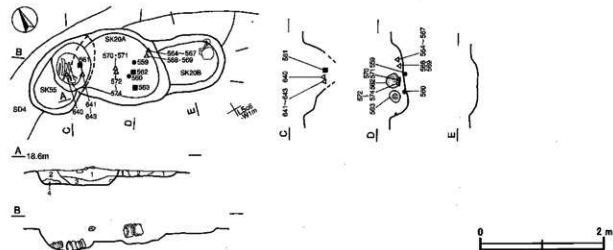
重複関係 第14号住居跡・第20B号土壌・第4号溝を掘り込み、第55号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 推定長径1.55m、短径1.20mで楕円形と推定され、長径方向はN-20°-Wである。深さは30cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

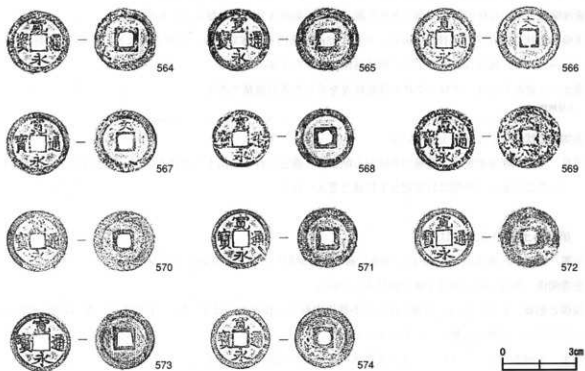
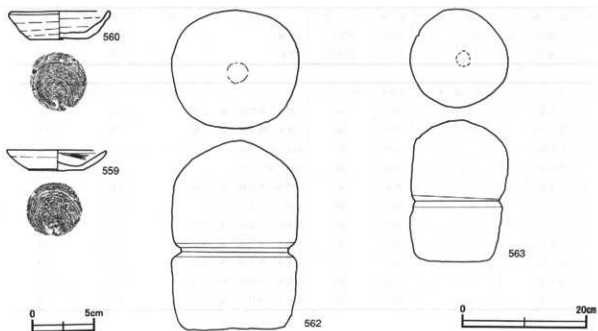
- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、骨片微量   | 3 暗褐色 ロームブロック・骨片少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、骨片微量 | 4 褐色 ロームブロック中量     |



第221図 第20A・20B・55号土壌実測図

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿), 陶器片1点(常滑甕), 石塔2点(五輪塔空風輪), 古銭11点(寛永通宝)と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は, 遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭が古寛永に文銭が混じる状況であることと出土土器から, 時期は17世紀後葉と考えられる。



第222図 第20A号土塚出土遺物実測図

第20A号土壌出土遺物観察表 (第222図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
559	土師器土器	小瓶	8.6	1.8	4.4	長石スコリア	橙	普通	底面内面ロクロナテ	底面	100% PL59	
560	土師器土器	小瓶	7.9	2.3	4.6	長石	橙	普通	底面内面ロクロナテ	底面	100% PL59	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
562	瓦輪塔	30.2	20.3	18.8	18000	花崗岩	空風輪	下層	PL66
563	瓦輪塔	22.7	15.7	15.7	8030	花崗岩	空風輪	下層	PL66

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
564	寛永通宝	2.5	0.6	3.4	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL66
565	寛永通宝	2.5	0.5	3.0	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL68
566	寛永通宝	2.5	0.5	5.0	1668	銅	文銭、銅一文銭	下層	PL69
567	寛永通宝	2.5	0.6	3.0	1668	銅	文銭、銅一文銭	下層	PL69
568	寛永通宝	2.3	0.6	3.4	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
569	寛永通宝	2.5	0.5	3.0	1668	銅	文銭、銅一文銭、布付着	下層	PL69
570	寛永通宝	2.4	0.5	3.1	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
571	寛永通宝	2.4	0.5	3.5	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
572	寛永通宝	2.4	0.5	3.4	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
573	寛永通宝	2.4	0.5	3.3	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
574	寛永通宝	2.4	0.5	3.3	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69

第20B号土壌 (第221図)

位置 調査I区東部のL5b5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第14号住居跡・第78号土坑を掘り込み、第20A号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 残存する長径は0.98m、短径0.92mの楕円形と推定され、長径方向はN-67°-Wである。深さは10cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量 2 褐色 ローム砂子中量

遺物出土状況 骨片が出土している。

所見 木跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。出土土器はないが、第20A号土壌に掘り込まれていることから、時期は17世紀後葉以前と考えられる。

第21号土壌 (第223図)

位置 調査I区東部のL5b6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第58・82・95号土壌を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.10m、短径0.80mの不整楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。深さは25cmで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

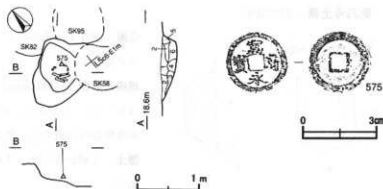
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量 4 暗褐色 ローム砂子中量  
2 暗褐色 ロームブロック中量 5 暗褐色 ローム砂子少量、炭化粒少量  
3 暗褐色 ロームブロック多量 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒少量

**遺物出土状況** 古銭1点(寛永通宝)と人骨1体が出土している。人骨は頭部を北西に向けて、屈葬された状態で出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、頭位を北西に向けた臥屈層である。17世紀後葉の第58・95号土壌を掘り込んでいることから、時期は17世紀後葉以降と考えられる。



第223図 第21号土壌・出土遺物実測図

第21号土壌出土遺物観察表 (第223図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
575	寛永通宝	2.4	0.6	2.5	1636	銅	古寛永、無背銭、鋳一文銭	下層	PL69

### 第22号土壌 (第224図)

**位置** 調査I区東部のL5c5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第4号溝を掘り込んでいる。

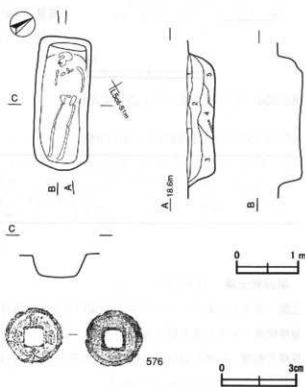
**規模と形状** 長軸2.12m、短軸0.86mの隅丸長方形で、長軸方向はN-58°-Wである。深さは40cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿)、陶器片2点(瀬戸・美濃天目茶碗1、椀類1)、鉄器2点(釘)、古銭1点(寛永通宝)と人骨1体が出土している。



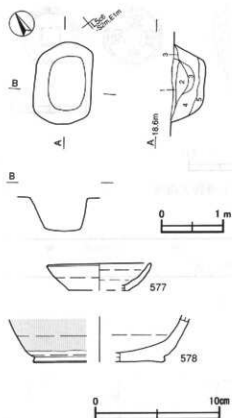
第224図 第22号土壌・出土遺物実測図

**所見** 本跡の埋葬形態は、頭位を北西に向けた伸展葬である。釘が出土していることから、棺が使用されたと考えられる。出土土器が細片ではあるが、高葬銭などから時期は18世紀前半と考えられる。

第22号土壌出土遺物観察表 (第224図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
576	寛永通宝	2.3	0.7	1.7	1697	銅	新寛永、無背銭、鋳一文銭	覆土中	PL70

### 第23号土壙（第225図）



第225図 第23号土壙・出土遺物実測図

第23号土壙出土遺物観察表（第225図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
577	土師質土器	小皿	8.2	2.1	4.8	灰石灰・バミス	明赤褐	普通	口縁部及び縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	60%
578	陶器	瓶類	—	(3.4)	[10.4]	石英・黒色粒子・バミス	灰黄、鉄軸	良好	底部回転ヘタ閉り・指痕痕、底部内面ロクロナデ	覆土中	10% 瀬戸・美濃

### 第24号土壙（第226図）

**位置** 調査I区東部のL5c6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第4号溝を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸1.47m、短軸1.40mの隅丸方形で、長軸方向はN-30°-Eである。深さは64cmで、底面は皿状を呈し、壁はほぼ直立している。

**覆土** 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、骨片微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、骨片微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、骨片微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、骨片微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・骨片微量
- 6 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（小皿）、陶器片2点（瀬戸・美濃播鉢、他）、磁器1点（染付瓶類）、鉄器6点（釘5、刀子1）、石塔1点（五輪塔片）と骨片が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、遺構の形状と骨片や釘の出土状況から、方形棺使用による塚葬と考えられる。出土

**位置** 調査I区東部のL5c6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**規模と形状** 長軸1.30m、短軸0.92mの隅丸長方形で、長軸方向はN-35°-Eである。深さは53cmであり、底面は皿状を呈し、南東壁がほぼ直立し、他は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

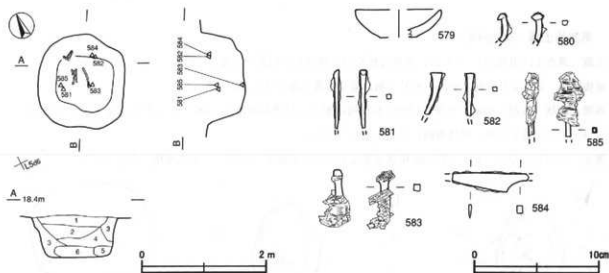
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（小皿）、陶器片1点（瀬戸・美濃系瓶類）、石製品9点（五輪塔片4、他5）と骨片が出土している。

**所見** 本跡は、形状から遺体を座棺に納めて埋葬したことが想定される。出土土器から時期は17世紀前半と考えられる。

土器から時期は17世紀後半と考えられる。



第226図 第24号土坑・出土遺物実測図

第24号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
579	土加質土器	小皿	[7.6]	(2.2)	—	長石・スコリア	橙	普通	口縁部及び縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
580	釘	(2.3)	1.0	0.4	(1.0)	鉄	角釘, 先端部折れ曲がる	覆土中	
581	釘	(4.7)	0.5	0.4	(1.7)	鉄	角釘	西壁際上層	PL67
582	釘	(3.4)	0.7	0.3	(2.0)	鉄	角釘, 先端部折れ曲がる	北壁際上層	PL67
583	釘	(4.6)	0.9	0.9	(6.8)	鉄	角釘, 先端部折れ曲がる, 木質付着	中央部下層	PL67
584	刀子	(6.2)	1.5	0.5	(6.7)	鉄	両端あり, 切先・基部欠損	北壁際上層	PL67
585	釘	(5.2)	2.2	0.3	(6.0)	鉄	角釘, 木質付着	西壁際上層	PL67

第25号土坑 (第227図)

位置 調査I区東部のL5d6区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第4号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.65m, 短径0.80mの楕円形で, 長径方向はN-56°-Wである。深さは30cmで, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが輪まりが弱く, 人為堆積と考えられる。

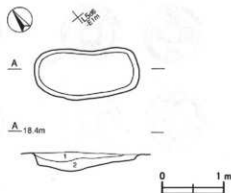
土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿), 磁器片2点(染付皿類), 石塔15点(五輪塔風輪1, 五輪塔地輪1, 他13)が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 本跡の埋葬形態は, 遺構の形状から臥屈葬と推定される。

出土土器が細片のため, 明確な時期判断は困難であるが, 時期は



第227図 第25号土坑実測図



17世紀代と推定される。

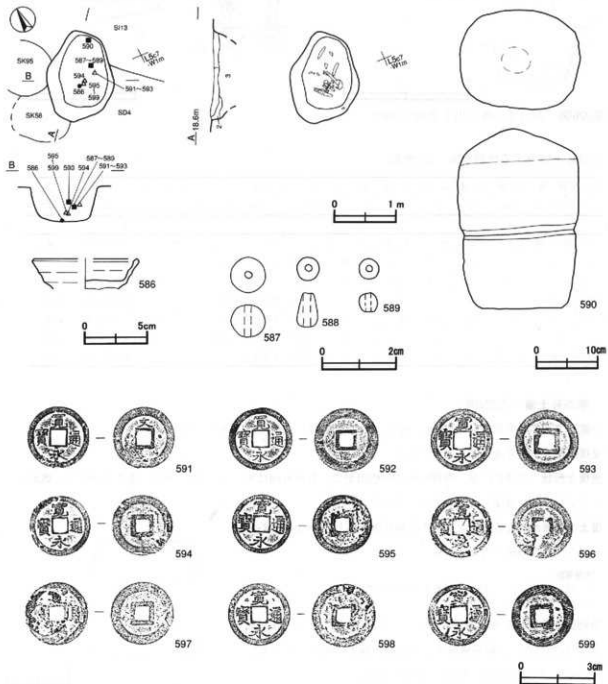
第26号土壙 (第228図)

位置 調査I区東部のL5b6区, 南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

重複関係 第13号住居跡, 第58・95号土壙, 第4号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.40m, 短径1.12mの不整楕円形で, 長径方向はN-38°-Eである。深さは56cmで, 底面はほぼ平坦と推定され, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが締まりが弱く, 人為堆積と考えられる。



第228図 第26号土壙・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(小皿)、陶器片1点(三足盤)、石製品3点(飾り玉)、石塔片2点(五輪塔空風輪、他)、銅製品1点(煙管吸口)、古銭9点(寛永通宝)と人骨が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状と人骨の出土状況から臥屈葬と推定される。時期は、副葬銭が古寛永に文銭と新寛永が混じる状況であることや出土土器から、時期は18世紀前葉と考えられる。

第26号土城出土遺物観察表(第228図)

番号	種別	器種	口径	径高	底径	胎上	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土師質土器	小皿	[8.2]	(2.4)	---	雲母・スロリア	明赤褐	普通	口縁部及び体部内・外面、底部内面口クロナデ	下層	50%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
387	飾り玉	0.9	0.9	0.15	1.08	水晶	球形	中層	100%
588	飾り玉	0.9	0.6	0.20	0.46	水晶	扁球形	中層	100%
589	飾り玉	0.5	0.5	0.15	0.20	水晶	球形	中層	100%

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
590	五輪塔	28.9	19.3	16.1	1270	花崗岩	空風輪	中層	PL67

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
591	寛永通宝	2.4	0.6	3.0	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭	中層	PL70
592	寛永通宝	2.5	0.6	3.7	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭	中層	PL70
593	寛永通宝	2.5	0.6	3.6	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	中層	PL69
594	寛永通宝	2.4	0.5	3.1	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
595	寛永通宝	2.4	0.5	3.0	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
596	寛永通宝	2.4	0.6	2.6	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
597	寛永通宝	2.5	0.5	3.4	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
598	寛永通宝	2.5	0.5	3.5	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69
599	寛永通宝	2.5	0.5	2.4	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69

第27号土城(第229図)

位置 調査1区東部のK5j5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

規模と形状 長軸1.12m、短軸0.83mの隅丸長方形で、長軸方向はN-41°-Eである。深さは50cmほど、底面は南東にやや傾斜を示し、壁は外傾して立ち上がっている。

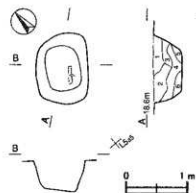
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量  
 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、骨片微量  
 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  
 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、骨片微量

遺物出土状況 骨片・歯が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、南の出土位置から見て、頭位を北東に向けた臥屈葬と考えられる。出土土器がないため時期判断は困難であるが、遺



第229図 第27号土城実測図

槽の形状から周辺の土壌墓葬と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

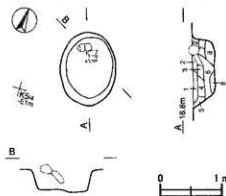
### 第28号土壌 (第230図)

位置 調査I区東部のK5h4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第1号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.17m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。深さは30cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第230図 第28号土壌実測図

#### 土層解説

- |   |     |                       |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量   |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量               |
| 8 | 褐色  | ロームブロック中量             |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、石塔2点(五輪塔空風輪、五輪塔火輪)が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と想定される。

出土土器が細片で時期判断が困難であるが、周囲の土壌墓葬と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

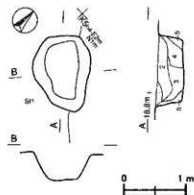
### 第29号土壌 (第231図)

位置 調査I区東部のK5g4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第1号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.25m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-39°-Wである。深さは40cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第231図 第29号土壌実測図

#### 土層解説

- |   |     |                      |
|---|-----|----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量              |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・骨片・遺物微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・骨片微量  |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量     |

遺物出土状況 陶器片1点(天目茶碗)、石塔1点(五輪塔水輪)と骨片・歯が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定されるが、骨片や歯の出土位置から埋葬の可能性も考えられ、判断しがたい。出土土器が細片で時期判断は困難であるが、周囲の土壌墓葬と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

### 第30号土壌 (第232図)

位置 調査I区東部のK5g7区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**規模と形状** 長径1.00m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-90°-Wである。深さは10cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

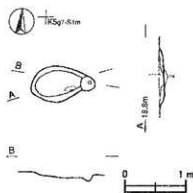
**覆土** 2層からなる。覆土が薄く堆積状況の判断は困難であるが、締まりが弱く、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 層 褐色 ロームブロック・硬土粒子少量、骨片微量
- 2 層 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 骨片が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。出土土器がなく、時期判断は困難であるが、遺構の形状から周囲の上墳墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第232図 第30号土墳実測図

**第31号土墳 (第233図)**

**位置** 調査I区東部のL5a5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第14号住居跡を掘り込んでいる。

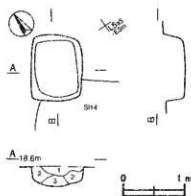
**規模と形状** 長軸1.05m、短軸0.80mの長方形で、長軸方向はN-32°-Eである。深さは30cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

**覆土** 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 層 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 層 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 層 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**所見** 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から坐葬または臥屈葬と推定される。出土遺物がなく、時期判断が困難であるが、遺構の形状から周囲の上墳墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半と推定される。



第233図 第31号土墳実測図

**第34号土墳 (第234図)**

**位置** 調査I区東部のL5a8区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

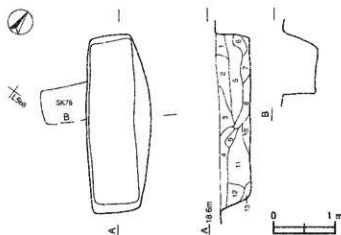
**重複関係** 第76号上坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.81m、短軸1.00mの長方形で、長軸方向はN-38°-Wである。深さは55cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

**覆土** 13層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 層 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 層 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量



第234図 第34号上墳実測図

3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック微量
4	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から伸展葬と推定される。出土遺物がなく、時期判断は困難であるが、隣接する第22号土壌と形状が似ていることから、ほぼ同時期の18世紀前半と推定される。

### 第36号土壌 (第235図)

位置 調査Ⅰ区の東部K5j3区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第21号住居跡、第57・203号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.87m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-42°-Eである。深さは30cmほどであり、底面は皿状を呈し、壁はほぼ直立している。

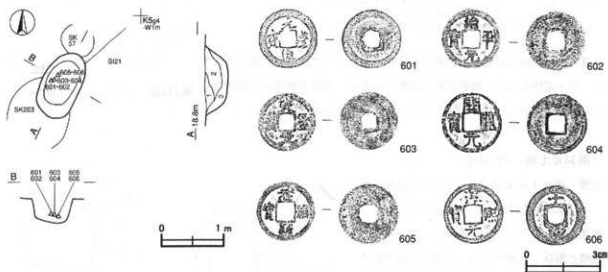
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況を示していないが、締まりが弱いことから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨片微量    3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨片微量  
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭6点(開元通宝、治平通宝、元豊通宝、元祐通宝、淳熙元宝、不明)と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭の大半が北宋銭で寛永通宝を含まないことと、周囲の土壌幕群との関連性から、時期は16世紀後半から17世紀前葉の間と考えられる。



第235図 第36号土坑・出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表 (第235図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
601	元豊通宝	2.4	0.6	3.3	1078	銅	北宋銭、無背銭	西部下層	PL68
602	治平元宝	2.4	0.6	2.1	1064	銅	北宋銭、無背銭	西部下層	PL68
603	不明	2.3	0.6	3.0	—	銅	北宋銭か、無背銭	西部下層	PL68
604	開元通宝	2.4	0.7	3.1	960	銅	南唐銭か、無背銭	西部下層	PL68

番号	銭名	径	孔幅	重量	初録年	材質	特徴	数	出土位置	備考
605	元祐通宝	2.4	0.7	3.0	1086	銅	北宋銭、無背銭		西部下層	PL.68
606	淳熙元宝	2.4	0.6	3.7	1174	銅	南宋銭、背十四、1187年鑄造		西部下層	PL.68

### 第37A号土壇 (第236図)

位置 調査I区東部のL5a2区、南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

重複関係 第37B号土壇・第4号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.25m、短径0.87mの楕円形で、長径方向はN-47°-Eである。深さは36cmで、底面は皿状を呈し、壁はほぼ直立している。

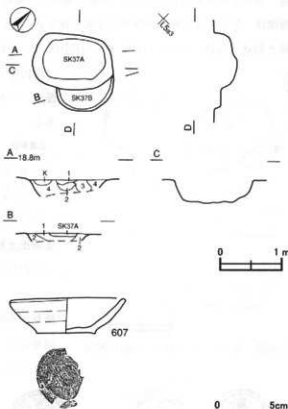
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)と骨片・歯が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、骨片や歯の出土状況から頭位が南西向きに臥屈葬と推定される。第4号溝を掘り込んでいること、出土土器から時期は17世紀前半と考えられる。



第236図 第37A・37B号土壇、第37A号土壇出土遺物実測図

### 第37A号土壇出土遺物観察表 (第236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
607	土師質土器	小皿	9.0	2.9	4.7	砂粒	黄褐色	普通	口縁部及び体部内・外面ロケロナテ、底部内面一方向の推ナテ	覆土中	70%

### 第37B号土壇 (第236図)

位置 調査I区東部のL5a2区、南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

重複関係 第4号溝を掘り込み、第37A号土壇に掘り込まれている。

規模と形状 南北径が0.90mほどで、円形または楕円形と推定される。深さは10cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなる。覆土が浅く堆積状況の判断は困難であるが、締まりが弱く人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 骨片が出土している。

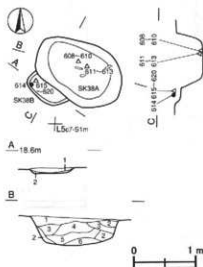
所見 本跡は、出土遺物がないたため時期判断は困難であるが、第4号溝を掘り込み、第37A号土壌に掘り込まれていることから、時期は17世紀前半であり、第37A号土壌よりも古い時期と考えられる。

### 第38A号土壌 (第237・238図)

位置 調査I区東部のL5b7区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第13号住居跡・第38B号土壌を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.46m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。深さは40cmほどで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。



第237図 第38A・38B号土壌実測図

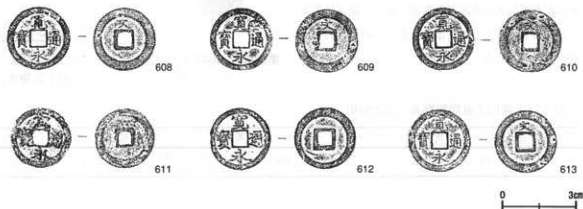
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・骨片微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・骨片微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿、内耳土器)、陶器1点(常滑片口鉢)、古銭6点(寛永通宝)と骨片、炭化材が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭が古寛永と文銭だけであることから、時期は17世紀後半と考えられる。



第238図 第38A号土壌出土遺物実測図

第38A号土壌出土遺物観察表 (第238図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初铸年	材質	特徴	数	出土位置	備考
608	寛永通宝	2.5	0.6	3.2	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		底面	PL70
609	寛永通宝	2.5	0.6	3.2	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		底面	PL70
610	寛永通宝	2.5	0.6	3.7	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		底面	PL70
611	寛永通宝	2.4	0.5	3.5	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭		下層	PL69
612	寛永通宝	2.4	0.5	3.0	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭		下層	PL69
613	寛永通宝	2.5	0.5	3.7	1668	銅	文銭、銅一文銭		下層	PL69

### 第38B号土壌 (第237・239図)

位置 調査I区東部のL5b7区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込み, 第38A号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 南北径0.70mの円形または楕円形と推定され, 深さは10cmほどである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

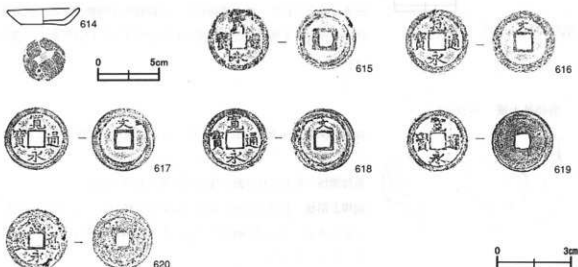
覆土 2層からなり, 覆土が薄い。堆積状況の判断は困難であるが締まりが弱く, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿), 古銭6点(寛永通宝)が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は, 遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭が古寛永と文銭だけであり, 第38A号土壌に掘り込まれていることから, 時期は, 17世紀後葉で第38A号土坑よりも古い時期と考えられる。



第239図 第38B号土壌出土遺物実測図

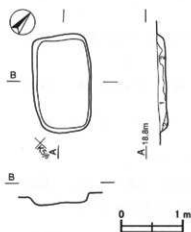
第38B号土壌出土遺物観察表 (第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
614	土師質土器	小皿	5.8	1.3	3.4	雲母・スクリア	明赤褐色	普通	口縁部及び体部内・外面, 底部内面ロクロナデ	下層	95%
番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴		出土位置	備考	
615	寛永通宝	2.4	0.5	4.0	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭, 布付着	下層	PL69		
616	寛永通宝	2.5	0.6	3.0	1668	銅	文銭, 銅一文銭	下層	PL69		
617	寛永通宝	2.5	0.6	3.3	1668	銅	文銭, 銅一文銭	下層	PL69		
618	寛永通宝	2.5	0.5	3.9	1668	銅	文銭, 銅一文銭	下層	PL69		
619	寛永通宝	2.4	0.5	3.4	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	下層	PL69		
620	寛永通宝	2.4	0.5	3.4	1668	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	下層	PL69		



### 第39号土壙 (第240図)

位置 調査I区東部のK5j5区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。



第240図 第39号土壙実測図

**規模と形状** 長軸1.56m, 短軸0.92mの長方形で, 長軸方向はN-48°-Wである。深さは15cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層からなり, 覆土が薄い。堆積状況の判断は困難であるが, 締まりが弱く, 人為堆積と考えられる。

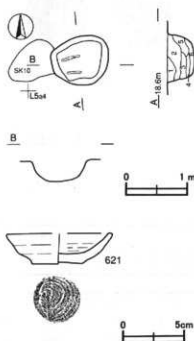
**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 人骨が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は, 掘り込みが浅いことと人骨の出土状況から臥屈葬と推定される。出土遺物がなく時期判断は困難であるが, 遺構の形状から周囲の土壌羣群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

### 第40号土壙 (第241図)



第241図 第40号土壙・出土遺物実測図

位置 調査I区東部のK5j4区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第21号住居跡・第10号土壙を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径0.88m, 短径0.83mの不整形形で, 長径方向はN-40°-Eである。深さは40cmほどであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 6層からなり, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿)と骨片が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は, 遺構の形状と人骨の出土状況から座葬と推定される。出土土器から時期は17世紀前半と考えられる。

第40号土壙出土遺物観察表 (第241図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
621	土師質土器	小皿	[8.4]	2.4	4.0	長石・赤母・スコリア	にぶい褐色	普通	口縁部及び体部内・外面, 底部内面ロクナデ	覆土中	55%

#### 第41号土壙（第242図）

位置 調査Ⅰ区東部のI.5 c7区，南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

重複関係 第13号住居跡・第4号溝を掘り込んでいる。

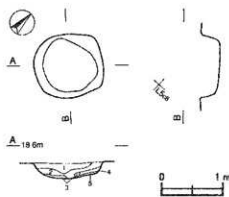
規模と形状 長径1.10m，短径1.00mの円形で，長径方向はN-43°-Eである。深さは30cmであり，底面は皿状を呈し，壁はほぼ直立している。

覆土 5層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |   |     |                       |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 | 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量        |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量               |

所見 本跡の埋葬形態は，遺構の平面形からは座葬と推定される。しかし掘り込みが浅いため判断がたい。出土遺物がなく時期判断は困難であるが，周辺の土壙墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半と推定される。



第242図 第41号土壙実測図

#### 第43号土壙（第243図）

位置 調査Ⅰ区東部のK5 i4区，南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

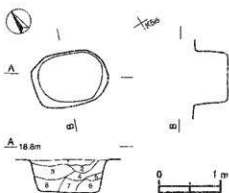
規模と形状 長径1.24m，短径0.86mの楕円形で，長径方向はN-56°-Wである。深さは34cmであり，底面はほぼ平皿で，壁はほぼ直立している。

覆土 8層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子微量             |
| 3 | 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量      |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量        |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量      |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量      |

所見 本跡の埋葬形態は，遺構の形状からは臥屈葬または座葬と推定される。出土遺物がないため時期判断は困難であるが，周辺の土壙墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第243図 第43号土壙実測図

#### 第44号土壙（第244図）

位置 調査Ⅰ区東部のL5 b7区，南東に緩やかに傾斜した斜面上に立地している。

重複関係 第13号住居跡・第47号土壙を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m，短径0.75mの楕円形で，長径方向はN-32°-Eである。深さは35cmであり，底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

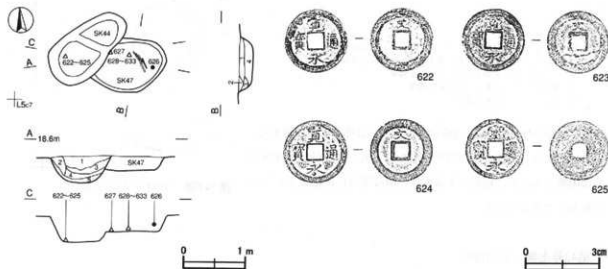
覆土 5層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                     |       |                |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      | 4 黒褐色 | 骨片中量、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量           | 5 暗褐色 | ローム粒子少量        |
| 3 黒褐色 | 骨片少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |       |                |

遺物出土状況 古銭4点(寛永通宝)と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭が古寛永と文銭であることから、時期は17世紀後葉と考えられる。



第244図 第44・47号土壌、第44号土壌出土遺物実測図

第44号土壌出土遺物観察表 (第244図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
622	寛永通宝	2.5	0.5	3.8	1668	銅	文銭、銅一文銭	下層	PL69
623	寛永通宝	2.5	0.5	4.0	1668	銅	文銭、銅一文銭	下層	PL69
624	寛永通宝	2.5	0.5	3.4	1668	銅	文銭、銅一文銭	下層	PL69
625	寛永通宝	2.4	0.5	3.7	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	下層	PL69

第47号土壌 (第244・245図)

位置 調査I区東部のL5b7区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込み、第44号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.24m、短径0.87mの楕円形で、長径方向はN-79°-Eである。深さは25cmであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

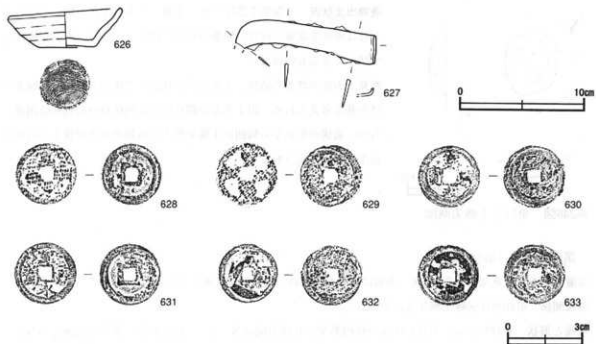
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況は示してはいないが締まりが弱く、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                |      |                |
|-------|----------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量        |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、骨片微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、鉄器1点(鎌)、古銭6点(寛永通宝)と人骨1体が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、掘り込みが浅いことと人骨の出土状況から臥屈葬と推定される。出土土器と副葬銭から時期は17世紀中葉と考えられる。



第245図 第47号土坑出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表 (第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
626	土師質土器	小皿	8.8	3.2	4.3	雲母	橙	普通	口縁部及び体部内・外面、底部内面ロクロナデ	中層	100% PL59

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
627	鎌	(11.1)	2.5	0.3	(23.2)	鉄	曲方鎌, 刃鎌	底面	PL67

番号	銭名	径	孔径	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
628	寛永通宝	2.4	0.6	2.6	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭, 布付着	下層	PL69
629	寛永通宝	2.5	0.5	4.0	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭, 布付着	下層	PL69
630	寛永通宝	2.5	0.5	3.8	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	下層	PL69
631	寛永通宝	2.4	0.5	3.0	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	下層	PL69
632	寛永通宝	2.4	0.5	4.3	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	下層	PL69
633	不明	2.4	0.5	3.5	—	銅	寛永通宝か	下層	PL69

第51号土坑 (第246図)

位置 調査I区東部のL5b4区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第10・21号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.04m, 短径0.85mの楕円形で, 長径方向はN-25°-Eである。深さは33cmであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

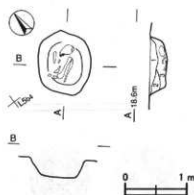
覆土 3層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・骨片少量

3 黒褐色 ローム粘土・骨片中量

2 暗褐色 ロームブロック中量, 骨片少量



第246図 第51号土壌実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(小皿)と人骨1体が出土している。人骨は頭位を北東に向け、屈葬の状態でも出土している。出土土器は細片で図示できるものはない。

**所見** 本跡の埋葬形態は、人骨の出土状況と遺構の形状から臥屈葬または座葬と考えられる。出土土器が細片のため明確な時期判断は困難であるが、遺構の形状から周囲の土壌墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

### 第52号土壌 (第247図)

**位置** 調査I区東部のL5b4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第10号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.20m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは23cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

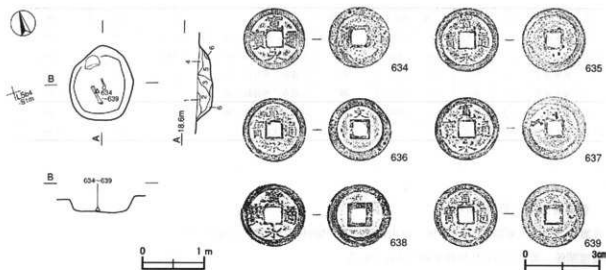
**覆土** 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                          |       |                         |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・骨片少量、焼土粒子・炭化物微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量    |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・骨片微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物・骨片微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、骨片微量        | 6 暗褐色 | ローム粒子中量                 |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(小皿)、古銭6点(寛永通宝)と人骨1体が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、頭位を北に向けた臥屈葬である。副葬銭が新寛永主体に文銭が混じる状況のため、時期は18世紀前半と考えられる。



第247図 第52号土壌・出土遺物実測図

### 第52号土壌出土遺物観察表 (第247図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出上位置	備考
634	寛永通宝	2.4	0.6	2.5	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	中央部下層	PL69

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	数	出土位置	備考
635	寛永通宝	2.5	0.5	3.8	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		中央部下層	PL70
636	寛永通宝	2.5	0.5	3.3	1668	銅	文銭、銅一文銭		中央部下層	PL70
637	寛永通宝	2.5	0.6	3.5	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		中央部下層	PL70
638	寛永通宝	2.5	0.6	3.9	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		中央部下層	PL70
639	寛永通宝	2.5	0.5	3.0	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		中央部下層	PL70

### 第55号土壙（第221・248図）

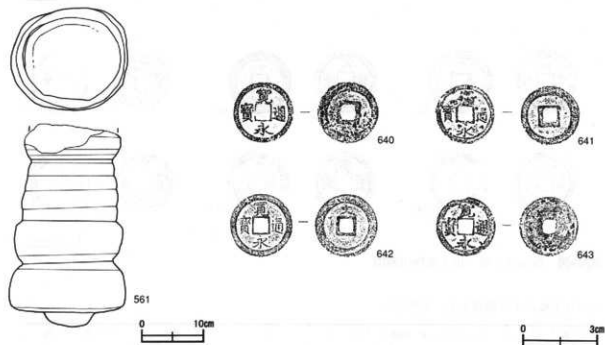
位置 調査I区東部のL5b5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第14号住居跡・第20A号土壙・第4号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.38m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。深さは40cmほどであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 石塔3点（層塔宝珠、層塔相輪、他）、古銭4点（寛永通宝）と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、人骨の出土状況から座葬と考えられる。副葬銭が古寛永に文銭と新寛永が混じる状況のため、時期は18世紀前葉と考えられる。



第248図 第55号土壙出土遺物実測図

### 第55号土壙出土遺物観察表（第248図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	数	出土位置	備考
561	層塔	(32.5)	18.5	16.2	(1200)	花崗岩	相輪、下部請花・伏鉢無地、上部請花欠損		底面	PL66

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	数	出土位置	備考
640	寛永通宝	2.4	0.6	2.8	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭		下層	PL69
641	寛永通宝	2.3	0.5	2.9	1697	銅	新寛永、無背銭、銅一文銭		底面	PL70
642	寛永通宝	2.5	0.6	2.7	1668	銅	文銭、銅一文銭		底面	PL70

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
643	寛永通宝	2.4	0.4	2.6	1636	銅	古寛永、無背銭、銅一文銭	底面	PL69

### 第58号土壌 (第249図)

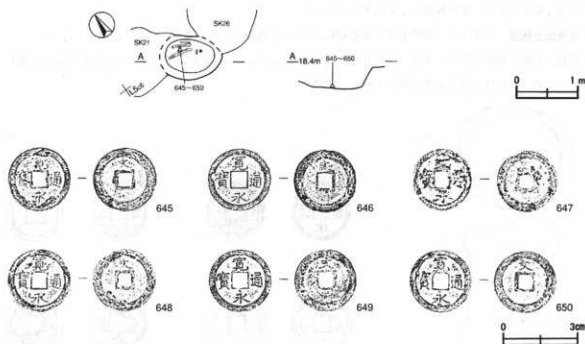
位置 調査I区東部のL5c6区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第95号土壌を掘り込み, 第21・26号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.70mの楕円形で, 長径方向はN-44°-Wである。深さは35cmであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片1点(掃鉢), 古銭7点(寛永通宝)と人骨1体が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は, 頭位を南東に向けた臥屈葬である。副葬銭が文銭主体に古寛永が混じる状況のため, 時期は17世紀後葉と考えられる。



第249図 第58号土壌・出土遺物実測図

### 第58号土壌出土遺物観察表 (第249図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
645	寛永通宝	2.5	0.5	3.6	1668	銅	文銭, 銅一文銭	底面	PL70
646	寛永通宝	2.5	0.6	2.7	1668	銅	文銭, 銅一文銭	底面	PL70
647	寛永通宝	2.4	0.5	3.5	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	底面	PL69
648	寛永通宝	2.5	0.5	3.5	1668	銅	文銭, 銅一文銭	底面	PL70
649	寛永通宝	2.5	0.6	2.8	1668	銅	文銭, 銅一文銭	底面	PL70
650	寛永通宝	2.5	0.6	4.0	1668	銅	文銭, 銅一文銭	底面	PL70

### 第59号土壌 (第250図)

位置 調査I区東部のK514区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第1号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.25m, 短径1.00mの不整楕円形で, 長径方向はN-4°-Wである。深さは50cmほどであり, 底面はほぼ平坦で, 壁はほぼ直立している。

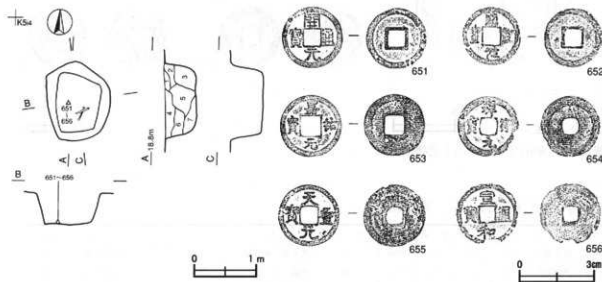
**覆土** 7層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量           | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量           | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量             | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 4 褐色  | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |       |                       |

**遺物出土状況** 陶器片1点(天目茶碗), 古銭6点(開元通宝2, 祥符元宝1, 天聖元宝1, 嘉祐元宝1, 宣和通宝1)と骨片が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は, 人骨の出土状況から座葬または臥屈葬と推定される。副葬銭が南唐銭と北宋銭だけで寛永通宝がなく, 周囲の土壌墓群との関連性を考慮し, 時期は16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第250図 第59号土壌・出土遺物実測図

第59号土壌出土遺物観察表 (第250図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
651	開元通宝	2.4	0.6	2.7	960	銅	南唐銭, 無背銭	西部底面	PL68
652	開元通宝	2.4	0.6	2.5	960	銅	南唐銭, 無背銭	西部底面	PL68
653	嘉祐元宝	2.5	0.8	2.8	1056	銅	北宋銭, 無背銭	西部底面	PL68
654	祥符通宝	2.4	0.6	3.0	1009	銅	北宋銭, 無背銭	西部底面	PL68
655	天聖通宝	2.5	0.6	3.5	1023	銅	北宋銭, 無背銭	西部底面	PL68
656	宣和通宝	2.5	0.6	2.6	1119	銅	北宋銭, 無背銭	西部底面	PL68

**第62号土壌 (第251図)**

**位置** 調査I区東部のK5i3区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第93号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 推定長径1.10m, 短径0.86mの楕円形と考えられ, 長径方向はN-3°-Wである。深さは35cmであり, 底面は皿状を呈し, 壁はほぼ直立している。

**覆土** 8層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

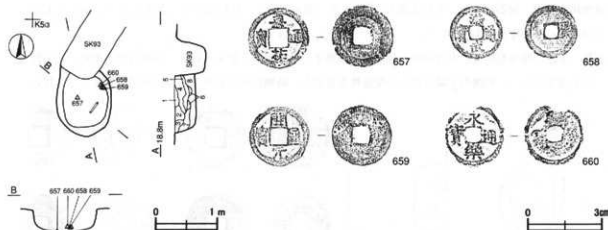


### 土層解説

- |      |                  |       |                |
|------|------------------|-------|----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 褐色  | ローム粒子中量        |
| 2 褐色 | ローム粒子少量          | 6 灰黄色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 7 褐色  | ロームブロック中量      |
| 4 褐色 | ロームブロック中量        | 8 褐色  | ロームブロック少量      |

遺物出土状況 古銭4点（開元通宝、嘉祐通宝、洪武通宝、永楽通宝）と骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬状況は、遺構の形状から臥屋墓と推定される。副葬銭が南唐銭や北宋銭と明銭だけで寛永通宝が含まれておらず、周囲の上墳墓群との関連性から、時期は16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第251図 第62号土墳・出土遺物実測図

第62号土墳出土遺物観察表（第251図）

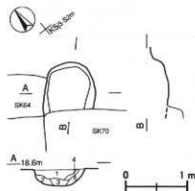
番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
657	嘉祐通宝	2.4	0.4	3.6	1056	銅	北宋銭、無背銭	中央部底面	PL68
658	洪武通宝	2.1	0.5	3.0	1368	銅	明銭、背一銭	北東壁際下層	PL68
659	開元通宝	2.4	0.6	2.3	960	銅	北宋銭、無背銭	北東壁際下層	PL68
660	永楽通宝	4.1	0.6	1.6	1408	銅	明銭、無背銭	北東壁際下層	PL68

### 第65号土墳（第252図）

位置 調査I区東部のK5j2区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第21号住居跡・第64号土坑を掘り込み、第70号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認された南北径は0.75mで、東西径0.80mの円形または楕円形と推定される。深さは26cmであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。



第252図 第65号土墳実測図

覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

### 土層解説

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子・炭化物中量、ローム粒子微量  |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量      |
| 3 灰褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量    |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 5 褐色  | ローム粒子中量             |

遺物出土状況 骨片が出土している。

所見 本跡は、出土上器がないため時期判断は困難であるが、遺構の形状から、周辺の土墳墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推

定される。

### 第72号土壌 (第253図)

位置 調査I区東部のK5j2区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第64号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.92m, 短軸0.60mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-43°-Eである。深さは40cmほどであり, 底面は皿状を呈し, 壁はほぼ直立している。

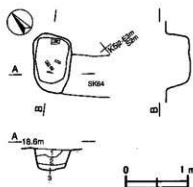
覆土 3層からなり, ブロック状の堆積状況を示してはいないが構まりが弱く, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 骨片が出土している。

所見 本跡は, 出土土器がないため時期判断は困難であるが, 遺構の形状から, 周辺の土壌墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第253図 第72号土壌実測図

### 第73号土壌 (第254図)

位置 調査I区東部のL5a5区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第10・14号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.86m, 短軸0.72mの不整形円形で, 長軸方向はN-53°-Eである。深さは45cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁はほぼ直立している。

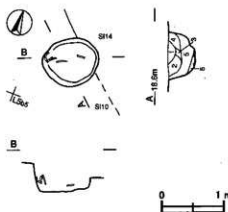
覆土 6層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・骨片微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・骨粉微量

遺物出土状況 骨片が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は, 骨片の出土状況と遺構の形状から, 直葬で座葬または臥屈葬と考えられる。出土土器がないため時期判断は困難であるが, 遺構の形状から, 周辺の土壌墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。



第254図 第73号土壌実測図

### 第76号土壌 (第255図)

位置 調査I区東部のL5a8区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第34号土壌に掘り込まれている。

規模と形状 確認された長軸は0.70mで, 短軸0.60mの長方形である。長軸方向はN-48°-Eで, 深さは26cmであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

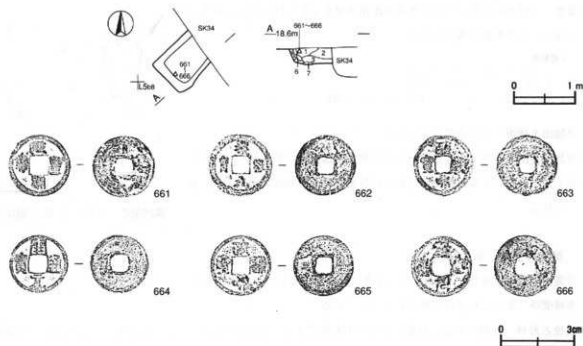
覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |              |       |           |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量  | 7 褐色  | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量      |       |           |

遺物出土状況 古銭6点(開元通宝1, 祥符通宝1, 元豊通宝1, 政和通宝1, 不明2)が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。副葬銭が南唐銭と北宋銭だけと推定されることから、周囲の土贖墓群との関連性を考慮し、時期は16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第255図 第76号土贖・出土遺物実測図

第76号土贖出土遺物観察表 (第255図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
661	元豊通宝	2.4	0.7	3.4	1078	銅	北宋銭、無背銭	南西壁際上層	PL68
662	祥符通宝	2.5	0.6	3.8	1009	銅	北宋銭、無背銭	南西壁際上層	PL68
663	不明	2.4	0.6	3.0	—	銅	北宋銭か、無背銭	南西壁際上層	PL68
664	開元通宝	2.3	0.7	2.5	960	銅	南唐銭、無背銭	南西壁際上層	PL68
665	政和通宝	2.4	0.6	3.0	1111	銅	北宋銭、無背銭	南西壁際上層	PL68
666	不明	2.4	0.7	2.6	—	銅	北宋銭か、無背銭	南西壁際上層	PL68

第79号土贖 (第256図)

位置 調査I区東部のL5a4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込み、第12号土贖に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.00m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。深さは20cmほどであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示してはいないが締まりが弱く、人為堆積と考えられる。

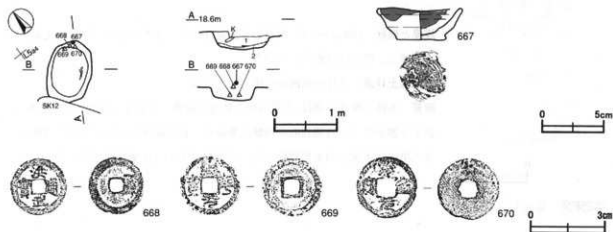
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿), 古銭3点(熙寧元宝, 洪武通宝, 不明)と骨片・歯が出土している。

所見 本跡の埋葬形態は, 骨片や歯の出土状況から, 頭位を北東に向けた臥屈葬と考えられる。出土土器や副葬銭から, 時期は16世紀後半から17世紀前葉と考えられる。



第256図 第79号土壌・出土遺物実測図

第79号土壌出土遺物観察表 (第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
667	土師質土器	小皿	6.7	2.6	3.8	雲母・スクリア	橙	普通	口縁部及び内・外面ロクロナデ, 底部内面一方向の指ナデ	北東壁際上層	100% PL59

番号	銭名	径	孔径	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
668	洪武通宝	2.3	0.5	3.4	1368	銅	明銭, 背一銭	北東壁際上層	PL68
669	熙寧通宝	2.4	0.6	3.0	1068	銅	北宋銭, 無背銭	北東壁際下層	PL68
670	不明	2.4	0.7	3.0	—	銅	北宋銭または明銭か	北東壁際下層	PL68

第80号土壌 (第257図)

位置 調査1区東部のK5j4区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.70mの楕円形で, 長径方向はN-52°-Wである。深さは20cmほどであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

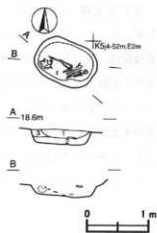
覆土 3層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 人骨1体が出土している。

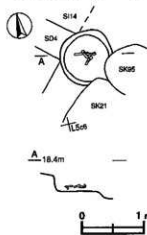
所見 本跡の埋葬形態は, 頭位を西に, 体を南に向けた横臥屈葬である。出土



第257図 第80号土壌実測図

土器がなく、時期判断は困難であるが、隣接する第79号土塋と規模と形状や長径方向がほぼ一致することから、あまり時期差がない16世紀後半から17世紀前半と推定される。

#### 第82号土塋（第258図）



**位置** 調査I区東部のL5b6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。  
**重複関係** 第14号住居跡・第4号溝を掘り込み、第21・95号土塋に掘り込まれている。

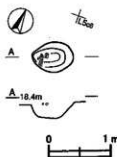
**規模と形状** 径0.90mほどの円形と推定される。深さは25cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

**遺物出土状況** 骨片が底面から出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、人骨の出土状況と遺構の形状から座葬と推定される。出土土器がなく、時期判断が困難であるが、16世紀後半の第4号溝や17世紀後葉の第95号土坑との重複関係から、17世紀前半から後葉と推定される。

第258図 第82号土塋実測図

#### 第86号土塋（第259図）



**位置** 調査I区東部のL5c5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**規模と形状** 長径0.65m、短径0.50mの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。深さは24cmであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**遺物出土状況** 骨片が覆土上層から出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。出土土器がなく、時期判断は困難であるが、遺構の形状から、周囲の土塋墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

第259図 第86号土塋実測図

#### 第87号土塋（第260図）

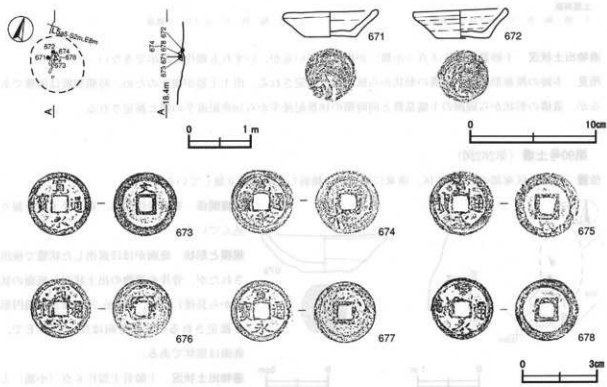
**位置** 調査I区東部のL5a5区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第14号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 底面がほぼ露出した状態で検出されたが、骨片や遺物の出土状況から、長径0.90m、短径0.80mほどの楕円形と推定される。長径方向はN-56°-Wで、底面は皿状である。

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（小皿）、古銭6点（寛永通宝）と骨片が出土している。

**所見** 本跡の埋葬形態は、骨片の出土状況から座葬と推定される。副葬銭が古寛永主体に文銭が混じる状況であることや出土土器から、時期は17世紀後葉と考えられる。



第260図 第87号土坑・出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表 (第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
671	土師質土器	小皿	7.4	2.2	4.0	雲母	橙	普通	口縁部及び体部内・外面, 底部内面ロクロナデ	下層	100% PL59
672	土師質土器	小皿	7.3	2.4	4.1	雲母	橙	普通	口縁部及び体部内・外面, 底部内面ロクロナデ	床面	100% PL59

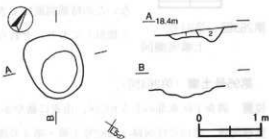
番号	銭名	径	孔	軸	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
673	寛永通宝	2.5	0.6	3.3	1668		銅	文銭, 刷一文銭	下層	PL70
674	寛永通宝	2.5	0.6	3.8	1636		銅	古寛永, 無背銭, 刷一文銭	下層	PL69
675	寛永通宝	2.5	0.6	3.2	1636		銅	古寛永, 無背銭, 刷一文銭	下層	PL69
676	寛永通宝	2.4	0.5	3.1	1636		銅	古寛永, 無背銭, 刷一文銭	下層	PL69
677	寛永通宝	2.5	0.5	4.3	1636		銅	古寛永, 無背銭, 刷一文銭	下層	PL69
678	寛永通宝	2.3	0.6	3.8	1636		銅	古寛永, 無背銭, 刷一文銭	下層	PL69

第88号土坑 (第261図)

位置 調査I区東部のL5 c6区, 南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

規模と形状 長径1.03m, 短径0.86mの楕円形で, 長径方向はN-52°-Wである。深さは15cmであり, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり, 覆土が薄い。堆積状況の判断は困難であるが締まりが弱く, 人為堆積と考えられる。



第261図 第88号土坑実測図

## 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

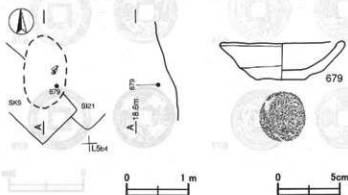
2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(小皿)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡の埋葬形態は、遺構の形状から臥屈葬と推定される。出土土器が細片のため、時期判断は困難であるが、遺構の形状から周囲の土壌墓群と同時期の16世紀後半から18世紀前半の間と推定される。

## 第90号土壌(第262図)

**位置** 調査I区東部のL5a3区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。



第262図 第90号土壌・出土遺物実測図

**重複関係** 第21号住居跡、第9号土壌を掘り込んでいる。

**規模と形状** 底面がほぼ露出した状態で検出されたが、骨片や遺物の出土状況と底面の状況から長径1.10m、短径0.70mほどの楕円形と推定される。長径方向は $N-3^{\circ}-E$ で、底面は皿状である。

**遺物出土状況** 土師質土器片6点(小皿)と骨片・歯が出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。

## 第90号土壌出土遺物観察表(第262図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
679	土師質土器	小皿	9.7	3.0	3.9	長石・石英・雲母	概	普通	口縁部及び体部内・外面口ノナテ、底部内面一方向の指ノナテ	上層	90% PL59	

## 第94号土壌(第263図)

**位置** 調査I区東部のK5j3区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。



第263図 第94号土壌実測図

**重複関係** 第21号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 底面がほぼ露出した状態で検出されたが、骨片の出土状況から長径1.10m、短径0.70mほどの楕円形と推定される。長径方向は $N-30^{\circ}-E$ である。

**遺物出土状況** 骨片と歯が出土している。

**所見** 本跡の埋葬状況は、骨片や歯の出土状況から臥屈葬と推定される。出土土器がないため時期判断はできないが、推定平面形や長径方向が隣接する第37A・79号土壌と類似しており、それらと同時期の16世紀後半から17世紀前半と推定される。

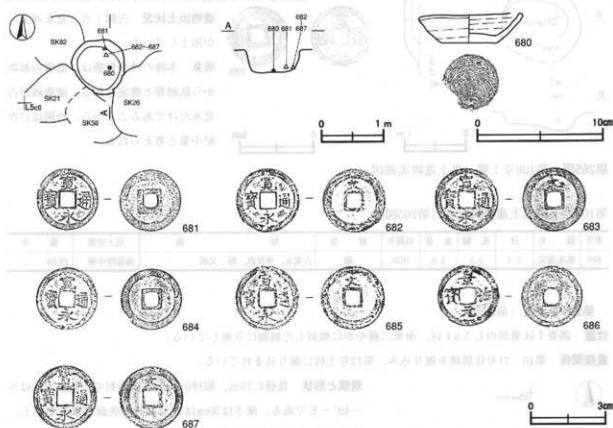
## 第95号土壌(第264図)

**位置** 調査I区東部のL5b6区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

**重複関係** 第13号住居跡・第82号土壌・第4号溝を掘り込み、第21・26・58号土壌に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.90m、短径0.85mの円形で、長径方向は $N-41^{\circ}-W$ である。深さは40cmほどであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿), 古銭7点(寛永通宝6, 景祐元宝1)と骨片が出土している。土師  
 所見 本跡の埋葬状況は, 遺構の形状から座葬と推定される。副葬銭が文銭主体に北宋銭が混じる状態である  
 ことや出土土器から, 時期は17世紀後葉と考えられる。



第264図 第95号土壌・出土遺物実測図

第95号土壌出土遺物観察表(第264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
680	土師質土器	小皿	8.2	2.4	4.4	雲母・スクリップ	靑	普通	口縁部及び体内内・外面口ロチ。底部内面口ロチナテ	東部壁際下層	95% PL59

番号	銭名	径	孔径	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
681	寛永通宝	2.4	0.5	3.6	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL69
682	寛永通宝	2.5	0.6	3.5	1668	銅	文銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL70
683	寛永通宝	2.5	0.6	3.4	1668	銅	文銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL70
684	寛永通宝	2.5	0.5	3.1	1636	銅	古寛永, 無背銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL69
685	寛永通宝	2.5	0.6	3.0	1668	銅	文銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL70
686	景祐元宝	2.5	0.6	2.0	1034	銅	北宋銭, 無背銭	北部壁際下層	PL70
687	寛永通宝	2.5	0.6	3.2	1668	銅	文銭, 銅一文銭	北部壁際下層	PL70

第108号土壌(第265図)

位置 調査Ⅱ区北部のD11g6区, 低台地上の平坦部に立地している。  
 規模と形状 長径1.26m, 短径1.20mの円形で, 長径方向はN-65°-Eである。深さは20cmほどであり, 底面は西側にやや傾斜を示し, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。



覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示してはいないが締まりが弱く、人為堆積と考えられる。



第265図 第108号土塚・出土遺物実測図

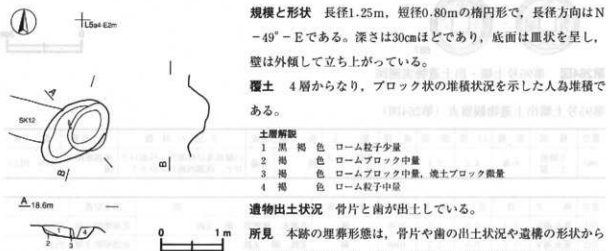
第108号土塚出土遺物観察表(第265図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
688	寛永通宝	2.4	0.5	2.8	1636	銅	古寛永、無背銭、剛一文銭	南壁際中層	PL69

第204号土塚(第266図)

位置 調査1区東部のL5a4区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第10・21号住居跡を掘り込み、第12号土塚に掘り込まれている。



第266図 第204号土塚実測図

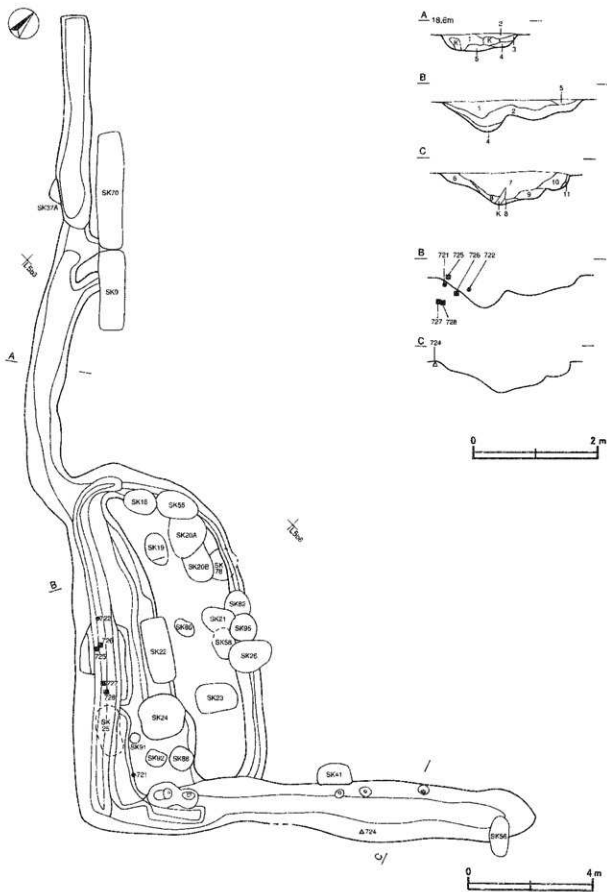
(5) 溝跡

第4号溝(第267・268図)

位置 調査1区東部のK5j2~L5c8区、南東に緩やかに傾斜した斜面に立地している。

重複関係 第8・10・11・13・14・21号住居跡を掘り込み、第9・20A・22・24~26・37A・41・55・82・88号土塚と第18・56・70・78・95号土塚に掘り込まれている。

規模と形状 K5j2区から南東方向(N-42°-W)に直線的に並び、L5b5区で3条に分かれている。中



第267图 第4号沟尖剖面

中央部の溝は北東側に段を有し、掘り方の形状から北東部と南西部の溝は後から拡張されたものと推定される。これらはL5d6区で1条に取束して北東方向(N-48°-E)に直角に曲がり、長さは51mほどが確認されている。規模は上幅0.30~2.00m、下幅0.10~0.80m、深さ27~50cmであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

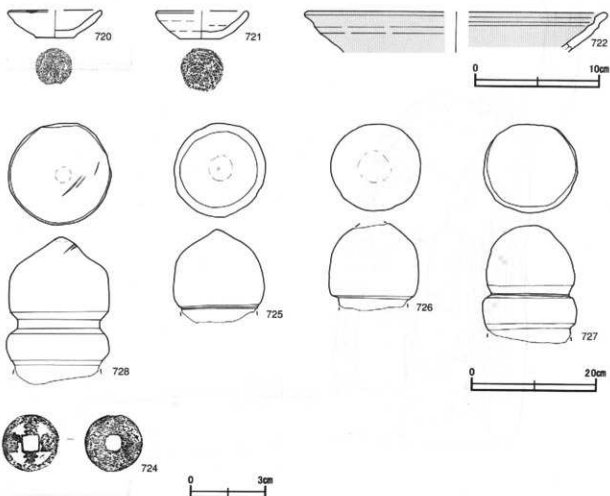
覆土 11層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |                        |        |                |
|-------|------------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量          | 7 暗褐色  | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量         | 8 褐色   | ロームブロック中量      |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 9 暗褐色  | ローム粒子少量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量        |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量         | 11 暗褐色 | ローム粒子中量        |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量           |        |                |

遺物出土状況 土師質土器片16点(小皿11, 内耳土器5), 陶器片11点(常滑片口鉢1, 常滑甕1, 瀬戸・美濃天目茶碗2, 瀬戸・美濃摺鉢2, 碗類5), 磁器8点(碗7, 染付皿1), 石塔24点(五輪塔空・風輪21, 五輪塔火輪1, 五輪塔地輪1, 宝篋印塔相輪部1), 鉄器1点(釘), 古銭1点(北宋銭か)と炭化材が出土している。

所見 本跡は、一部の土墳墓と重複してはいるが、土墳墓群の外側に位置しており、墓域を区画する機能を有していたと考えられる。出土土器から時期は16世紀後半と考えられる。



第268図 第4号溝出土遺物実測図

第4号溝出土遺物観察表（第268図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
720	土師質土器	小皿	[7.3]	2.2	3.0	赤褐色-137	黄橙	普通	底部内面割整不明	溝10中	65.9-6.7cm
721	土師質土器	小皿	[7.1]	2.2	3.2	赤褐色-137	にぶい橙	普通	底部内面一方向の指ナテ	中央部	15%
722	陶器	鉢鉢	[23.8]	[13.3]		石英	灰黄色、緑青	良好	口縁部内・外面クロコナテ	中央部	5. 溝10-6.5cm 人形部小皿

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
725	五輪塔	[14.9]	14.4	15.0	(3790)	花崗岩	空輪と風輪上端部	中央部	
726	宝篋印塔	[14.1]	14.3	14.0	(3450)	花崗岩	相輪部宝珠	中央部	
727	五輪塔	[19.0]	14.9	14.2	(4290)	花崗岩	空風輪、風輪下部欠損	中央部	PL67
728	五輪塔	[25.5]	16.5	16.2	(7950)	花崗岩	空風輪と火輪上端部、石五輪塔	中央部	PL67

番号	銭名	孔径	孔間	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
724	不明	3.5	0.6	2.5	--	銅	北宋銭か	北東部	P1.68

第31号溝（第269～271図）

位置 調査IⅠ区北部のI4i5～I5b3区に位置し、低台地上の平坦部に立地している。

重複関係 第53号住居跡を掘り込んでいる。また、第13号掘立柱建物跡・第32号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 I4i5区から南東方向（N-75°-W）に直線的に延び、I4j0区で北東方向（N-16°-E）に直角に曲がり、長さは56mほどが確認されている。規模は上幅1.10～2.01m、下幅0.40～0.80m、深さ80cmほどで、形状は箱築研状を呈している。I5g2区周辺の底面で、長径20～35cm、短径15～30cmほどの不整楕円形の浅い凹面が多数確認されている。

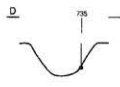
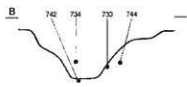
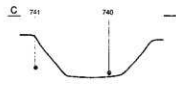
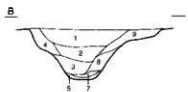
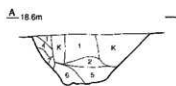
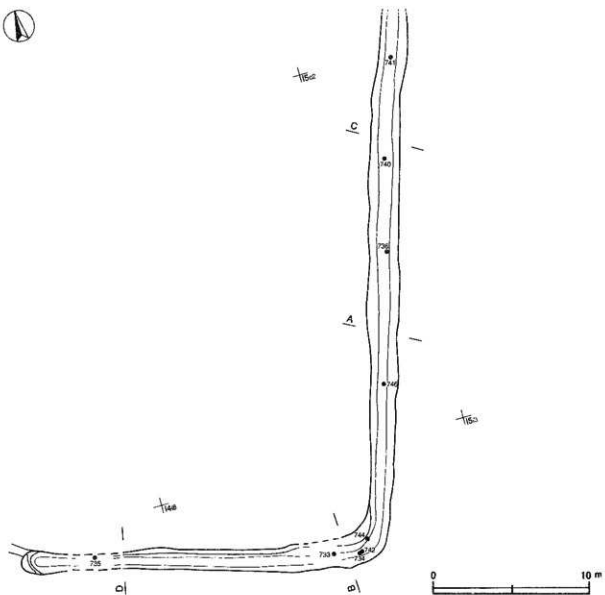
覆土 9層からなる。掘り抜きの跡が確認され、第1～4層は掘り抜きの後の覆土で、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。縦際に堆積した覆土が掘り残されており、溝がある程度埋没してから掘り抜が行われたと考えられる。

土層解説

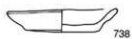
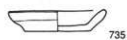
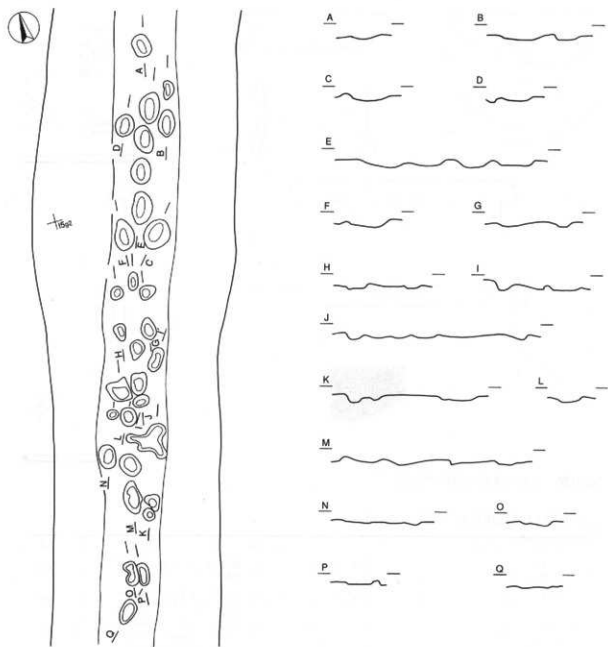
1 黒褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・鉄分少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・鉄分微量	8 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片121点（小皿118、鉢類3）、陶器片17点（常滑甕8、古瀬戸瓶子2、古瀬戸折縁皿1、碗類6）、磁器3点（青磁碗2、青磁花瓶1）、石器1点（砥石）、鉄滓1点と、混入したと考えられる土師器片409点、須恵器片99点が出土している。

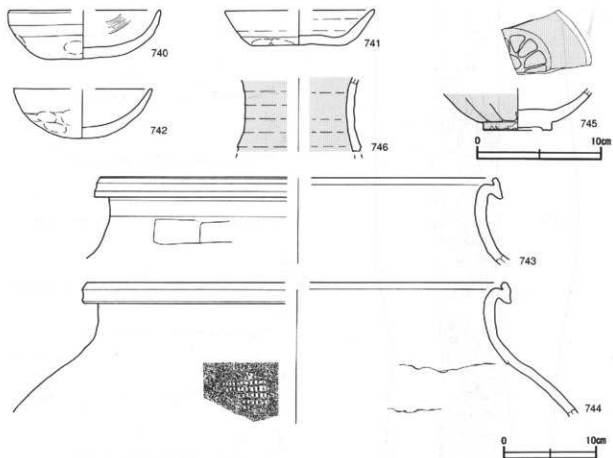
所見 本跡は、北東方向の軸が第3・4・10号掘立柱建物跡の桁行き方向と、南東方向の軸が第11号掘立柱建物跡の桁行き方向と一致することから、これらの掘立柱建物跡群を区画する機能を有していたと考えられる。本跡に伴う出土土器の内、約84%が土師質土器小皿で占められており、区画内で供宴などの儀礼的行為が行われたと想定される。出土土器から時期は13世紀後半には構築されており、14世紀前半まで機能していたと考えられる。



第269图 第31号沟尖测图



第270图 第31号沟·出土遗物实测图



第271図 第31号溝出土遺物実測図

第31号溝出土遺物観察表 (第270・271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
733	土師質土器	小皿	7.8	1.7	4.9	雲母・スコリア	橙	普通	底部内面一方向の指ナデ、底部回転へラ切り・スノコ状圧痕	中央部下層	100% PL60
734	土師質土器	小皿	8.3	2.4	—	黒色靫子・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面回転ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	中央部下層	90% PL60
735	土師質土器	小皿	7.5	1.7	5.2	雲母・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面スノコ状圧痕	西部下層	90% PL60
736	土師質土器	小皿	7.8	2.1	—	砂粒・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面回転ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	北部下層	90% PL60
737	土師質土器	小皿	8.3	2.4	4.3	雲母・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	覆土中	70%
738	土師質土器	小皿	8.6	1.9	5.9	雲母・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面スノコ状圧痕	覆土中	60%
739	土師質土器	小皿	12.3	4.0	7.0	長石・スコリア	浅黄橙	普通	口縁部及び内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面スノコ状圧痕	覆土中	90% PL60
740	土師質土器	小皿	[12.0]	4.0	—	長石・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	北部下層	60%
741	土師質土器	小皿	[12.0]	2.8	[7.4]	雲母・パミス・スコリア	灰白	普通	口縁部及び内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	北部下層	50%
742	土師質土器	小皿	[11.0]	4.0	—	長石・スコリア	橙	普通	口縁部及び内・外面横ナデ、底部内面一方向の指ナデ、底部外面指オキエ後ナデ	中央部底面	40%
743	陶器	甕	[41.8]	(9.1)	—	粘土・スコリア	黒灰	良好	口縁部内・外面横ナデ、底部外面へラナデ	覆土中	5% 常流6型式
744	陶器	甕	[44.4]	(14.2)	—	粘土・スコリア	黒濁	良好	口縁部内・外面横ナデ、底部内面横ナデ	中央部下層	5% 常流6型式
745	磁器	青磁碗	—	(3.4)	5.3	気泡・白色靫子	浅黄色、オリーブ緑色軸	堅緻	軸筋薄く細かい貫入あり、軸は底付まで附かる。体部外面片割れの遺存文	中央部	10% 竜泉窯系

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
746	磁器	青磁花瓶	—	(5.9)	—	気泡・白色粒子	灰白、灰緑色軸	堅緻	軸層薄く貫入あり、没け掛りか	北部下層	5% 遼泉窯系

### 第32号溝 (第272図)

位置 調査Ⅰ区北部のⅠ4f6～Ⅰ4i5区に位置し、微高地上の平坦部に立地している。

重複関係 第31号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 Ⅰ4f6区から南方向(N-16°-E)に直線的に伸び、Ⅰ4i5区で第31号溝と繋がり、長さは12mほどが確認されている。規模は上幅0.24～0.56m、下幅0.10～0.30m、深さ20cmほどで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層からなり、おもに東側から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                 |       |           |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量   | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量         |       |           |



第272図 第32号溝実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)と、混入したと考えられる土師器片37点、須恵器片3点が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 本跡の出土土器が細片で時期判断は困難であるが、長軸方向から第31号溝や第3・4・10・11号掘立柱建物跡との関連が考えられ、時期は第31号溝と同時期と推定される。

### 第33号溝 (第273図)

位置 調査Ⅱ区南部のE10g2～D10h6区、第1号掘立柱建物跡から20mほど北東の低地上の平坦部に立地している。

重複関係 第168号土坑を掘り込み、第167・169・410・412号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 D10h6区から南西方向(N-40°-E)へ直線的に伸び、E9f0区では南東方向(N-47°-W)にはほぼ直角に曲がり、長さは49mほどが確認されている。規模は上幅0.47～1.88m、下幅0.24～1.58m、深さ20cmほどで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

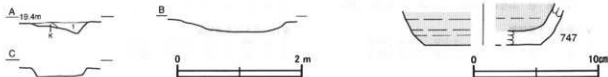
覆土 単一層で、覆土が薄く堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿3、甕・鉢類2)、陶器片1点(古瀬戸瓶子)が出土している。

所見 本跡は、北東方向の軸方向が第1号掘立柱建物跡の桁方向と一致し、第1号掘立柱建物跡の区画溝と推定される。出土土器や第1号掘立柱建物跡との関連性から、時期は16世紀が想定される。



第273図 第33号溝・出土遺物実測図



第33号清川土遺物観察表 (第273図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色	裏	施成	手法の類型	出土位置	備考
717	陶器	煎瓶	—	(3.3)	[9.2]	赤・白色粒子	灰白、黄緑色灰釉		良好	修部内外面ロクロナデ、底面静化糸入り、縁は返し掛けまたは返し掛け	覆土中	5% 赤江、土器、大塚

4 その他の遺構

(1) 土坑 (第274～297図)

ここでは、「3 中・近世の遺構と遺物」で記述した土壇墓以外の土坑について一覧表にて紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。また、図示した遺物については出土遺物観察表で記載した。

なお、第91・92・131・135・158・159・214・235・238・268・291・292・301・302・504・513・526号土坑は、上層断面から柱穴と考えられるが、それぞれの周辺に関連する柱穴が存在しないため、土坑として扱った。

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量、ローム粒子・焼土粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 小石多量、ローム粒子微量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第33号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック少量

第42号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第45A号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第45B号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第45C号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

**第46号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 川褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック少量

**第48号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 10 泥色 粘土粒子・砂粒微量

**第49号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第50号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第53号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第54号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

**第56号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第57号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第60号土坑土層解説**

- 1 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量

**第61号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第63号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第64号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

**第67号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

- 6 褐色 ロームブロック少量、砂粒微量

- 7 暗褐色 ローム粒子少量

**第68号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

**第69号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック微量

**第70号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量

**第74号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第75号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

**第77号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

**第78号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第83号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第91号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第92号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

**第97号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第98号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

**第99号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

**第100号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

**第101号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

**第102号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第103号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第104号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

**第105号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

**第106号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

**第107号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

**第110号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

**第111号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

**第112号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

**第113号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量

**第114号土坑土層解説**

- 1 濃い褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第115号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

**第116号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第117号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第119号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

**第121号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

**第122号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第125号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第126号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第127号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第128号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化物・砂粒微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第129号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第130号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第131号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第134号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第135号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第136号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

**第137号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第138号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第139号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

**第140号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第141号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第142号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

**第143号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第144号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第146号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第147号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第148号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量

**第150号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第151号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第154号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第156号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第157号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第159号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第160号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

第161号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第162号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第163号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第164号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第165号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第166号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第167号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第168号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第169号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第171号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第173号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第175号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第176号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第177号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量

第178号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子微量

第179号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第181号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第182号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第185号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量

第186号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第187号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第188号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第189号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第190号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量

第191号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第196号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第197号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量

第198号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

第200号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第203号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第208号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第211号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第212号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒下・炭化粒子微量

第213号土坑土層解説

- 1 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第214号土坑土層解説

- 1 褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒下・砂粒少量, 炭化物・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

**第215号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**第216号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

**第220号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

**第221号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

**第223号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第224号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第226号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

**第227号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第228号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

**第229号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第231号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量

**第232号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第233号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第234号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第235号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

**第236号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第238号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第239号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第240号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第241号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第242号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

**第243号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

**第244号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック少量

**第245号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第246号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第248号土坑土層解説**

- 1 暗赤褐色 ロームブロック微量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック少量

**第249号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

**第250号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

**第251号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第252号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第253号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

**第254号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第255号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・砂粒・焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量

**第256号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量

**第257号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

**第258号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

**第262号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第266号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第269号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第270号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

**第271号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量

**第272号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第273号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**第274号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第275号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第276号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第277号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量

**第279号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック微量

**第280号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

**第281号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

**第282号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

**第283号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

**第284号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒少量

**第285号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

**第286号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**第287号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

**第288号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

**第289号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

**第290号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子微量

**第291号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量